

令和四年度

躍動



研究集録

第14号



北海道小樽高等支援学校

校訓

感動

すばらしいもの、美しいものを、常に新鮮な気持ちで、素直に力強く主体的に受け入れ、様々な人の思いに共感する豊かな感性と思いやりに満ちた、潤いのある学校でありたい。

協働

生徒の自立、社会参加を目指し、家庭、地域、関係機関など生徒にかかわるすべての人々と、各々の責任と行動において相互に主体的に連携し、共に歩み続ける学校でありたい。

躍動

生徒を取り巻く環境を多面的、総合的に捉え、常に新たな発想で、生徒の輝く未来のために創造的に生き生きと活動する学校でありたい。



印刷・製本

小樽高等支援学校
環境・流通フロンティア科

目 次

はじめに	1
1 校内研究の概要	
□第6次研究の概要	3
□第6次研究計画（1年目）	4
2 研究の成果と課題	
□グループ研究の成果と課題	
①ICTグループ	1 2
②指導法グループ	1 9
③観点別評価グループ	2 9
④キャリア教育グループ	3 4
⑤道徳グループ	5 4
⑥授業づくりグループ	6 9
□第6次研究（1年目）のまとめ（成果と課題）	9 1
3 寄宿舍の研究	
□第5次研究（1年目）の成果と課題	9 6
4 校内研究に関連した取組	
□第44回北海道特別支援教育研究協議会全道研究大会の概要	1 0 3
□夏季校内研修会の概要	1 0 4
□冬季校内研修会の概要	1 0 5
□ICT校内研修会の概要	1 0 6
□校内研究交流会の概要	1 0 7
□教育課程検討委員会の取組	
学校経営計画の各学年経営計画・学科経営計画の見直し	1 0 8
教科情報の履修方法について	1 2 2
あとがき	1 3 1
執筆者一覧	1 3 2
研究集録バックナンバー一覧	1 3 3
共同研究者	1 3 5

はじめに

平成29年(2017年)に学習指導要領の告示、令和3年(2021年)1月に「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」、また、中央教育審議会総会にて「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(答申)、令和4年(2022年)12月に「改訂生徒指導提要」が示されるなど、学校教育を取り巻く環境は大きく変化しています。

これらの背景は、社会構造や産業構造の劇的な変化やコロナ禍にあり、従前の当たり前のことが当たり前とならないことなど、現在は将来の予測が困難な時代を迎え、子供たちが社会で生き抜く力の育成が強く求められていることです。これらの背景を踏まえ、学校教育におけるこれまでの成果を生かし、学習の質を一層高めるために、教育の本分である授業力の向上が一層重要になってきます。

本校では研究主題として「時代と社会の変化に敏感に対応できる力を高める実践的研究」と掲げ、第6次研究(3か年計画)として今年度から取り組みました。

今年度の研究内容は課題別グループ研究とし、①ICT、②指導法、③観点別評価、④キャリア教育、⑤道徳、⑥授業づくりを設定し、各グループにおいて文献や理論、アンケートなど様々な研究手法を用いて、各グループの課題解決に向けた検討を進めて参りました。その結果、各グループとも、文献や過去の研究成果、理論研究などを進めることで、基礎・基本を振り返り、新たな一歩を進めることができました。

次年度は、研究の成果を踏まえるとともに、今年度の課題解決を目指し具体的な授業実践を行います。

本校では開校以来、キャリア教育について「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(平成23年1月中教審答申)の意義をしっかりと理解し、社会的自立と職業的自立のバランスを考慮しながら、生涯学習の構築を見据えて、生徒の社会参加と自立に資する実践研究を進めて参りました。

私たちは、変化の激しい社会で生きる生徒達が豊かな生活を送るために、時代と社会の変化に敏感、かつ柔軟に対応できる教職員として学び続けて参ります。

つきましては、本研究集録を御一読いただき、御指導・御助言をいただきましたら幸甚に存じます。

令和5年(2023年)3月24日

北海道小樽高等支援学校長 児玉倫政

第6次校内研究
(令和4年度～令和6年度)

1年目

第6次 研究計画（R4～6）の概要

教育方針

R4年度（抜粋）

- 「OKSライフキャリアプラン」を活用し、キャリアカウンセリング、キャリアガイダンスの充実
- 対話能力の向上、他者と協動的・社会的にかかわろうとする態度の育成
- 学習指導要領に基づき、生徒一人一人に応じた個別の指導計画と両立した教育課程の編成・実施・評価
- ICTを活用した個別最適な学びと協動的な学びの両立

経営方針

R4年度（抜粋）

- 教職員相互による信頼と協力・協働により、チーム学校づくりに努める。そのために相互対話のためのスキルを身に付ける。
- 社会の動きに対応した創造的・組織的な校務遂行に努める。
- 職員の資質及び専門性の向上のための研究・修養の充実に努める。

重点目標

R4年度

- 「学び」と「地域」と「対話」で、今、新たなスタート
- 新学習指導要領を踏まえて、生徒と教師、生徒同士の対話による授業を通して、社会の構成員としての資質と能力を育む。
- 質の高い学校生活のために、地域との対話を通して効果的な学習環境を創造する。
- 生徒・保護者・地域との対話（つながり）を大切にし、職員一人一人が役割を明確にしながらかチーム力を発揮する学校をつくる。

研究主題

R4～6

『時代と社会の変化に敏感に対応できる力を高める実践的研究』（3か年計画）

設定の理由

- ・新学習指導要領の学年進行による実施スタート（これまでの研究を検証）
- ・可能性を引き出す「個別最適な学び」協動的な学びの実現
- ・多様な教育方法や学習活動の展開（ICTを活用した教育、GIGAスクール構想の実現）
- ・成年年齢の改正（R4年4月）に伴う指導内容等の検討
- ・第5次研究の課題＜キーワード＞（授業改善、評価基準の具体化、題材の整理、ICT機器の有効活用、対話場面の設定、情報交流）
- ・R4年2月実施の教職員アンケートより＜キーワード＞（ICT機器の有効活用、発達障害の特性とその理解、観点別評価、キャリア教育の充実、）

研究の課題

- 新学習指導要領を踏まえた教育課程の実践・改善・検証
- 多様な教育方法や学習活動の研究と実践
- 障がい特性とその対応に関わる研究

研究の内容

1年目：R4 ～課題解決に必要な理論を学び合う～
<input type="checkbox"/> 時代背景、第5次研究の課題、アンケートなどから研究課題を設定 <input type="checkbox"/> ①ICTを活用した教育【情報モラル、授業づくり等】 <input type="checkbox"/> ②発達障害の特性を踏まえた指導法【R3文科省・教育支援の手引き等】 <input type="checkbox"/> ③観点別評価を生かした授業【具体的な評価方法、記入例等】 <input type="checkbox"/> ④キャリア教育の充実【OKSライフキャリアプランの活用、カウンセリングの充実等】 <input type="checkbox"/> ⑤特別の教科 道徳の取組【年間指導内容、教材の充実等】 <input type="checkbox"/> ⑥主体的に対話的な深い学び【R3対話的な授業の検証、OKS授業フォーム等】 <input type="checkbox"/> 障がい特性とその対応に関わる研修（夏・冬長期休業中の研修会）
2年目：R5 ～学んだ理論を実践で試す～
<input type="checkbox"/> 学び合った理論に基づく、授業を通しての実践と検証① <input type="checkbox"/> 1年目の積み残しの研究内容
3年目：R6 ～学んだ理論を実践で深める～
<input type="checkbox"/> 学び合った理論に基づく、授業を通してのさらなる実践と検証② <input type="checkbox"/> 3年間の研究のまとめ

研究の方法

1年目：研究課題に基づくグループ編成
<input type="checkbox"/> 月1回の研究日を基本とする <input type="checkbox"/> 研究の進行は各グループ所属の研究係等で行う <input type="checkbox"/> 1月に校内研究交流会で成果の交流 <input type="checkbox"/> 全体研究、課題別グループ研究（課題解決に必要な複数のグループ） <input type="checkbox"/> 教職員の研究ニーズを把握し、グループ編成（主体的な取組へ）
2年目：研究課題に基づくグループ編成
<input type="checkbox"/> 月1回の研究日を基本とする <input type="checkbox"/> 研究の進行は各グループ所属の研究係等で行う <input type="checkbox"/> 1月に校内研究交流会で成果の交流 <input type="checkbox"/> 全体研究、課題別グループ研究（1年目の研究成果等も踏まえて） <input type="checkbox"/> 基本として1年目のグループに所属（研究の継続性へ）
3年目：研究課題に基づくグループ編成
<input type="checkbox"/> 月1回の研究日を基本とする <input type="checkbox"/> 12月に公開研究会で成果の発表 <input type="checkbox"/> 全体研究、課題別グループ研究（3年間の研究成果をまとめる） <input type="checkbox"/> 公開研究会（12月）

その他

- 研究の成果を毎年整理し「研究集録」として発行することを継続する。

第6次 研究計画（令和4～6年度 3か年計画 1年次）

1 主題

『時代と社会の変化に敏感に対応できる力を高める実践的研究』
～ 研究課題の解決に必要な理論を学び合う ～

2 設定の理由と課題

(1) 設定理由

＜ 1年次 ＞

ア 第5次研究のまとめ（課題）より

次の点について、さらに研究を深める必要がある。

○今回の研究を通して、明らかになった次のような授業改善の視点や授業づくりに関わる課題を今後の授業づくりに生かし、授業の充実に努めること。

- ・評価規準の具体化と題材の整理
- ・ICT機器の有効活用
- ・生徒同士の対話場面の設定
- ・授業者間の情報交流
- ・生徒の興味・関心に応える題材の設定
- ・その他

イ 第5次研究（3年次）終了時に行った職員アンケートより

○研究主題や内容としてふさわしいと思うキーワードとは（意見が多かったもの）

- ・ICT機器を有効に活用した授業 【23】
- ・発達障害の特性とその対応 【13】
- ・観点別学習状況の評価 【8】
- ・進路に応じたキャリア教育の充実 【6】

ウ 令和4年度経営計画より

(ア) 教育方針 ※校内研究とかかわりの深いものを抜粋。下線は係がキーワードとして記入

- ・キャリア・パスポートの理念を踏まえた「OKSライフキャリアプラン」を活用し、キャリアカウンセリング、キャリアガイダンスの充実に努める。
- ・対話（コミュニケーション）能力の向上を促し、他者と協調的・社会的にかかわろうとする意欲や態度の育成に努める。
- ・学習指導要領に基づき、生徒一人一人に応じた個別の指導計画と両立した教育課程の編成・実施・評価に努める。
- ・GIGAスクール構想に基づき、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの両立に努める。

(イ) 経営方針 ※校内研究とかかわりの深いものを抜粋。下線は係がキーワードとして記入

- ・教職員相互による信頼と協力・協働により、チーム学校づくりに努める。そのために、相互の対話（コミュニケーション）のためのスキルを身に付ける。
＜しっかりと伝える、感じる、確認する＞
- ・社会の動きに対応した創造的・組織的な校務遂行に努める。
- ・職員の資質及び専門性の向上のための研究・修養の充実に努める。

(ウ) 重点目標

「学び」と「地域」と「対話」で、今、新たなスタート

- 学びく教育 新学習指導要領を踏まえて、生徒と教師、生徒同士の対話による「OKS授業フォーム（型）」を通して、社会の構成員としての資質と能力を育む。
- 地域く経営 生徒の質の高い学校生活のために、コミュニティ・スクールでの運営委員と学校職員の対話を通して、効果的な学習環境を創造する。
- 対話く文化 キャッチフレーズをリノベーションして、生徒・教師・保護者・地域との対話を続けて、チーム力を発揮する学校をつくる。

(エ) 教育動向等

- 令和4年度入学生徒より高等部新学習指導要領の学年進行による着実な実施
- 「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」
(令和3年1月文部科学省 中央教育審議会答申)
- 新型コロナウイルスの感染拡大などの先行き不透明な「予測困難な時代」
- 多様な教育方法や学習活動の展開 (ICTを活用した教育、GIGAスクール構想の実現)
- 学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実 (令和4年4月1日からの成年年齢の改正に伴い高等部在学中に主権者に)

エ まとめ

これらを総合的に踏まえ、開校14年目にあたる今年度からの研究では、第5次研究「学習指導要領等の教育動向を踏まえ、教育課程の見直しと授業の充実を目指す実践的研究」の成果と課題を継承しながら、①新学習指導要領の実施、②コロナ禍での学校生活、③成年年齢の改正などに代表される「時代と社会の変化」に敏感に対応できる力を高めることが求められると考え、第6次研究主題を前述のように設定することとした。

さらに経営方針や重点目標にある「チーム学校づくり」や「創造的・組織的な校務遂行」の実現のために、「研究課題のニーズでつながる」ことをねらい、研究グループの編成を希望調査に基づいて行い、学年、学科の枠を超えた「対話でつながる」研究テーマごとの縦割り編成とした。これにより職員の自主性をさらに発揮し、実践に生かせる、楽しい、やりがいのある校内研究を目指したい。

(2) 研究の課題

設定の理由で述べたように、多くの研究課題を整理・分類したところ次の3点にまとめることができる。またグループの研究課題との関連は次のとおり。

- 新学習指導要領を踏まえた教育課程の実践・改善・検証
(観点別学習状況の評価を生かした授業、キャリア教育の充実、特別の教科 道徳の取組)
- 多様な教育方法や学習活動の研究と実践
(ICTを活用した教育、主体的で対話的な深い学び)
- 障がい特性とその対応に関わる研究
(発達障害の特性を踏まえた指導法)

3 仮説

- (1) 各年度で重点的に研究内容を絞り込んで組織的に取り組むことで、教育課程の実践・改善・検証が円滑に図られる。
- (2) 研究課題を分析し、課題解決に見合った研究体制を整えることで、効率的に研究活動が推進できる。
1年次は、研究グループの編成に当たり職員のニーズを把握することで、縦のつながりを深め、「対話」を通じた創意工夫のある、主体的な研究活動が期待できる。

4 年次計画

今年度から高等部学習指導要領の本格実施となることを踏まえ、教育課程の検証を図るために3か年計画とした。

年次	主な研究内容	研究の方法（体制）
1年次	重点 研究課題解決に必要な理論を学び合う <input type="checkbox"/> 時代背景、職員アンケートなどから研究課題を設定 ①ICTを活用した教育 ②発達障害の特性を踏まえた指導法 ③観点別学習状況の評価を生かした授業 ④キャリア教育の充実 ⑤特別の教科 道徳の取組 ⑥主体的で対話的な深い学び <input type="checkbox"/> 発達障がい特性とその対応に関わる研修 (8/2夏季研修会の実施、1/11冬季研修会の実施) <input type="checkbox"/> 学び合った内容の共有 (1/13 校内研究交流会の実施)	研究課題に基づくグループ編成 教職員の研究ニーズを把握し編成 月1回の研究日 全体研究 校内研究交流会（冬季休業中）
	重点 学んだ理論を実践で試す <input type="checkbox"/> 学び合った理論に基づく授業を通しての実践と検証① <input type="checkbox"/> 1年目の積み残しの研究課題 <input type="checkbox"/> 学び合った内容の共有 (1/13 校内研究交流会の実施)	
2年次	重点 学んだ理論を実践で深める <input type="checkbox"/> 学び合った理論に基づく授業を通しての実践と検証② <input type="checkbox"/> 3年目の研究のまとめ <input type="checkbox"/> 研究の成果の発表 (12月 公開研究会予定)	各教科等のグループを編成 学習内容等を効率的に検討できる体制
	<input type="checkbox"/> 学び合った理論に基づく授業を通しての実践と検証② <input type="checkbox"/> 3年目の研究のまとめ <input type="checkbox"/> 研究の成果の発表 (12月 公開研究会予定)	

5 内容と方法（1年次）

研究課題を効率的に検討していくために、今年度も「教科グループの構成」を参考にグループを編成し取り組むこととした。以下に各グループの具体的な取組を示した。

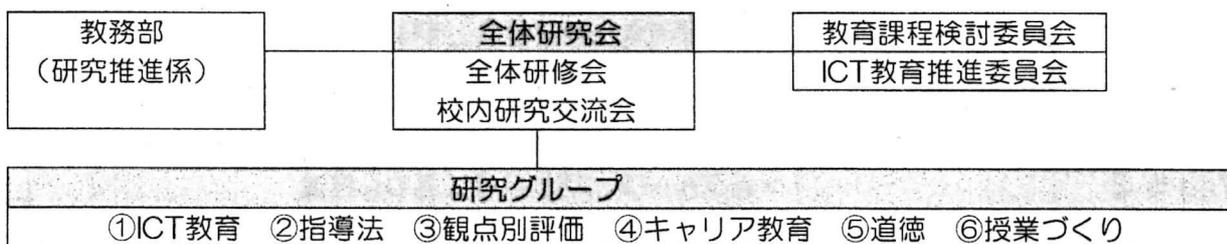
グループ名	具体的な取組
① ICT教育	【研究内容】～ICTを活用した教育 ○「教科 情報」における情報モラル等の指導内容の検討、年間指導計画の改善 ○ICTを活用した各教科の授業づくり ・その他必要な取組 ----- 【期待される成果】 ・指導内容の改善、年間指導計画の充実 ・授業実践事例の蓄積 ----- 【資料】 ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～ICTの活用に関する基本的な考え方（令和3年1月中教審答申） ・「どう進める？ 1人1台端末時代のICT活用」（特別支援教育研究5月号）

<p>② 指導法</p>	<p>【研究内容】～発達障がいの特性を踏まえた指導法 ○指導の困り感等の共有 →8月校内研修会への質問 ○発達障害の定義の確認（平成17年発達障害者支援法施行 LD, ADHD, HFP DD）、知的障害の特性の再確認 ○指導法等に関する文献や資料の発掘と役立つポイントの整理 ・その他必要な取組</p> <hr/> <p>【期待される成果】 ・発達障がいの特性や指導法に関する資料の蓄積と理解</p> <hr/> <p>【資料】 ・「新学習指導要領 高等部解説書 各教科の配慮事項」（令和3年） ・「障害のある子供の教育支援の手引き」（令和3年文部科学省 通知） ・「特別支援教育研究 特別支援教育の基礎知識 第2回～7回」（令和2年 東洋館出版社） ・「ケース別 発達障害のある子へのサポート実例集 中学校」（平成26年 ナツメ社） ・「研究紀要 第22号 高等学校における発達障害のある生徒への特別支援教育の推進」（平成21年北海道立特別支援教育センター） ・「PEARLS OF WISDOM 特殊教育のノウハウの活用」（平成16年北海道立特殊教育センター） ・「職場で使える虎の巻 発達障がいのある人たちへの8つの支援ポイント」（平成22年 札幌市）</p>
<p>③観点別評価</p>	<p>【研究内容】～観点別学習状況の評価を生かした授業 ○各教科の観点別評価基準に関わる具体的な目標設定や評価方法、記入例等の資料発掘 ○各教科の観点別評価基準に関わる具体的な授業を通じた実践交流 ・その他必要な取組</p> <hr/> <p>【期待される成果】 ・観点別学習状況の評価の理解、目標と評価の一体化、授業の充実</p> <hr/> <p>【資料】 ・研究集録 第12～13号（令和2～3年 小樽高等支援学校） ・「文例編 新しい学びに向けた新指導要録・通知表 中学校」（令和2年ぎょうせい） ・「特別支援教育における3観点の学習評価 通知表の文例集と記入例」（令和4年 明治図書）</p>
<p>④キャリア教育</p>	<p>【研究内容】～キャリア教育の充実 ○OKSライフキャリアプランの理解と活用 ○キャリアカウンセリングの充実 ○キャリアパスポートの取り組み方の検討 ・その他必要な取組</p> <hr/> <p>【期待される成果】 ・OKSライフキャリアプランの理解の推進とキャリアパスポートの位置付けの明確化</p> <hr/> <p>【資料】 ・研究集録 第13号（令和3年 小樽高等支援学校） ・「キャリア・パスポートの様式例と指導上の留意事項」（平成31年3月文部科学省 事務連絡） ・新学習指導要領を踏まえたこれからのキャリア教育ガイド～特別支援教育の実践情報10/11月号」（平成2年 明治図書）</p>
<p>⑤道徳</p>	<p>【研究内容】～特別の教科 道徳の取組 ○年間指導計画の学年進行に合わせた指導内容の検討</p>

	<p>○具体的な教材の発掘と内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他必要な取組 <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の年間指導計画の充実、具体的な教材等の充実 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究集録 第13号 道徳年間指導計画（令和3年 小樽高等支援学校） ・「知的障害教育における特別の教科 道徳の展開」（令和2年7月 東洋館出版社） ・「子どもの心にジーンと響く道徳小話集 小学校」（明治図書） ・「私たちの道徳 教材別ワークシート集 中学校」（明治図書）
⑥授業づくり	<p>【研究内容】～主体的で対話的な深い学び</p> <p>○「主体的で対話的な深い学び」の実践事例の発掘</p> <p>○令和3年度「対話的な授業」の確認と検証</p> <p>○OKS授業フォームの検討（略案、指導案、単元・計画題材）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他必要な取組 <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的で対話的な深い学び」の視点を取り入れ授業の充実 ・新しい授業フォームの提案（略案、指導案、単元・計画題材） <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究集録 第8号 アクティブラーニングと合理的配慮を踏まえた授業づくり（平成28年 小樽高等支援学校） ・研究集録 第13号 「対話スタイルの授業づくり」（令和3年 小樽高等支援学校） ・「アクティブ・ラーニング 実践の手引き」（平成28年 教育開発研究所） ・「図解 アクティブラーニングがよくわかる本」（平成28年 講談社）

6 体制

(1) 組織図



(2) グループメンバー

チーフ（推進、まとめ）はグループ内で話し合って選出してください。司会、記録者などは輪番等で行ってください。月1回の「研究日」を有効に活用し、日によって参加者が少なくても極力延期せず、複数揃ったら活動を行いましょ。参加できなかったメンバーとも書面等で内容の共有をしましょ。各グループに研究推進係を配置していますので、推進上の相談をしてくださ。活動時は、教室の換気・適切な距離などよろしくお願ひします。

下線は研究係

↓チーフ所属教室等

名 称	メンバー						場 所
① ICT教育	山田宏 鈴木宏 山田真	中野 富山	小山	鈴木美 志賀 小蕎 平賀雄	大川 大野	12	視聴覚室
② 指導法	梅本 小野	兼平 香城	石川 松崎 濱谷 藤巻	岩川 菊田 俵	小早川 武澤 関川	16	会議室
③ 観点別評価	大西 奥村	富加見	松本 中村	佐々木み 山森 横堀	三上	9	音楽室
④ キャリア教育	内藤 牟禮	山本	小谷 奈良	成松	大久保 鈴木有	10	家庭科教室
⑤ 道徳	田村 平賀真	茶谷	長田 齋藤	岡田 山末	大谷 上村	9	美術室
⑥ 授業づくり	森谷	大瀧	浅井 高橋 小松 佐々木美	新山 池本	港 前川	10	理科室

7 推進日程

月	研究日	全体研修等	研究の内容
4	(28)	21 職員会議	第6次研究計画 3年次計画 概要の周知 ※当初設定されたが細案提案は1か月遅れに。
5	12		第6次研究計画 3年次計画 細案の周知 ※2年目からは、5月からグループの活動開始
6	17 ①		<ul style="list-style-type: none"> 各グループの体制確立、研究内容の確認 年間活動計画の検討
7	15 ②		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進
8	25 ③	2 夏季校内研修会	「発達障がい特性とその対応(仮)」 <ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進
9	22 ④		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進 研究状況の中間発表(研究だより:紙面)
10	21 ⑤		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進
11	17 ⑥		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進

12	15 ⑦		<ul style="list-style-type: none"> 各グループ 活動計画に基づく推進 研究の成果と課題の検討、1月交流会の準備
1	13	11 冬季校内研修会 13 校内研究交流会	「発達障がいの特性とその対応（仮）」 <ul style="list-style-type: none"> 各グループの研究成果の発表交流
2	16	16 全体研究	<ul style="list-style-type: none"> 研究の成果と課題のまとめの確認（係提案）
3			研究集録第14号印刷
4			研究集録第14号丁合、製本、発行

8 参考資料

- *今年度は「課題解決に必要な理論を学び合う」ことを重点としています。研究推進係としても参考資料を提示しますが、各グループにおいても皆さんで協力して発掘するようお願いします。
- *毎月の研究日に向けて、研究推進係から「共通レジュメ」「研修資料・ワークシート」を提示します。チーフの先生は、必要分を用意願います。必要に応じて、データをデスクトップに張り付けてグループ研究に臨んでも結構です。（ペーパーレスで資源節約）

9 研究計画の全体構造

- ・第6次 研究計画（令和4～6年度）1年次の概要 <別紙> ※4月21日職員会議提案

グループ研究の成果と課題

【ICTグループ】

ICTグループでは、「ICT活用グループ」と「モラルグループ」に分かれて今年度の研究を進めた。今年度の研究は二つのグループについて、それぞれ成果と課題をまとめる。

ICT活用グループ

1 成果

(1) 作業学習に焦点を当てた研究推進

ア 作業学習を選択した経緯

グループ研究を始める時点で、本校ではICT機器の1人1台端末は実施されていないが、一部の教科では学校所有のタブレット端末やアプリを使っての学習が始まったところであった。また、ICT教育推進委員会主催の研修会の実施により、ICT機器を活用しての学習活動の必要性が周知された。

本研究グループ内で、ICT機器を活用した学習活動をどのように構築していったら良いかについて話し合った際、①各教科については、研修会の実施や先駆的に始めている授業を手本にして取り組むことが可能であること、②本研究グループのメンバーを見ると、各学科で作業を担当している先生方が多かったこと、③作業学習でどのようにICT機器を活用したら良いか見通しが持てていなかったこと、以上の点から、「作業学習の中でどのように活用していくのが良いか」を研究の主題とすることとした。

(2) 各学科で取り組み可能な活動と実践例

ア 各学科の課題の洗いだし

各学科で、想定できる実践可能な活動を、洗い出し、可能性と課題について検討をした。

表1 各学科の意見集約

各学科からの意見	作業学習で活用できる場面
生産技術科	工程表、日誌、マニュアル
木工科	東京おもちゃ美術館との打ち合わせ (Zoom) 工程表
環境・流通 サポート科	検定、工程表、流通学習 外部販売のデータ集約など (各学科と連携が必要)
家庭総合科	工程表、日誌、マニュアル
福祉サービス科	手本、ジャムボード、出席状況確認、 アンケート、伝票、マニュアル、 授業での動きの確認

話し合いの中で、作業日誌をデータ化することで比較しやすくなるのではないかという意見もあったが、作業日誌については各学科で統一性がないこと、作業日誌と現場実習の日誌をリンクをしている学科もあり、急な変更が難しいという意見もあり、今後の課題となった。

イ 実践例 木工科

今年度タブレット端末を積極的に使用している一例として、木工科の実践報告がありグループ内で交流を図った。

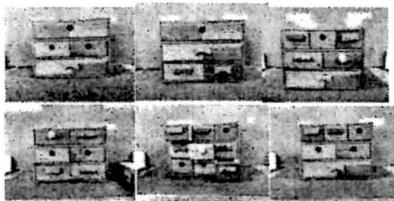
(ア) 木工科の取り組み(成果)

木工科3学年では、学校祭において、生徒向け販売をする際の方法としてタブレット端末をレジとして活用した。また、卒業制作に取り組む際、生徒個々人のイメージやサイズを具現化するために検索したり、図案化する際にタブレット端末を活用した。今までは、言葉や図面上でしかあらわされなかったものが、具体物と比較することでよりイメージしやすく、制作に向けての意欲につながった。



図 タブレットを使用して製品を検索中

木工科2学年では、「元さん工房」の活動に取り組む際のチラシ作りや注文をとる際の説明で使う際にタブレット端末を活用した。チラシ作成にタブレット端末を使い、協同で行うことで生徒の対話が増えた。また、それまで注文をとる際は言葉での説明をすることが多く、お客様に伝えるむずかしさがあったが、端末の画像を見せながら説明することで、お客様にも分かりやすい説明をすることができた。

特徴	
引き出しの組み合わせ	
	<ul style="list-style-type: none">・大中小の引き出しを様々な組み合わせで入れることができます。・ととの形も様々な種類があります。

元さん工房	
2年木工科13代目	
製品 ドロワーボックスII	
	価格2,000円(予定)
申し込み用紙	
氏名: _____	

(イ) 木工科の取り組み(課題)

タブレット端末は、調べ学習や計算において効果的に使用することができた。しかし、作業学習では、それ以外の方法で使用する機会が少ないように感じられた。

2 課題

(1) 作業学習におけるICT活用

作業に付帯する調べ学習で機器を活用することは可能だが、作業内容に機器を活用するのは難しいという意見が多かった。具体的な作業内容として、福祉サービス科でのカフェ営業で注文をとるためタブレット端末を活用する、家庭総合科の製菓実習の工程や生産技術科の紙工実習の工程の画像(映像)データをタブレット端末に入れておき生徒が必要に応じて活用するという案も話し合いの中では出たが、今の段階で現実化するのには難しいという結論に達した。

(2) 視点を変えて

作業日誌をデータ化し、反省を蓄積することで生徒自身が次の課題に進む、日々の作業の成果や課題を現場実習の課題とリンクさせ、主体的な学びや卒業後の生活に向けた取り組みに寄与する使い方もできるのではないかと考えられる。

作業学習そのもので機器を使うことにとらわれず、「筆記用具」として使うことから始めても良いのではないかと考える。

3 今後に向けて

(1) ICT活用と教科「情報」へ期待すること

教科「情報」の学習内容については、PCの基本操作、Word・Excel・PowerPointといった基本的なソフトやアプリの操作の習得がなされていることを基本とし、作業学習の場面でも学習を進めやすいという意見になった。また、情報モラルなど、社会人としての基本のルール、マナーの習得を目指した学習内容も合わせて必要であることも再確認された。

(2) 教科「情報」の見直し、改訂

令和6年度から2学年の教科「情報」を実施することとなった。そこで、今まで1年間で行っていたコンピュータ等の情報機器操作の習得を図りながら、情報を適切に活用する基礎的な能力や態度を育て、情報社会に主体的に参画するために必要な資質・能力の育成が、生徒の実態に応じて行われることになる。そこで、年間指導計画だけではなく、基底となる指導計画を見直し内容を2段階に分け、それぞれの指導目標の設定を行った。

(3) 教科「情報」から教育課程検討委員会への提言

現在のタブレット端末には、Word・Excel・PowerPointの機能を含むMicrosoft365(以下MS365)の機能が備わっていない。現在コンピュータ教室で使用しているコンピュータは、令和7年で期限切れとなる。今後も現在の学習内容を継続的に行っていくためには、タブレット端末へのMS365の機能の搭載が必要であるが、本校ではどのような方針にするか検討が必要である。

モラルグループ

1 成果

(1) モラル教育の必要性について

本校では、今年度より1人1台端末の導入が決まっており、令和4年10月7日(以下年号略)に配付することが決定していた。反面、生徒の中では、自分の端末でもSNSトラブルが多くあり、指導の観点の一つとなっている。そのような状況の中で、1人1台端末を各学級で指導するとなったときに担任は指針が必要だと思うだろう。そこで、このグループは担任が構成メンバーに含まれていたこともあり、学級で指導するモラル教育と、集団で教えるモラル教育はどのような方向性であれば学級で指導しやすいかということに視点を当てて研究を進めていくこととした。

(2) タブレット端末配付前と配付後

ア タブレット端末配付前

タブレット端末配布前の研究では、①予想される教育効果、②予想されるトラブルや課題、③タブレット端末を使用することで生徒に期待すること、④現時点でできる課題解決策の四点についてKJ法を使ってまとめた。

②については、技術的・思考的な課題(ソフト面)と物理的な課題(ハード面)の二点でまとめられた。①と③については、相乗効果を期待してまとめた。まとめた内容は、表2・3・4の通りである。



図 KJ法により課題解決方法を出す

表2 課題（ソフト面）

課題	具体的な予想	解決策	検討事項
タイピング 力不足	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字入力ができない ローマ字が分からない ローマ字入力のためのグループ別学習が必要になる 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報」の中で練習する 国語や外国語でローマ字について学習する →生徒同士での教え合いの促進 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがな入力やフリック入力を認めるのか
写真撮影	<ul style="list-style-type: none"> 許可なく撮影したり、第三者に流すのではないか →いじめにつながる行動 写真を撮り過ぎて容量がいっぱいになり、学習課題が保存できない 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習以外で使用しない ◎必要のない画像は消去する ※iPad 配付時に『約束ごと』として学級で指導 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルの作成（ICT 教育推進委員会） ↓ 適時、委員会で議題に挙げ、方向性を示している
メモ機能	<ul style="list-style-type: none"> メモ帳代わりに使う メモ機能を悪用して、友だちの悪口を書き込み、他者と共有する。 →いじめにつながる行動 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習以外に使用しない ※休みの時間の使い方を学級で指導 	<ul style="list-style-type: none"> 指針は ICT 教育推進委員会で出す。必要に応じて指導部等関係部署と連携

表3 課題（ハード面）

課題	具体的な予想	解決策	検討事項
物品管理	<ul style="list-style-type: none"> 置き忘れ 充電器のいたずら 他人の物を持ち出す 破損(落とす・ぶつける) 	<ul style="list-style-type: none"> 学級で管理する場合は、学級担任が把握をする 持ち出し方法についてマニュアル確認する 『自己管理、自己責任』の意識 	<ul style="list-style-type: none"> ICT 教育推進委員会へ→バッグ購入の必要性→解決済み 端末の検索機能は使えるのか？
物品管理	<ul style="list-style-type: none"> 高価なイヤホンを持参する 	<ul style="list-style-type: none"> 高価な物を持ち込まないよう学級で指導 	<ul style="list-style-type: none"> イヤホンの使用については検討中
アカウント管理	<ul style="list-style-type: none"> ログインパスワードを忘れる 	<ul style="list-style-type: none"> 担任とやりとりをする（全体周知） 	<ul style="list-style-type: none"> ICT 教育推進委員会へ →ICT 担当で一括管理

不要アプリのインストール	・ゲームなど入れようとして警告される	・アプリは一括管理 iPad 配付時に周知する	・アプリの精選 →各教科の要望の吸い上げ
--------------	--------------------	----------------------------	-------------------------

表4 教育効果と生徒に期待すること

効果	具体的な予想	問題点	解決策
主体的学び	・生徒の方が使い方に慣れている ・飲み込みが早い	・生徒の質問に教師が答えきれない	研修の充実
主体的学び	・授業中に集中力が増す ・好きな課題に取り組める	・切り替えができない ・分からない生徒はおいで行かれる	ST の配置などで対応可能
協働	・得意な生徒が苦手な生徒に教える → 対話が生まれる	・夢中になりすぎる	声かけ等の指導

配布前に、ICT教育推進委員会で提案している学級での管理方法を研究グループ内でも検討し、管理方法の煩雑さや、学習で使用する際の教師側のスキルアップの必要性について意見が出された。

それらについては、モラルグループの多くのメンバーが、ICT教育推進委員会も兼務していることを生かし、直近の委員会内で課題として提案し、タブレット端末用バッグの購入やログインパスコードの集約方法の提示、学級管理の方法の簡素化等、事前に解決方法を見いだすことで、生徒へのタブレット端末配布前に解決できた事柄も多くあった。

イ タブレット端末配付後

10月7日に全校一斉にタブレット端末を配付し、利用規約の確認及びタブレット端末へのログインパスコードの設定を学級指導で行った上で、各教科で活用してもらった。タブレット端末活用後の課題として挙げた事柄を表5に、今後、利用が進むことでさらに予想される課題については表6にまとめた。

表5 タブレット端末配付後の課題

生徒の様子の変化	課題	解決策	備考
キーボードが配付されたことによりタイピング練習をする生徒が増えた	終了時間が守られない	始める前に約束時間を確認する	
写真管理～AirDropを生徒同士で勝手に使う	規約が遵守できていない	学級指導での徹底	iPad 規約に明記されている
パスコード忘れ	メモし忘れ	担任・ICT 担当との共有	管理 PC で一括管理中
学習活動に関係ない利用が見られた	教師側の共通認識不足と指導不足	学年主任や指導部と連携し規約の徹底をする	iPad 規約を再度確認

(YOUTUBE 視聴等)			学級でばらつきがないように学年で指導を追う
<u>いじめにつながる行動は今のところ見られない</u>	<u>今度の動向を見守る</u>	<u>早い段階で状況を把握し、放置しない</u>	<u>学校全体の問題としてとらえ、周知する</u>

表6 今後予想される課題

カテゴリ	課題	解決策	備考
学習に関すること	アカウント管理	教科や学級での指導	HR 担当との共有
	GWSを使った学習についてこられない生徒への対応	個別対応が必要か	教師側のスキル向上
物理的な事象	破損や紛失	学級指導 生徒の物品管理能力の向上	管理 PC で一括管理中
家庭において	Wi-Fi 接続 (家の Wi-Fi、フリーWi-Fi) 写真の加工や共有物の破損	学年主任や指導部と連携し規約の徹底をする	iPad 規約を再度確認 学級でばらつきがないように学年で指導を追う
<u>いじめにつながる行動</u>	<u>メモ機能の悪用 安易な写真撮影</u>	<u>早い段階で状況を把握し、放置しない。</u>	<u>学校全体の問題としてとらえ、周知する。</u>
写字能力の低下	検索することで知ることではできるが書くことが減るのではないか	教科毎のバランス	シラバスでの明記化が必要か 今後の検討事項

今までは、学校所有の端末を貸し出して授業を行っていたが、端末の台数が少なく、使用したい授業が重複するといった課題も多かった。1人1台端末になったことにより、生徒の中には学習意欲が高まり自主的な学びを進める生徒も出てきている。今のところ、目立ったトラブルも見られず、規約を遵守して使用している様子が見られている。

教師側も、学級指導をするにあたって、不明な点はICT担当者に確認してから生徒に回答する、授業での活用についての研修会への参加といったように、意識の高まりも見られている。

2 課題

(1) 学習する場面と学習内容

生徒に対するモラルの学習については、外部講師の招聘や全校集会、教科「情報」などの『設定された場面での学習』と、学級指導や使用している授業ごとで伝えられる日常的な場面での学習』が必要である。

指導の在り方について、表7のフローチャートにまとめた。

モラルの学習については、学校全体で取り組むべき課題である。そのためには、全職員が『設定された場面での学習』内容について理解し、同じ視点で指導していく必要がある。

今年度、1人1台端末所有が始まったばかりであることを踏まえ、学級でばらつきがないよう、関係各所と連携して指導していく必要があることを



表7 モラル学習フローチャート

3 今後に向けて

(1) モラル教育の視点から教科「情報」へ期待すること

タイピング技術や文書作成などに必要な基礎的なスキルの向上を目指す学習内容が充実することで、モラルグループで出た「ローマ字入力ができず授業についていけない」といった課題は解決すると考える。

社会人として必要な一般的なモラル、マナーや友だち同士でのSNSマナーなどを、自立していくために必要なスキルとして身に付けていく必要がある。新教育課程では、プログラミング教育について取り組むよう記載されているが、本研究グループではモラル、マナーの学習の比重を多くして指導してほしいという意見でまとまった。

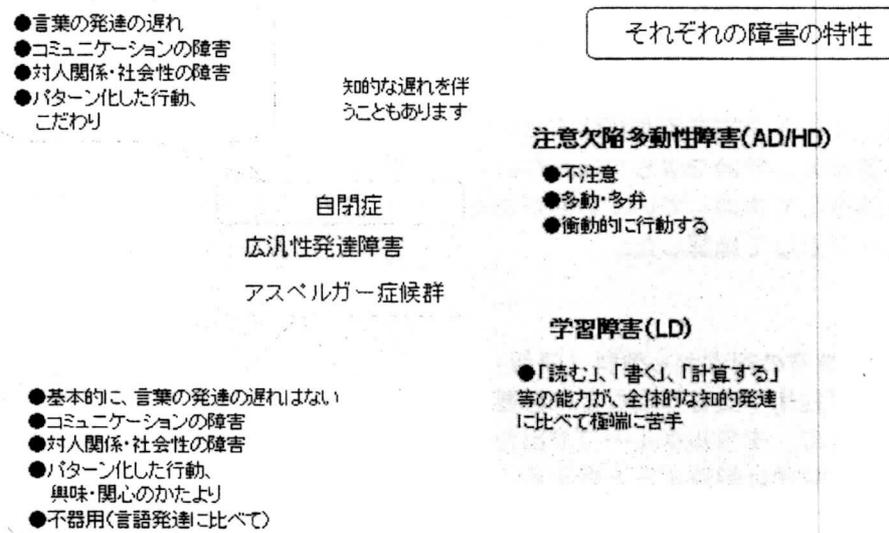
1 研究の成果

(1) 研究の目的

指導法グループは、「発達障害の定義の確認」「知的障害の特性の再確認」「指導法等に関する文献や資料の発掘と役立つポイントの整理」を目的として研究を行った。

(2) 発達障害の定義

発達障害者支援法において、「発達障害」は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されている。



(厚生労働省ホームページより)

(3) 指導の困り感の共有について

指導法のグループでは、障害の特性を踏まえ、障害の状況に応じた指導ができるよう「自閉症スペクトラム」グループ・「ADHD・LD」グループ・「知的障害」グループの3つのグループに分かれて研究を行った。7月のグループ研究では、自分自身の授業を振り返って困っていることや難しいと感じていることなどの情報を共有した。

ア 「現在困っていることについて」の集約結果

- ・ ADHD+二次的障害（幼少時に虐待経験）がある場合の対応。ルールを受け入れることができない場合の対応
- ・ 自分がやりたくない・できないことについて「できない」と頑なにやらない生徒への対応
- ・ 相手に対し嫌なこと（叩く、蹴るなど）をしたときに、自分に置き換えて考えることができない生徒への対応
- ・ アドバイスをしたときに態度が豹変し、相手の意見を聞かずに自分の主張をする生徒への対応
- ・ 同じ失敗を繰り返してしまう生徒への指導方法
- ・ 衝動的な言動の改善について。ADHD等、衝動性が障害特性としてある生徒が、「他生徒への言動」「つい衝動的に行ってしまう行動」など、気持ちが安定しているときには前向きに改善に向けた約束ができるが、結果として「自己の課題」

の改善につながらない。

- ・相手の気持ちや場の雰囲気を読めない生徒に対して、ひとつひとつその場で確認しているが、大きな成長は見えない。
- ・LDではないが、字を書くことが苦手な生徒への対応
- ・痛みを感じづらい生徒の怪我への対応
- ・生活をどう整えるか。(5分休みでの授業準備や片付けといった机上整理、忘れ物をさせないために)
- ・衝動性が強く、頭の中が整理できず、抽象的なことを受け入れることが難しい生徒にどう受け入れさせるか。
- ・衝動的な言動や自傷を行う生徒がいる。インプット情報とアウトプット情報のバランスの取り方やいかに落ち着いて学校生活を送らせるか。
- ・LDでひらがなの読み書きや手指の不器用さをもっている生徒に対してマンツーマンの指導が必要。完璧さを求めるが気持ちに波がある。忘れ物が多い生徒に対しての指導方法に迷っている。怒られない言い方やかっこいいことを言おうとしているように見えるが、努力の姿勢はあまり見えず、分からないことを質問することが難しい。
- ・カフェ営業前に立ち姿勢を整えて、床に引かれた線に合わせて立つことが難しい。伝える頻度や伝えることで修正が可能なのか、生徒が辛くならないのか。じっとしていることが難しい生徒がいる。
- ・リーダーとして牽引する生徒がおらず、できていない生徒に他生徒が引っ張られているようにも考えられる。

イ 考察

- ・先生方の悩みが多岐にわたっている。

(4) 研究項目の検討

ア 内容について

- ・先生方の悩みが多岐にわたっていたため、今回は「学習指導」のみに絞って行うことにした。

イ 項目について

ポイントが整理された実践しやすい資料を目指し、項目を検討した。

- 「(生徒/事例の)実態」「障害特性」「効果的な指導」「指導のポイント(項目)」
 - 「教科指導における困難さと指導・配慮項目」「障害特性」「抱える困難」
 - 「合理的配慮の必要性」「生徒の気質又は傾向」「手立て」「評価方法」
- それぞれの「障害の定義」と、上記の案の中から3グループに共通していた以下の4つの項目について統一した資料を作成することにした。

- ・ 障害特性
- ・ 抱える困難
- ・ 指導のポイント
- ・ 事例とその指導法

(5) 「知的障害」グループの研究

ア 「知的障害」の定義

「知的障害」とは以下の3つの基準を満たすものであり、それによって自立と社会参加が困難であり、特別な支援や配慮が必要な状態。また、その状態は環境的・社会的条件で変わり得る可能性があると言われている。

① 「知的能力」の遅れ

「知的能力」とは、認知や言語などにかかわるもの、「予想や計画を立てる」

「論理的に考える」「自分の考えをまとめる」といった「思考する力」など、知的な活動のために必要な機能であり、周囲の環境を理解するための広く深い能力である。

②「適応能力」の遅れ

「適応能力」とは、日常生活において人々が学習し、発揮する「概念スキル（読み書き、金銭、時間など）」と、「社会的スキル（対人、責任、規律など）」、及び「実用的スキル（身の回りの世話、健康管理、交通機関の利用など）」の集合。他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについて適応するための能力。「集団のルールを守る」「集団の中で自分の役割を担当する」「人と円滑な関係を築く」など、集団生活の中で発揮される能力。社会生活に不可欠。意思伝達、自己管理、家庭生活、社会的・対人的技能、地域社会資源の利用、自立性、発揮される学習能力、仕事、余暇、健康、安全の11項目中2つ以上の領域で欠陥または不全が認められること。

③発達期（おおむね18歳まで）に、発症していること。

イ 障害特性

(ア) ワーキングメモリについて

- ・情報の保持と処理を並列的におこなうワーキングメモリに固有の特性が見られる。誰かと会話するときには話の内容を一時的に保管し、それを理解するために処理し、同時に相手の気持ちを推し量るなど、そうした並列的な課題遂行で発揮される機能である。知的障害のなかでもダウン症児・者は言語性に、ウィリアムズ症児・者は視空間性に、それぞれワーキングメモリが精神年齢の水準よりも低くなっている。

(イ) 記憶について

- ・短期記憶が苦手だが、長期記憶は苦手ではない。

短期記憶	リハーサル（繰り返しイメージすること）などの処理がされないと、15秒から30秒ほどで消失してしまう記憶。		
長期記憶	手続き的記憶	運動などの記憶。自転車に乗る、スケートで滑るなどの一連の手続きに関する非言語的記憶。	
	宣言的記憶	エピソード記憶	自分が経験した記憶。 時間的・空間的文脈の中における個人的なエピソードに関する記憶。たとえば「ハワイのレストランで大きなハンバーガーを食べた」等。
		意味記憶	一般的な知識。例えば「アメリカの首都はワシントンDC」「北海道の冬は寒い」等。

(ウ) 知的能力について

- ・言葉の遅れがある。
- ・時間や数量の把握が苦手。
- ・目に見えないものや抽象的な概念を理解することが苦手。

- ・経験をしたことの中でなら、経験をもとに物事を理解し、性質を概念化することもできるようになる。
- ・複数のことを考えて行動をすることが難しい。

(エ) 適応能力について

- ・適応行動が困難である。
- ・「実行機能（効率的な課題解決や目標達成をおこなうために、思考・行動・情動を意識的に制御する高次脳機能）」のため、自己本位な行動の抑制や、適切な欲求の表現をおこなうことに困難さを抱える。
このことにより、
- ・学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しい。
- ・柔軟に考え、物事に対処することが難しい。
- ・コミュニケーションが難しい。
- ・行動のコントロールが難しい。
- ・食事や身支度など、身の回りのことの自立に時間が掛かる。

ウ 抱える困難

- ・相手の言葉が理解できない。
- ・うまく伝えることができない。
- ・学習技能（読字、書字、算数）を身に付けることが難しい。
- ・状況に応じた行動をすることが難しい。
- ・いつもと違うことが起きると混乱する。

エ 指導のポイント

(ア) 生活に密着した内容

- ・実際の生活場面に即しながら、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導、段階的な指導が重要となる。

(イ) 抽象概念の理解

- ・抽象概念が苦手なので、具体的なイメージを使いながら、一歩ずつ抽象概念の理解を進めていく必要がある。

(ウ) 段階的指導

- ・認知発達に合わせた課題を一歩ずつ進めていくこと（スモールステップ）が大切。

(エ) 動機付け

- ・長期記憶は残りやすいので、覚えやすくするには動機付けが必要。

(オ) 一つずつ伝える。

(カ) 継続的指導。

- ・一度定着させた記憶は維持されるので繰り返すことで定着させる。

(キ) 具体的で分かりやすい指示

- ・抽象的な指示ではなく、具体的で分かりやすい指示等で本人にとってイメージしやすければ、長期記憶や知識を増やしていくことができる。

(ク) 本人の願いや思いを中心に指導する。

(ケ) 短く簡単な言葉

- ・言葉の遅れがあること、短期記憶が苦手なことから、短く簡単な言葉がけが効果的。

(コ) 写真や絵を合わせる

- ・目に見えないものを理解するのが苦手なので、視覚的情報を示す。

(サ) 分かりやすい教材・教具

- ・文字の拡大や読み仮名の付加
- ・文の長さの調節
- ・具体的な用具の使用
- ・数量等の理解を促すための絵カードや文字カード、数え棒
- ・ICTの活用

オ 事例とその指導法

(ア) 認知能力向上の支援をしたい

- ・COGET(認知機能強化トレーニング)

認知能力を構成する5つの要素(記憶、言語理解、注意、知覚、推論・判断)に対応する「覚える」「数える」「写す」「見つける」「想像する」の5つのトレーニングからなっている。教材はワークシートからなり、紙と鉛筆を使って取り組む。強化するだけでなく、どこでどのように学習においてつまづいているのかアセスメントできる機能がある。そこで見つかったつまづきは実際にできなかつた同種のワークシートを中心に難易度も調整しながら何度もトレーニングすることでつまづきが克服できるように作成されている。もし不適應の原因が認知機能の弱さにあるとすれば、認知機能の強化においてこれらの不適應症状が軽減する可能性もある。

(イ) 適應行動に困難さがあるので支援したい

- ・適應行動に関わる実行機能を高めたり、補ったりすることが効果的。

① 実行機能を高める指導

顕在的な指導にはコグメド(Cogmed)や、音と行動が伴う活動(体育におけるホイッスルと集団行動など)。潜在的には身体運動や、それと伴いマインドフルネス(武道、太極拳、ヨガなど)、さらに芸術活動(芝居や楽器演奏)も入る。

② 実行機能を補う指導

「1. 問題行動の特定と解消に向けた目標設定」→「2. 物的・社会的環境の調整」→「3. 実行機能を補うスキルの指導」の各段階に分けられる。特に3は5W1Hの取り組みが確認できるチェックリストや振り返りシートなどの補助教材を長期的な指導で用いることで、補助教材に埋め込まれた認知プロセスをインプットしていくことを目指す。

(ウ) 口頭説明では、内容の理解が難しい

- ・言葉の発達に遅れがあるので、視線や表情、動作や身振りを使ったり、絵や写真、実物を使って理解しやすくする。
- ・分かりやすく短い言葉で説明をする。

(エ) 授業に集中できないことがある

- ・できないことをやらされることで集中できていない可能性がある。好きなことやできることは頑張れるので、認知発達に合わせた課題を一步一步進めていくこと(スモールステップ)が大切。
- ・ルールや対処法を事前に確認するといった予防的対応をする。

(オ) コミュニケーションがうまくとれない

- ・知的障害のある子どもはコミュニケーションが苦手で、人と関わることに消極的になったり、受け身的な態度になったりすることがある。このことの要因としては、音声言語が不明瞭だったり、相手の言葉が理解できなかったりすることに加えて、失敗経験から人と関わることに自信が持てなかったり、周囲の人

への依存心が強かったりすることなどが考えられる。そのため、まずは自分の考えや要求が伝わったり、相手の意図を受け止めたりする双方向のコミュニケーションが成立する成功体験を積み重ねることができるように指導することが必要である。そして、他者とのコミュニケーションにおいて成功体験を積み重ねることで、子どもが自ら積極的に人と関わろうとする意欲を育てることが大切である。

(カ) 自主的な活動ができない

- ・ 学習活動が円滑に進むように、図や写真を活用した日課表や活動予定表を活用し、自主的に判断し見通しをもって活動できるようにする。

(キ) 知識が定着しない

- ・ 繰り返して学習することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるようにする継続的指導を行う。

参考文献

- ・ 基本から理解したい人のための子供の発達障害と支援のしかたがわかる本
- ・ 有馬正高『知的障害のことがよくわかる本』講談社 2007
- ・ 宮口幸治 『教室の困っている発達障害をもつ子どもの理解と認知的アプローチ 非行少年の支援から学ぶ学校支援』明石書店 2017
- ・ 國分充、平田正吾ほか『知的障害・発達障害における「行為」の心理学 ソヴィエト心理学の視座と特別支援教育』福村出版 2020
- ・ 障害のある子どもの教育支援の手引き～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～（令和3年6月30日） 文部科学省
- ・ ケース別発達障害のある子へのサポート事例集 中学校編
- ・ <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/101-1c.html>
- ・ <https://junior.litalico.jp/about/hattatsu/chiteki/>
- ・ <https://www.atgp.jp/knowhow/oyakudachi/c4348/>

(6) 「自閉症スペクトラム」グループの研究

ア 自閉症スペクトラムの定義と障害特性

- (ア) 自閉症障害は「通常、幼児期、小児期または青年期に初めて診断される障害」の中の、広汎性発達障害の1つとして位置づけられている。広い意味での広汎性発達障害には小児期崩壊性障害、自閉症障害、レット障害、アスペルガー障害、特定不能の広汎性発達障害が含まれる。
- (イ) 自閉症スペクトラム障害は、発達障害の一つ。対人関係が苦手、同じことに強くこだわる、興味や関心の範囲が狭いなどの特徴をもつ障害。自閉症・アスペルガー症候群はこの中に含まれる。
- (ウ) 1944年にアスペルガーが行なった報告の中で、周囲の人と情緒的な関係が一切なく、極端に自己中心的な4人の症例が「自閉的精神病質」と呼ばれた。やがてこの概念は、精神の発達が途上である子どもについて用いるのは問題があるとされ、1960年代には「興味限局児」と呼ばれるようになった。1980年代になってイギリスのウィングが自身の研究報告の中でアスペルガーの症例に類似していた19例について「アスペルガー症候群」という名称を再び使用し、定着した。
- (エ) 自閉症とアスペルガー症候群の相違点として、言語・コミュニケーションの障害の不明瞭が基準になるが、それほどはっきりとした相違があるかは疑問。例：先生の言葉「家にまっすぐ帰るんだよ」→アスペルガー障害の子どもへの答え「まっすぐには帰れません、角を曲がらないと帰れません」

イ 抱える困難

- (ア) ASD児・者は他者の意図のくみ取りにおいて困難を抱えることが多い。したがってさまざまな感覚刺激に満ち、また他者の意図の読み取りを前提とした対人的な調整を求められる学校現場において大変なストレスを抱えることになる。また就職後、ASDの人の多彩な特性は職場における周囲の理解を得にくく、心理的・環境的な負荷が加わると際立ちやすいため、職場の環境や求められる役割によって強まったり弱まったりすることも就労上の問題を難しくしているとのことである。自らの感情や行動様式、対人関係のパターンにも気づきにくいことから、極端な規範の守り方や頑張りや背伸びをした結果、齟齬や精神症状が生じるという過剰適応の問題も報告されているなど、課題が様々ある。いずれにしても環境への適応や、周りからの障害理解、自身の障害理解など、特性と向き合いながら生きていくにはかなりの困難がある。
- (イ) 自閉症の子どもは言葉以外でも他人とうまくかかわることができない。言葉で表されない状況や気持ちが読み取れない。

ウ 指導のポイント

- (ア) 子どもと接する専門家は、自分の経験やイメージで子どもを見るのではなく、現実の子どもをよく観察することが大切。そこには言葉にならないメッセージを聞き取るヒントがたくさん隠されているはず。子どもがどう表現していいか困っている時には、ボディランゲージを読み取り、言葉を添えて、言語化を助けるようにする。
- (イ) その子どもの全生涯をすべて知ることは不可能だが、想像することによって、なぜそういうやり方をしたのか推測することはできる。彼らの感じ方や思考の仕方を理解しようとする態度や気持ちをもつことはとても重要である。
- (ウ) アスペルガー症候群の子どもは限られた興味にこだわる特徴があり、何度も同じ話をしたり一方的に質問をまくしたてることがある。こういう時は「そういう話はここではしていいけれど、他ではしてはいけない」「ひとつなら質問してもよい」など、逃げ道を用意しつつ制限をする。
- (エ) 必要な情報と不必要な情報を整理することができず、どれも同等に頭に入ってくるので、常に気をそらされ集中できない。刺激の少ない整理整頓された環境を作ることが大切(場面の構造化)。課題は細かく分けて一つずつ取り組ませる。できたらそのつどほめ、振りかえって確認する。
- (オ) 変化がストレスになるので、あらかじめスケジュールを示す、変更は最小限にする、どうしても変更するときには最小限にとどめ、変更を丁寧に説明する。説明するときに文字や絵を使うと伝わりやすいことがある。その時、何か別のものに気が向いていないか、彼らの視線を見る。
- (カ) 気持ちをあらわす言葉を選べない。「困った」「うれしい」「悲しい」といった言葉はどのようなときに口にするのか、子どもたちがそう感じた時に代わりに「困ったね」などと言ってあげるようにすると感情と言葉が結びつく。
- (キ) よくないことに誘われたりしたとき、どんな風に対応したらいいのか具体的に教えてあげる必要がある。「いやだ」「やりたくない」などときちんと断ることが必要であると話してあげる。言葉で断らずに手で払いのけたりすると困ることになるということも教える。
- (ク) 手と足を同時に動かすような協調運動が苦手。手先の細かい動きも苦手。
- (ケ) 達成感をもたせること。あえて失敗するような教材を与える必要はないし、ヒントを与えるなど成功するようにもっていき、成功したらほめる。得意不得意は

誰にでもあり、劣等感をもつ必要はないことも説明する。

(コ) アスペルガー症候群の対応で一番大切なことは彼らの心の傷つきやすさを理解すること。

(サ) どんな理由でもパニックを起こすことはよくないこと、公の場で感情を爆発させてはいけないということを伝え、コントロールする方法を教える。一人にさせる、深呼吸させるなど、自分なりの方法を決めさせておく。

エ 事例とその指導法

(ア) 言語の対人的使用面に遅れのみられる6歳の自閉症児に対して、指導者ともう1人の知的障害児と共に「ホットケーキを作り、お客（友達）と一緒に食べる」という共同行為ルーティンを設定し「○○ください」という要求構文や質問構文の対人的使用を目的としたものである。その事例からは文章レベルの言語を有しているにもかかわらず他者との会話場面でその表出に困難をきたす自閉症児にとって、他者との相互交渉を必要とするゲーム活動が相互的会話の増加に有効であったということが分かった。また、周囲の大人からの指示や強化に基づく直接的学習に加え、他者の行動を観察・模倣する間接的学習の効果も日常生活場面で大きいという。「①正しい構文の取得、②行為の主導化、③他者への関わり方の高次化」という3段階の変容が見られたことから、お手本となる例の提示をいかにして工夫するか、またそれを本人が自分の言語として取り入れるためにどのように支援ができるかが重要であり、他者とのコミュニケーションでの躓きを解消する手掛かりになるのではないか。

(イ) 医師である著者への20代女性の訴え。その場に無関係なことであろうと何度も同じことを言うてくる（「私の脳細胞を再生医療で新しくしてほしい」「研究はどこまで進んだのか教えてほしい」）。著者の対応。「この外来ではいいけれど作業所に言ったらそういうことを言うてはいけないよ」と"枠"をはめた。

参考文献

- ・山本淳一・梅本千枝子(2007)「自閉症スペクトラム障害の発達と支援」621-639頁
- ・柳澤亜希子(2012)「自閉症スペクトラム障害児・者の家族が抱える問題と支援の方向性」403-411頁
- ・松田信夫・植田恵子(1999)「自閉症児に対する要求構文等の対人的使用に向けた指導—共同行為ルーティン「ホットケーキ作り」を通して—」1-8頁
- ・山崎晃資『発達障害と子どもたち～アスペルガー症候群、自閉症、そしてボーダーラインチャイルド～』講談社+α新書

(7)「ADHD・LD」グループの研究

ア 「ADHD」の定義

(ア) 年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害

(イ) 社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもの。

(ウ) 7歳以前に現れ、その状態が継続

(エ) 中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

イ 障害特性

- ・年齢あるいは発達に不釣り合いな程度において、不注意、又は衝動性、多動性の状態を継続して示し、それらが社会的な活動や学校生活を営む上で著しい困難を示す状態がある。

(ア) 不注意

- ・気が散りやすく、注意を集中させ続けることが困難であったり、必要な事柄を忘れやすかったりすること。

(イ) 衝動性

- ・話を最後まで聞いて答えることや順番を守ったりすることが困難であったり、思いつくままに行動して他者の行動を妨げてしまったりすること。

(ウ) 多動性

- ・じっとしていることが苦手で、過度に手足を動かしたり、話したりすることから、落ち着いて活動や課題に取り組むことが困難であること。

ウ 抱える困難

- ・しばしば場に適さないふるまいから、周りから誤解を受けやすく、他者から指摘を受けることがある。コミュニケーション面、仕事に関する困難さがある。
- ・やる気はあるけど、何から始めればいいのか分からない。
- ・たくさん仕事があるとパニックになる。
- ・話を上手くまとめられない。
- ・やるべき仕事を忘れて後で慌てる。
- ・整理整頓が苦手で書類がどこにいったか分からなくなる。

エ 指導のポイント（事例と指導法）

(ア) 整理整頓

- ・TODカードで情報整理
- ・TODリストで今日やるべきことを書き出し終わったら点チェックを入れて次々と完了させていく。
- ・情報を書き出すので今日やるべきことを忘れてもこのリストを見ればこなすことができる。

(イ) コミュニケーション面

- ・その場でふさわしい言動や行動がどうだったかを振り返り、整理する。
- ・相手の気持ちについてどうだったかを確認する。

(ウ) 注意の維持ができない

- ・刺激の少ない学習環境（机の位置など）にする。
- ・解決の約束を決め、自力ですることと支援が必要な部分を明確にする。
- ・できたことを褒める。
- ・短い言葉で個別的な指示をする（具体的で理解しやすい情報提示）。

(エ) 指をいじったり、ごそごそしたりする

- ・スモールステップでの目標達成による自信と意欲の回復
- ・ソーシャルスキルトレーニング（ゲーム、競技、ロールプレイ等による方法）
- ・周囲の子どもへの理解と配慮をすすめる。

(オ) 他の人がしていることをさえぎったり、邪魔したりする

- ・ふさわしい言動かを振り返り、整理する。
- ・行動観察から傾向・共通性などを読み取る。
- ・グループ活動でのメンバー構成に配慮する。
- ・刺激の少ない学習環境（机の位置など）を設定する。

オ まとめ ～子どもとかがかわる時に～

- ・叱責よりは、できたことを褒める。
- ・共感的理解の態度をもち子どもの長所や良さを見つけ、それを大切にしたい対応を図る。

- ・子どもが障害の行動特性を理解し、課題と可能な解決法、目標を持つなど対処方法を編み出すよう支援する。

(7) グループ研究の成果

- ア それぞれのグループごとに、知的障害、また、それぞれの発達障害の特性について資料や文献を集め、障害についての基本的な定義や常にアップデートする必要がある障害特性をまとめた。また、まとめる中で、当事者が抱える困難を見つめ直すことができた。
- イ 「日々の指導で感じている課題」を共有することで、指導の改善につながる課題を見出すことができた。
- ウ 文献を読み進める中で、障害についての理解を深めることができた。
- エ 今まで持っていた知識を改めて整理することができた。
- オ 学習指導のポイントや指導法をまとめることで、日々の指導を振り返るきっかけを作ることができた。
- カ 文献をまとめることで、根拠に基づいた授業づくりや生徒対応をする上での参考となる資料を作ることができた。

2 今後の課題

- (1) 学習指導に絞ってまとめることにしたが、ポイントや指導法は学習指導に限らないもの、生徒指導全般にわたるものも多かったり、ポイントと事例と指導法の内容が重なっていたりとまとめるのが難しい場面があった。また、先生方の悩みを解決するような資料にするには、もっと多くの文献を研究する必要がある
- (2) 今年度は、文献資料をまとめる研究だったが、生徒の抱える困難や問題行動について、「なぜ、どうして」というメカニズムまで分析を深める必要性を感じた。今年度まとめたものを生かして、更に分析を深め、指導法について考えていきたい。
- (3) どうしてこの指導が必要なのか、理論立てて更に実践していけるようにする必要があると感じた。「事例とその指導法」をできる範囲内でまとめたが、まだまだ足りず、また、そのまとめたものも活用できるかは検討する必要がある。次年度以降、実践につなげることができる取り組みをしていきたい。

1 研究の成果

(1) 観点別評価について考察（1学年の実践より）

今年度より1学年個別の指導計画の評価に導入された観点別学習状況の評価（以下、観点別評価と記載）について、実際に作成してみて良かった点と課題点、記述の実際（教科の特性などによる注意点）についてまとめた。

本校の評価は文字数の制限があるため、学習内容と手立て、生徒の様子などを必要最低限の文章で過不足なく記述する難しさがあげられた。同時に、読み手に学習内容が伝わるように説明する必要もあり、記述の工夫や実践の積み重ねが必要になると思われる。

例として、音楽は題材の名称（曲名など）だけでは具体的な内容が伝わりにくいものがあり、一般的ではない題材には解説が必要な場合がある。今回の評価では、制限された文字数で題材の解説をする必要があったため、同一題材について「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を系統立てて記述し、保護者に内容が伝わるように配慮した。

観点別評価の例（音楽）

ジョン・ケージは実験的な試みで現代音楽に多大な影響を与えた作曲家。授業でいくつか代表的な音楽を学習した。評価で題材説明と生徒の取り組みを記述することが難しかった。

「図形楽譜」や「プリペアド・ピアノ」がどういうものか、本当は補足説明するべきだが、評価が書けなくなるので割愛した。

音楽	・鑑賞 (音楽って何だろう?)	・鑑賞曲の背景や特徴を知り、曲を聴いた感想や評価を述べる。	・教材の提示方法の工夫	知識	業に取り組むことができました。 画像資料や解説動画を見て、プリペアドピアノや図形楽譜などについて正確なイメージをもつことができました。
			・自分で考える場面の設定	思考・判断	「4分33秒」という曲名の、奏者は音を出さず楽団の音も曲の一部とする趣を聞き、「本当に無音で面白くなかった」と感想を記入することができました。
			・自分で行える工夫 ワークシートの工夫	主体的	「4分33秒」を作曲したジョン・ケージの音楽界における功績について、資料や教科書を見ながら意識的にまとめることができました。

鑑賞曲「4分33秒」の説明だけで、半分以上の文字数をとられた。

「主体的」で、やっと作曲家ジョン・ケージの名前を出せた。功績については、具体的な記述ができなかった。

客観的な評価を行うために、過去の研究で作成した「評価基準」を、現在の観点別評価に合うように見直して活用すると、評価者間で基準を共有でき、業務を合理的に進められるという意見があげられた。今後、「評価基準」の精査と活用の推奨を行っていきたい。（「3 作成資料等」参照）

(2) 観点別評価の視点を生かした授業づくりの必要性

観点別評価の視点を取り入れて授業を行うことで、授業における「知識・技能」と「思考・判断・表現」の要素を意識して生徒を指導することが増えた。また、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」においては、活発な生徒の発言や行動だけでなく、積極性が現れにくい生徒の意欲や取り組みの姿勢を汲み取るために、多角的に生徒を観察しようとする意識が高まった。

(3) 観点別評価基準に関わる資料の発掘

特別支援教育における観点別評価について、参考文献や資料を発掘した。まだ参考文献や資料は少なかったが、何点かの書籍やインターネット経由で資料を見つけることができた。（「4 参考・引用文献等」参照）

今後、共有する方法を考えていきたい。

2 今後の課題

(1) 観点別評価について

公正で客観的な評価を行うために、ある程度の基準を定めて評価を行うことが望ましい。過去の研究成果を、現在の評価に合わせて見直し、活用することを推奨したい。評価の記述の方法や工夫などについては、参考文献や資料には文例が少なく、本校の評価に即活用できる文例も見付けられないことから、今後の実践を通じて記述の工夫や本校の書式に即した文章の例を積み重ねていく必要があると思われる。

(2) 観点別評価の視点を生かした授業

三観点を意識した授業の工夫については、教育目標を明確化し、授業と評価が一体化するように授業を組み立てる方法が有効であると思われる。その中で評価方法を検討し、生徒を評価する根拠となる客観的な証拠(データや生徒の発信など)を集める工夫も課題である。

積極的な言動がない生徒の評価については、表面的な行動的側面のみで評価せず、多角的な観察を行う。しかし、積極性のない生徒に限らず、全ての生徒に対して内的な面も含めた客観的な把握と資料の確保は大きな課題となる。

(3) 資料発掘の継続

特別支援教育における観点別評価の参考文献はまだ少ない上、本校の評価にそのまま取り入れられる資料や観点別評価の記入例もあまり見つけることができなかった。今後も資料を発掘するとともに、探した資料を共有できるようにしていきたい。

3 作成資料等

(1) 各教科の題材の評価規準の具体化 美術科

教科名 学年	美術科 1 学年			
題材名	鉛筆で描く ～デッサン（絵画）～			
学習指導要領に示された関連する内容	<p>A 表現 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたりつくったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p> <p>(ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり、使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。（思考力、判断力、表現力等）</p> <p>(イ) 材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を 追求し、自分らしさを発揮して表すこと。（技能）</p>			
題材の指導目標 育成を目指す資質・能力の三本柱で	知識及び技能	思考力、表現力、判断力等	学びに向かう力、人間性等	
	○材料や用具の特性の生かし方を知り、意図に応じた表現方法を追求し自分らしく表す。	○対象を深く見つめ、感じたこと、使う目的や条件を基に創造的な構成を考え、工夫する。	○主体的に活動に取り組もうとする。 ○創造活動の喜びを味わい学んだことを生かして心豊かな生活を想像する。	
題材の評価規準 ※規準（のりじゅん）到達目標 ※例「逆上がりができるようになる」	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	○鉛筆の性質やさまざまな持ち方を理解している。 ○完成までの工程を理解し、対象を表現している。	○ものの形や立体感・質感を感じて、タッチや明暗の調子を判断し表現することができる。	○楽しみながら学習課題に集中し、持続して取り組んでいる。 ○完成した作品を見て自分の作品に生かそうとしている。	
題材の評価規準の具体化（細分化） ※到達目標に対してどの程度到達できたかを判断する指標 ※例 Ⅰ「補助板がなくても逆上がりできた」 Ⅱ「補助板を使って逆上がりできた」 Ⅲ「教師が足を持って補助することできた」	Ⅰ	○鉛筆の性質やさまざまな持ち方、完成までの工程を理解し、よく観察して描画することができた。	○ものの形や立体感・質感を感じて、タッチや明暗の調子を判断し表現することができた。	○楽しみながら学習課題に集中し、持続して取り組むことができた。 ○完成した作品を見て自分の作品に生かすことができた。
	Ⅱ	○鉛筆のさまざまな持ち方、完成までの工程を理解し、工夫して描画することができた。	○ものの形や質感を感じて、タッチや明暗の調子を判断し表現することができた。	○学習課題に集中し、持続して取り組むことができた。 ○完成した作品を見て自分の作品に生かすことができた。
	Ⅲ	○完成までの工程をほぼ理解し、鉛筆の持ち方を意識して描画することができた。	○ものの形を感じて、タッチや明暗の調子を判断し表現することができた。	○学習課題に集中し、持続して取り組むことができた。
評価場面 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・図案の用紙へのトレース ・図案の材料への転写 ・道具・材料の扱い方（性質、用途、安全）・いろいろな彫り方 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインシートの提出（選択した図案、構成） ・発想や構想の説明 ・道具・材料の扱いに関する質問への応答・材料への彫刻 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの提出（生活の中で生かす発想）・学習課題に集中し、持続した粘り強い取組（学習態度） 			

(2) 各教科の題材の評価規準の具体化 数学科

数学1学年「評価規準」

教科名 学年	数学科 1学年			
題材名	四則計算			
学習指導要領に示された関連する内容	<p>「特別支援学校学習指導要領参照【算数・数学】目標・内容表 高等部 1段階」</p> <p>○知識及び技能 A 数と計算 整数、少数、分数及び概要数の意味と表し方や四則の関係について理解するとともに、整数、少数及び分数の計算についての意味や性質について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。</p> <p>○思考力・判断力・表現力 及び 学びに向かう力・人間性等 別紙参照</p>			
	知識・技能(学習内容でできるようになったこと)	試行・判断・表現(学習内容を深め、新たな事を考えること)	主体的に学習に取り組む態度(学校、生活場面で活かそうとする意欲含)	
題材の指導計画 目標 育成を目指す資質・能力の3本柱で	各種の四則計算のルールを身につける。	各種の四則計算のルールを使って応用問題や普段の生活との関連を発展的に考察する力を身につける。	数的な活動の楽しさを実感し、数学的な知識等を生活や学習に活用する。	
題材の評価規準	各種の四則計算のルールを理解し、正しく計算ができる。	四則計算のルールを用いて、様々な問題に対して、自ら考え、応用することができる。	授業内で積極的に発言したり、様々な問題に進んで取り組んだりすることができる。	
個別の指導計画 目標 知識・技能目標	<p>I 各種の四則計算のルールを身に付ける。</p> <p>II 各種の四則計算のルールを身に付ける。</p> <p>III 各種の四則計算のルールを身に付け、文章など応用問題を解く。</p>			
個別の指導計画 手立て	段階/観点	知識・技能	試行・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	I	・教材選定の工夫	・教師の適切な言葉掛け	・個別指導場面の設定
	II	・教材選定の工夫	・自分で確認できる工夫	・一斉指導と小集団指導の工夫
	III	・教材選定の工夫	・自分で考える場面の設定	・主体的な活動を促す環境づくり
個別の指導計画の 評価規準 具体化 (細分化)	I	苦手だった三桁以上の四則計算も、繰り返し取り組むことで、筆算で正しく解くことができるようになりました。	四則の混合式のルールを用い、教師と一緒に確認しながら、四則の混合計算を解くことができるようになりました。	計算演習では、解答を終えるとすぐに報告し、教師と一緒に答えを確認することができました。
	II	三桁以上の四則の各計算ができました。また、四則の混合式のルールを理解し、正しく解くこともできました。	四則計算の混合式のルールを用い、代入問題(□=3、△=4のとき、□+△+3など)の計算方法を自ら考え、解くことができました。	計算演習では、解答を終えると、すぐに新しいプリントを準備し、時間いっぱい集中して取り組むことができました。
	III	三桁以上の四則の各計算ができました。また、四則の混合式のルールを理解し、早く正確に解くこともできました。	四則計算の混合式のルールを用い、不明な数字を求める式(□+△+□+△=8のとき、□と△の値など)を自ら考え、解くことができました。	計算演習では、プリントの準備、演習、答え合わせまで、一人で進め、積極的に取り組むことができました。
① 評価場面(題材) ② 評価方法 ③ 評価ポイント(内容段階)	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の暗算・筆算、混じった基本問題 ・小テスト ・評価ポイント(四則計算の各種計算ができるか、混合計算ができるか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の混じった計算の応用問題(長い)、☆代入問題、コア不明な数字の問題 ・小テスト ・評価ポイント(四則計算の応用問題(混合計算と不明計算)を自ら考えて計算ができるか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での計算への積極的な取り組み、発言と他教科、生活への取り組み発言 ・授業内での新たな気づき。 ・学校、家庭生活への応用を自ら進んで考えることができたか。 	

4 参考・引用文献等

- ・ 学習評価 [田村 学]
- ・ 新三観点 保護者の信頼を得る通知表所見の書き方&文例集〈小学校高学年〉
[編著 田中 耕治]
- ・ 平成 29 年改訂 小学校教育課程実践講座 音楽 [編著 宮下 俊也]
- ・ 特別支援教育における三観点の「学習評価」 通知表の文例集と記入例
[監修 宮崎 英憲]
- ・ 文例編 新しい学びに向けた新指導要録・通知表〈中学校〉[編集代表 田中 耕治]
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭科
[国立教育政策研究所]
- ・ 特別支援学級・特別支援学校 新学習指導要領を踏まえた「学習評価」の工夫
[編著 武富 博文・増田 謙太郎]
- ・ 大阪府観点別評価（資料）
- ・ 北海道教育庁 令和 4 年度 特別支援教育教育課程編成の手引き
- ・ 小樽高等支援学校「躍動」 研究集録 第 12 号、13 号

【キャリア教育グループ】

1 研究の成果

(1) 本校におけるキャリア教育の理解

研究を進めるにあたり、「知的障害教育における『学びをつなぐ』キャリアデザイン」—本人の「思い」や「願い」を踏まえた「深い学び」の実現に向けて—(2021)をグループ内で閲覧した。OKS ライフキャリアプランの位置付けや内容、キャリアカウンセリングの目的など、「本校のキャリア教育がどのように行われているか」について、共通理解を深めることができた。

(2) OKS ライフキャリアプラン、キャリアカウンセリングの現状と課題の検討

グループ内で「OKS ライフキャリアプランの理解と活用」と「キャリアカウンセリングの充実」について、現状と課題を共有した。「様式の保管場所がバラバラでわかりにくい」、「特に新転任者の場合、様式の構造やつながりを理解して運用することが難しい」、「自己チェックシートの項目が多く、生徒が今どの課題に着目すべきかがわかりにくい」、「キャリアカウンセリングを効果的に行うためには日常的なアプローチが重要である」、「生徒実態や学校生活状況と進路希望との乖離が起きているケースが多く、キャリアカウンセリングではもう少し進路希望とのつながりを意識した方が良い」など、様々な立場からの意見が出された。OKS ライフキャリアプランに関する研修の機会や様式の見直し、キャリアカウンセリングの効果的な実施方法の検討の必要性など、課題を見出すことができた。

本校では、OKS ライフキャリアプランの支援目標はキャリアカウンセリングを踏まえて設定しているため、今年度の研究においては、まず「キャリアカウンセリングの充実」に向けた二つの取組を進めることとした。一つ目は、学校生活の柱となる効果的な実施方法を検討し、新転任者にもわかりやすいキャリアカウンセリングの実践例を作成する取組。二つ目は、キャリアカウンセリングで使用する教材のわかりにくさや活用の難しさを解消するため、キャリアカウンセリングのねらいに即した活用しやすい教材の様式を見直す取組である。

(3) 「キャリアカウンセリングに関するアンケート」の実施

上記の「キャリアカウンセリングの充実」に向けた取組を進めるにあたり、本校の現状を多角的に把握するため、キャリアカウンセリングに関わる全職員を対象としたアンケートを実施した。17件の回答があり、「キャリアカウンセリングの理解に関すること」や「教材の活用に関すること」、「面談実施時のポイント」などについて、多くの意見を集めることができた(資料1)。

アンケート結果を踏まえ、グループ内で話し合い、今後の方向性として以下の点を確認した。

- ・効果的にキャリアカウンセリングを行うために各担当者が様々な工夫を凝らしており、それらを実践例に反映して周知・共有することで、学校全体としてのキャリアカウンセリングの充実を図ることができると考えられる。
- ・項目の曖昧さや使用する書式の多さ、活動の煩雑さなどから教材を活用しきれていない状況がある。挙げられた課題点の改善を図ることで、生徒が主体的に活用できる教材となり、キャリアカウンセリングの充実につながると考えられる。
- ・キャリアパスポートとして活用することも見据えて、キャリアカウンセリングの教材を見直すことができると良い。

(4) キャリアカウンセリングの教材の見直しと改訂

グループ内の話し合いやアンケートで集まった意見をもとに、教材の様式の見直しを行い、「キャリアカウンセリングシート」と「自己チェックシート」の改訂試案を作成した。「キャリアカウンセリングシート」には本人の希望等の記載欄を設けた。「自己チェックシート」は評価基準を4段階とし、結果をレーダーチャートで表示する形に変更した。次年度のキャリアカウンセリングにて試行的に活用しながら、次年度の研究において改訂を進める。

2 今後の課題

(1) OKS ライフキャリアプランの理解と活用に関して

課題点に対する取組に至らなかった。次年度は教務部と連携しながら、校内研修の実施や様式の見直しに取り組みたい。

(2) キャリアカウンセリングの充実に関して

アンケートによって貴重な意見を得られたが、実践例の作成には至らなかった。教材の試行と合わせて、次年度、継続して取り組みたい。

(3) キャリアパスポートの取り組み方に関して

新しい様式を作成するのではなく、現在の教育活動で使用している教材を活用する方向で検討を進めている。キャリアカウンセリングの教材の改訂を踏まえ、進路学習やホームルームを活用してキャリアパスポートを作成できる様式を検討する。

(4) グループ研究の推進に関して

一年間をとおして、年度初めに予定していた内容を計画的に進めることができなかった。次年度は小グループに分け、計画的かつ効率良く研究を進められるようにしたい。また、教育課程検討委員会における検討内容と重なる内容を取り扱っているため、次年度は今年度以上に連携を意識して研究を進める。

3 作成物

- ・自己チェックシート様式（改訂試案）：別紙1
- ・キャリアカウンセリングシート様式（改訂試案）：別紙2

4 資料

- ・「キャリアカウンセリングに関するアンケート」結果：資料1
- ・「令和4年度校内研究交流発表会」発表スライド：資料2

5 参考・引用文献等

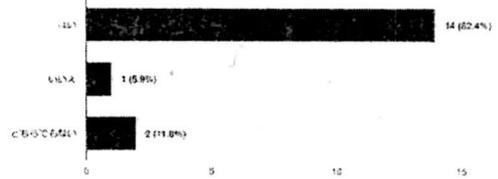
- ・菊池一文監修 全国特別支援学校知的障害教育校長会編著「知的障害教育における『学びをつなぐ』キャリアデザイン」－本人の「思い」や「願い」を踏まえた「深い学び」の実現に向けて－（2021）ジエース教育新社
- ・特別支援教育の実践研究会編 「特別支援教育の実践情報」No.198（2020）明治図書
- ・北海道小樽高等支援学校（2012）研究収録「躍動」第三号
- ・北海道小樽高等支援学校（2014）研究収録「躍動」第五号
- ・北海道小樽高等支援学校（2020）研究収録「躍動」第十二号

「キャリアカウンセリングに関するアンケート」

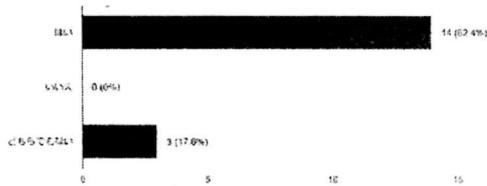
集計結果

回答数：17件

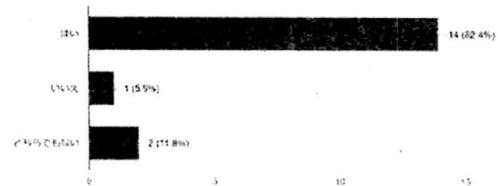
(1) キャリアカウンセリングのねらいや実施方法は校内で共通理解されていると感じますか



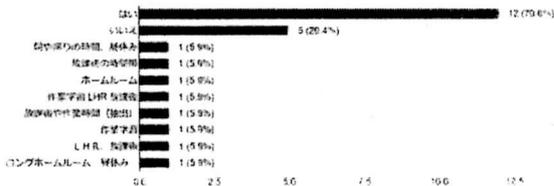
(2) キャリアカウンセリングを日々の指導・支援に生かすことができていると感じますか。



(3) キャリアカウンセリングの年間の設定回数や時数は適切ですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。



(4) 進路学習で設定された時間以外でキャリアカウンセリングを行うことはありますか。「はい」と答えた方は、「その他」に実施している場面(授業名・時間帯)を記入してください。



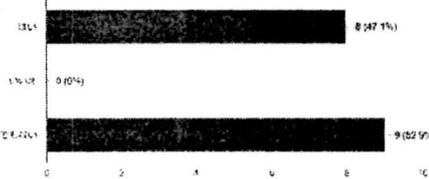
(4)補足 進路学習で設定された時間以外でキャリアカウンセリングを行うことはありますか。「はい」と答えた方は、「その他」に実施している場面(授業名・時間帯)を記入してください。

～「その他」記述内容～

- ・朝や帰りの時間 1
- ・作業学習(抽出)3
- ・LHR 4
- ・昼休み 2
- ・放課後 5

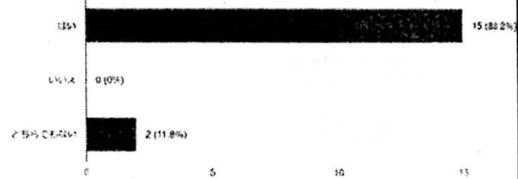
(5)

キャリアカウンセリングは、【本人の希望】・【保護者等の希望】・【教師の願い】・【生徒実態】を踏まえ、教師と生徒が対話し、生徒の気持ちや納得の元、夢や希望を実現するための目標を設定する時間となっていますか。



(6)

個別の指導計画の目標は、キャリアカウンセリングとのつながりを意識して設定していますか。



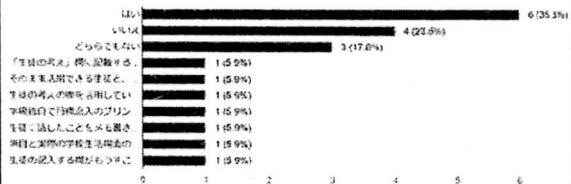
(7)

キャリアカウンセリングに「キャリアカウンセリングシート」を活用していますか。



(8)

「キャリアカウンセリングシート」の書式は、生徒との面談に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。



(8)補足資料

「キャリアカウンセリングシート」の書式は、生徒との面談に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

～「その他」記述内容～

- ・「生徒の考え」欄に記載する例文集があると、語彙が少ない生徒や、文章表現の苦手な生徒の助けになると思います。同時に「目標」の例文集もあと教員の助けになると思います。
- ・そのまま活用できる生徒と、項目や記入の仕方を工夫しなければならない生徒がいる。
- ・生徒の考えの欄を活用していません。
- ・学級独自で目標記入のプリントの下に成果と課題、アドバイスを書けるものを準備して、使用している

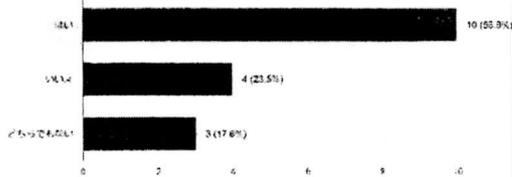
(8)補足資料

「キャリアカウンセリングシート」の書式は、生徒との面談に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

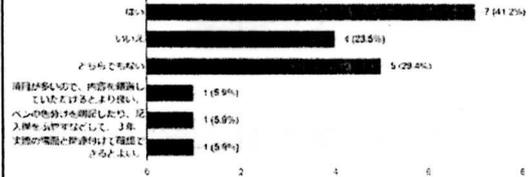
～「その他」記述内容～

- ・生徒に話したことをメモ書きにして渡して転記するようにしているが、生徒の作業としては、煩雑ではないか、書きにくいのではないかといつも思う。
- ・項目と実際の学校生活場面の関連事例をあげイメージできるとよい。
- ・生徒の記入する欄がもう少し大きくていいのではないと思う

(9) キャリアカウンセリングに「自己チェックシート」を活用していますか。



(10) 「自己チェックシート」の書式は、生徒との課題や評価の共有に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

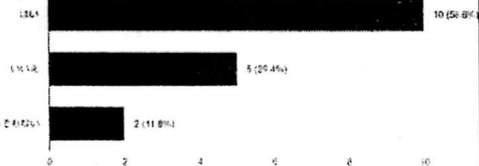


(10) 補足資料
「自己チェックシート」の書式は、生徒との課題や評価の共有に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

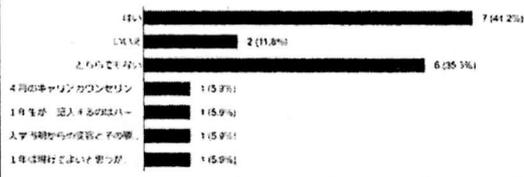
～「その他」記述内容～

- ・項目が多いので、内容を精選していただくとより良い。
- ・ペンの色分けを明記したり、記入欄をふやすなどして、3年間通じて使えるようにすると、生徒の成長や意欲の変化が総合的に評価できるのではないか
- ・実際の場面と関連付けて確認できるとよい。

(11) キャリアカウンセリングに「本人の希望シート」を活用していますか。



(12) 「本人の希望シート」の書式は生徒の考えの把握や面談に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。



(12) 補足資料
「本人の希望シート」の書式は生徒の考えの把握や面談に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

～「その他」記述内容～

- ・4月のキャリアカウンセリングでは活用するが、それ以降はあまり使わない(本人の希望を直接確認する)
- ・1年生が、記入するのはハードルが高い。
- ・入学当初からの変容とその要因を把握していくとよい。
- ・1年は現行でよいと思うが、学年が進み、進路、生活の場が具体的になるに伴い、そのために必要な力を記入したり、目標に関連付けられるような様式が望ましい。

(13)
キャリアカウンセリングの実施に関して、要望や困っていることがあればお書きください。(実施方法、設定回数、使用教材についてなど、御意見ください)

- ・時間が足りなくなることが多い。
- ・本人が自分の実態を認めず、妥協点に苦勞したことがあった。
- ・キャリアのあとに、個別計の目標設定をするが、手直しが入る。すると生徒と話した文言が変わってしまったり、目標自体が下手するとかわってしまう。キャリアから離れなければ良いが、いずさを感じる。
- ・キャリアカウンセリングではないですが、チェックリストのチェック用に別用紙などがあると良い。
- ・3年間の使い回しだとマークを変えても、各スペースに限界があり、見えづらくなってしまいます。

(13)
キャリアカウンセリングの実施に関して、要望や困っていることがあればお書きください。(実施方法、設定回数、使用教材についてなど、御意見ください)

- ・進路の時間以内に終わらないことが多いため、違う時間を設定して行うことがあった。
- ・キャリアカウンセリングを設定時間内に終えるためには、自己チェックシートやカウンセリングシートの内容を事前に記入していないと厳しいと感じます。(設定時間の4分の1が、シートの記入に時間をとられてしまい、会話の時間が減るため)

(13)
キャリアカウンセリングの実施に関して、要望や困っていることがあればお書きください。(実施方法、設定回数、使用教材についてなど、御意見ください)

- ・キャリアカウンセリングで生徒と目標を設定し、個別の指導計画に反映して作成するが、添削があった際に表現方法が生徒の記入したものと違ってくるため、生徒面談で改めて個別目標の説明をしています。キャリアカウンセリングで「私の目標」として、生徒が記入して掲示した目標と、通知表の目標が表現は違ってもリンクしていることを生徒に丁寧に説明すべきなのか、通知表に関する表記、表現はあくまでも保護者への説明と捉えて、生徒面談は生徒の相談を聞く時間とすべきなのか、悩むことがあります。(キャリアカウンセリングと生徒面談を分けて考えている生徒もおり、面談中に目標の話をするので、生徒側が気軽な相談がしづらくなってしまったため)

(14) キャリアカウンセリングを実施する際にポイントとしていること、心掛けていることがあれば、お書きください。

- ・生徒の「生きづらさ」に着目し、必要なサポートを想像するよう心掛けています。
- ・時間が限られているので、ある程度の準備をして、効率的に進められるようにしている。
- ・生徒の声を聞く。自己理解を深められるように進める。
- ・卒業後はどうなりたいのかを聞いて、それに向けて、今この力が必要だという流れで話す生徒も納得しやすいと思っている。
- ・生徒の実態と今ある現状を比較した上で目標設定をすること

(14) キャリアカウンセリングを実施する際にポイントとしていること、心掛けていることがあれば、お書きください。

- ・作業学習では、個別計とリンクさせ、日誌を書く際に必ず確認してからその日の小さな目標を決め、反省のときもスモールステップで考えられるようにしている。日々の反省内容がキャリアカウンセリングの内容につながることで、カウンセリングのための準備の軽減に繋がったり、カウンセリング時間の短縮に繋がっていると思う。また、設定されたカウンセリングの時間を実施できず、作業時間に抽出しても、日常の作業反省と内容がさほど変わらないので、生徒の負担感も少ないのではないかと考えている。
- ・生徒自身が自分の課題に気づいて、どうなりたいかを考えられるように心掛けています。
- ・本人が自覚できる成長場面でも、理解できる形で課題と方策を示すこと。

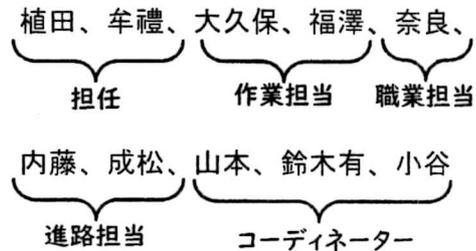
(14) キャリアカウンセリングを実施する際にポイントとしていること、心掛けていることがあれば、お書きください。

- ・生徒本人の希望や意見を大切にすること
- ・自分の課題について、どのようなところを改善し、成長していきたいのか自分で考えて目標を設定すること
- ・前期のキャリアカウンセリングは、生徒自身が苦手として記入したことに対してアドバイスし、教師側が、その生徒が本当に課題と感じている内容については、保護者と話をしてから、後期にカウンセリングするようになっています。(教師との関係性の構築のため)

令和4年度 校内研究交流会
「キャリア教育グループ」

令和5年1月13日(金)

キャリア教育グループのメンバー



今年度の取組

- OKSライフキャリアプランの理解と活用
⇒ 現状の確認、課題点・改善点の検討
- キャリアカウンセリングの充実
⇒ 実施状況の確認、課題点・改善点の検討
アンケートの実施、教材の改訂、実践例
- キャリアパスポートの取り組み方の検討
⇒ 本校様式の方向性の検討
キャリアカウンセリング教材の改訂

今年度の取組と成果(1) 課題点・改善点の検討

グループ内で現状と課題について意見交流

- ～OKSライフキャリアプランの理解と活用～
- ・各様式の理解や運用には勤務年数と経験が必要。
 - ・様式の保管場所がバラバラでわかりにくい。
 - ・各生徒の重点目標や自立活動の目標を意識した指導が学校生活全体で行われる体制が望ましい。

今年度の取組と成果(1) 課題点・改善点の検討

グループ内で現状と課題について意見交流

- ～キャリアカウンセリングの充実～
- ・自己チェックシートは「今、どの課題に着目すべきか」わかりにくい。教材を活用しきれない。
 - ・ジョブマッチには進路実現に向けた自己理解と行動の積み重ねが必要。進路希望やカウンセリング内容と日々の姿が乖離している生徒が多い。
 - ・生徒自身が現在と将来の姿をつなげて考えるための日常的な関わりが必要。

今年度の取組と成果(1) 課題点・改善点の検討

グループ内で現状と課題について意見交流

- ～キャリアパスポートの取り組み方の検討～
- ・既に本校で使用している教材には、キャリアパスポートの役割をもっているものが多いのではないかと。
 - ・新たな様式を作成するのではなく、現在の教材を整理し、キャリアパスポートとしてまとめられると良い。
 - ・様式を整理した上で、どの時間に取り組むかを明確にできると良い。

今年度の取組と成果(1) 課題点・改善点の検討

今年度、着目した課題点

- ① 取組の意図やつながりの理解
 - ② わかりやすく活用しやすい様式や教材
- ⇒ まずは、「キャリアカウンセリングの充実」に向けた取組を進めることとした。
- ① 新転任者にもわかりやすい実践例の作成
 - ② キャリアカウンセリングのねらいに即した活用しやすい教材の見直し

今年度の取組と成果(2) アンケート実施

* キャリアカウンセリングの現状を多角的に把握

⇒ キャリアカウンセリングアンケートの実施

質問項目

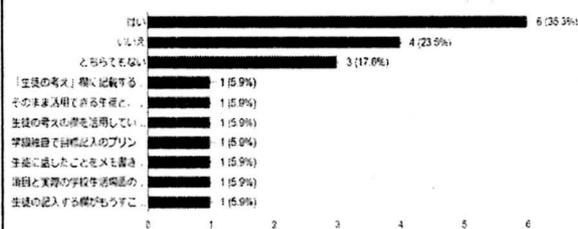
- ・ねらい・時数に関すること～
- ・教材の書式や活用に関すること～
- ・実施状況や改善点に関すること～

- ⇒ 回答数：17
実践に基づく貴重な意見を得ることができた。

アンケート結果（一部抜粋）

(8)

「キャリアカウンセリングシート」の書式は、生徒との面談に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。



アンケート結果（一部抜粋）

(8) 補足資料

「キャリアカウンセリングシート」の書式は、生徒との面談に活用しやすいですか。改善が必要な点があれば、「その他」に記入してください。

～「その他」記述内容～

生徒に話したことをメモ書きにして渡して転記するようにしているが、生徒の作業としては、煩雑ではないか、書きにくいのではないかといつも思う。

項目と実際の学校生活場面の関連事例をあげイメージできるとよい。

生徒の記入する欄がもう少し大きくてもいいのではないかと思う

アンケート結果（一部抜粋）

(14) キャリアカウンセリングを実施する際にポイントとしていること、心掛けていることがあれば、お書きください。

生徒本人の希望や意見を大切にすること

自分の課題について、どのようなところを改善し、成長していきたいのか自分で考えて目標を設定すること

前期のキャリアカウンセリングは、生徒自身が苦手として記入したことに対してアドバイスし、教師側が、その生徒が本当に課題として感じる内容については、保護者と話をしてから、後期にカウンセリングするようにしています。
(教師との関係性の構築のため)

今年度の取組と成果(2) アンケート実施

* キャリアカウンセリングの現状を多角的に把握

⇒ キャリアカウンセリングアンケートの実施

質問項目

- ・ねらい・時数に関すること～
- ・教材の書式や活用に関すること～
- ・実施状況や改善点に関すること～

- ⇒ 回答数：17
実践に基づく貴重な意見を得ることができた。

- ⇒ 実践例や教材への反映

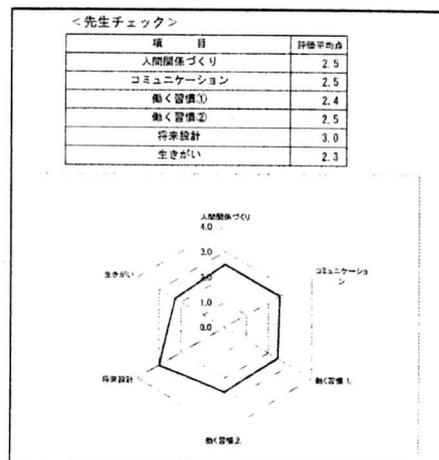
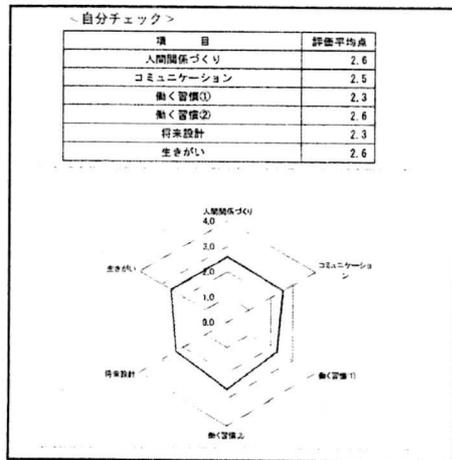
学年 進路学習「自己チェックシート」

記入日	令和 年 月 日	学科	学年	氏名
-----	----------	----	----	----

2024年度版(試案)

★チェック★ 1:できないことが多い 2:できるけどできない時がある 3:おおむねできる 4:確実にできる

項目	番号	内容	自分 チェック	平均	自分チェック掲載	先生の チェック	平均	備考欄	
人間関係づくり	1	自分のよいところを言えますか。	4	2.6	1	2	3	4	2.5
	2	自分の課題を言えますか。	2		1	2	3	1	
	3	誰とでも仲良くできますか。	3		1	2	3	2	
	4	あなたと素直に話を聞くことができますか。	1		1	2	3	3	
	5	自分の良くない態度や、間違いを反省できますか。	4		1	2	3	4	
	6	先輩や先生方と話す時に、言葉遣いに気を付けて話していますか。	2		1	2	3	1	
	7	嫌なことを言ったつもりが向付くことがわかりますか。	3		1	2	3	2	
	8	相手のことを考えて、思いやりをもって話し方や行動ができますか。	1		1	2	3	3	
	9	原りに気を配りながら、礼儀で仕事ができますか。	4		1	2	3	4	
	10	困った時に、周や先生のアドバイスを聞いて行動することができますか。	2		1	2	3	1	
コミュニケーション	11	相手の顔をみて話すことができますか。	3	2.5	1	2	3	2	2.5
	12	元氣よく挨拶をしていますか。	1		1	2	3	3	
	13	はっきりと返事ができていますか。	4		1	2	3	4	
	14	「ありがとうございます」という感謝の気持ちを伝えていきますか。	2		1	2	3	1	
	15	「すみません」「ごめんなさい」という謝罪の気持ちを伝えていきますか。	3		1	2	3	2	
	16	声の大きさに気を付けて、はっきりと話すことができますか。	1		1	2	3	3	
	17	困った時に、「手伝ってください」と言えますか。	4		1	2	3	4	
	18	仕事が終わったときに報告ができますか。	2		1	2	3	3	
	19	体の社会が早い時に報告ができますか。	3		1	2	3	1	
	20	指示を聞いて間違わずに仕事ができますか。	1		1	2	3	2	
	21	敬語を使って話すことができますか。	4		1	2	3	3	
	22	相手の話に合わせて会話ができますか。	2		1	2	3	4	
	23	分からないときに質問することができますか。	3		1	2	3	1	
	24	判断できないときに相談することができますか。	1		1	2	3	2	
	25	自分の意見や気持ちをはっきりと伝えることができますか。	4		1	2	3	3	
働く習慣	26	ちかしたところを把握できますか。	2	2.3	1	2	3	4	2.4
	27	次に使う入の事を考えて、トイレをきれいに使うことができますか。	3		1	2	3	1	
	28	清潔(手洗い、身だしなみなど)に気を付けていきますか。	1		1	2	3	2	
	29	マナーを守って仕事をすることができますか。	4		1	2	3	3	
	30	身の回りの整理整頓ができますか。	2		1	2	3	4	
	31	手洗いや除菌ができますか。	3		1	2	3	1	
	32	十分な睡眠をとり、体調を整えて学校に来ていますか。	1		1	2	3	2	
	33	安全に仕事ができますか。	4		1	2	3	3	
	34	靴で仕事ができますか。	2		1	2	3	4	
	35	責任をもって最後まで仕事ができますか。	3		1	2	3	1	
将来設計	36	時間を有効に仕事をするすることができますか。	1	2.6	1	2	3	2	2.5
	37	ルールやマナーを守って仕事ができますか。	4		1	2	3	3	
	38	根気よく、集中して仕事ができますか。	2		1	2	3	4	
	39	丁寧に正確に仕事ができますか。	3		1	2	3	1	
	40	指示がなくとも、自分で判断して仕事ができますか。	1		1	2	3	2	
	41	気持ちの持ちが良く、落ちついて仕事ができますか。	4		1	2	3	3	
	42	手早く仕事ができますか。	2		1	2	3	4	
	43	働くために必要な体力や能力がありますか。	3		1	2	3	1	
	44	「働きたい」という気持ちがありますか。	1		1	2	3	2	
	45	将来やってみたい仕事がありますか。	4		1	2	3	3	
生きがい	46	自分の目標に向けて努力してみたいと思いますか。	2	2.3	1	2	3	4	3.0
	47	生徒会活動(学校行事等)を頑張ってみたいと思いますか。	3		1	2	3	1	
	48	学校の仕事を頑張ってみたいと思いますか。	3		1	2	3	2	
	49	部・同好会・生徒会・校・学級活動等を頑張ってみたいと思いますか。	4		1	2	3	3	
	50	休日に気分転換できる楽しみや趣味がありますか。	2		1	2	3	4	
	51	一人で(バス、J.R.、地下鉄)に乗れますか。	3		1	2	3	1	
	52	一人で買物に行けますか。	1		1	2	3	2	
	53	作業学習や職業実習、地域での活動を通してやりがいを感じていますか。	4		1	2	3	3	



「学校生活の目標」	
【前期】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【 前期の目標 】	
【 生徒の考え 】	
【先生からのアドバイス】	
【目標達成に向けて】	

【中間】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【 振り返り 】 ※目標がどれくらい達成できたかを記入します	
【先生からのアドバイス】	

【後期の目標】※中間カウンセリングの際に記入します
【目標達成に向けて】

【年度末】カウンセリング： 月 日	担当者名：
【振り返り】※目標がどれくらい達成できたかを記入します	
【先生からのアドバイス】	
【次年度の課題】※次年度の重点課題（目標）にリンクします	

【メモ】

「コミュニケーションの目標」	
【前期】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【 前期の目標 】	
【 生徒の考え 】	
【先生からのアドバイス】	
【目標達成に向けて】	

【中間】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【 振り返り 】 ※目標がどれくらい達成できたかを記入します	
【先生からのアドバイス】	

【後期の目標】※中間カウンセリングの際に記入します
【目標達成に向けて】

【年度末】カウンセリング： 月 日	担当者名：
【振り返り】※目標がどれくらい達成できたかを記入します	
【先生からのアドバイス】	
【次年度の課題】※次年度の目標にリンクします	

【メモ】

「仕事の目標」	
【前期】 カウンセリング：	月 日 担当者名：
【前期の目標】	
①	
②	
【生徒の考え】	
【先生からのアドバイス】	
【目標達成に向けて】	
①	
②	

【中間】 カウンセリング：	月 日 担当者名：
【振り返り】 ※目標がどれくらい達成できたかを記入します	
①	
②	
【先生からのアドバイス】	

【後期の目標】 ※中間カウンセリングの際に記入します	
①	
②	
【目標達成に向けて】	
①	
②	

【年度末】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【振り返り】 ※目標がどれくらい達成できたかを記入します	
①	
②	
【先生からのアドバイス】	
【次年度の課題】 ※次年度の目標にリンクします	
①	
②	

「家庭生活の目標」 (家庭・地域における活動)	
【前期】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【 前期の目標 】	
【 生徒の希望や考え 】	
【先生からのアドバイス】	
【目標達成に向けて】	

【中間】 カウンセリング： 月 日	担当者名：
【 振り返り 】 ※目標がどれくらい達成できたかを記入します	
【先生からのアドバイス】	

【後期の目標】※中間カウンセリングの際に記入します
【目標達成に向けて】

【年度末】カウンセリング： 月 日	担当者名：
【振り返り】※目標がどれくらい達成できたかを記入します	
【先生からのアドバイス】	
【次年度の課題】※次年度の目標にリンクします	

【メモ】

1 研究の成果

(1)教材発掘グループ

- ・特別支援学校における、道徳の今後の在り方や本校における道徳の授業づくりについて理解を深めることができた。
- ・次年度に向けて、新2、3学年で活用できそうな教材を整理することができた。
- ・グループのメンバーが1つの題材を担当し、本校の現状に合ったものを選択し、グループ内で検討することができた。
- ・これまで全学校生活に渡って内在する状態が目に見える形になった。
- ・発掘作業により、多くの題材に触れることができた。

「集団生活の決まり（4月）茶谷」		
題材	内容項目	副教材
<ul style="list-style-type: none"> ・「小樽高等支援学校の生活のきまり」<1学年> ～どうして決まりや規則があるの？～ ・「小樽高等支援学校～高校生の生活を知らう～」 ・「自己理解、他者理解を深めよう」（2学年） 自己理解と他者理解 ・「小樽高等支援学校～高校生の生活を確かしよう～」 ・「社会生活と望ましい姿とは？」（3学年） ～自己理解と他者理解 ～社会に出るための準備「自由と責任」 ・「高校生の生活と社会のルール」 	自主・自立 自由・責任 礼儀 道徳精神 公徳心 よりよい学校生活 集団生活の決まり 北海道の特別高等支援学校 高校生の生活	本校 「生活のきまり」 「高校生の生活」 ～指導部から

「望ましい生活習慣（4月）長田」		
題材	内容項目	副教材
<ul style="list-style-type: none"> ・「自覚まし時計」<1学年> ～自分でできることは自分でするために大切なことは何？～ ・「流行おくれ」<1学年> ～節度ある生活を送るために大切なことは何？～ ・「礼儀正しいふるまい」<2学年> ～礼儀正しいふるまいについて考えよう～ ・「なれなかつたりレーの選手」<2学年> ～後悔しないために日頃から大切にしなければならないこと～ ・「自然教室での出来事」<3学年> ～よりよい生活を送るために大切なことは何だろう～ ・「夢中になるのは悪いこと？」<3学年> 	節度・節制 北海道の特別高等支援学校	光村図書 「道徳」 

「防災への意識（8月）山末」		
題材	内容項目	副教材
<ul style="list-style-type: none"> ・「セッケ浜でみつけた」<1学年> ・「みんなで守る命」～高台に～<2学年> ・「いつまでも繋がらない母の携帯電話」<3学年> 	友情、信頼 社会参加 生命尊重 集団生活の向上 生命の尊重 家族愛など	動画 「一日防災学校」 宮崎市教委資料 「震災で本当にあった泣ける話」

「勤労の尊さ・希望の実現（9月）上村」		
題材	内容項目	副教材
<ul style="list-style-type: none"> ・「好きな仕事が安定か悩んでいる」<1学年> ・「Disney 掃除の神様が教えてくれたこと」<1学年> ・「あるレジ打ちの女性」<2学年> ・「プロフェッショナル 仕事の流儀」<3学年> ～心を込めて、当たり前前日常を ビル清掃 新津善子～ ・「プロジェクトX」～史上最高の営業マン～<その他> ・「プロフェッショナル 仕事の流儀」<その他> 	勤労 公共の精神 プロジェクトX リーダーたちの言葉 言葉	・出版なし ・SBクリエイティブ ・日本文芸出版 「あすを生きる3」 ・NHKティチャーズ・ライブラリー ・文春文庫 「リーダーたちの言葉」 ・NHK出版新書

(2)年間指導計画グループ

①知的障害教育における「特別の教科 道徳」の在り方や、本校における「特別の教科 道徳」の取組について理解を深めることができた。(両グループ共通)

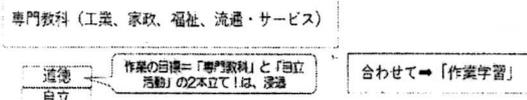
1、「これまでの研究の経緯について」

・令和2年度に「全体計画」はできたが、指導の充実には「年間指導計画」が必要だった。
・指導要録に要がある。
⇒その方が、指導要録の評価へつながり、記入「特別の教科 道徳」欄が新設される規程1年1から「個別の指導計画」の様式が改訂し、「特別の教科 道徳」の欄を設ける必要がある
⇒個別の指導計画の様式を検討してみたら…
⇒「目標」や「主な学習活動」を記入するには、「年間指導計画」が必要である。

3 特別の教科 道徳	道徳・自立をMSP 10ポイント×4枠以内	評価をMSP 10ポイント×6枠以内
目標 学習活動 評価 指導者の活動 学習者の活動	道徳・自立をMSP 10ポイント×4枠以内	評価をMSP 10ポイント×6枠以内

①「特別の教科 道徳」の押さえについて

・これまで、「道徳と自立は、主として作業学習で指導する」となっているが、自立活動はともかく、道徳を合わせて指導している認識は薄い。



・「特別の教科 道徳」をどのように指導するかは、各校に任されている。

- これさえ守れば
 - ・知的の特色は、教育活動全体を通じて行う考えを引き継ぐ
 - ・年間35週行うことを標準
- いづれの方法でもよい
 - ・随時割に1コマ取こしてもよい
 - ・必要があれば、特定の学期又は特定の期間に行ってもよい
 - ・内容の一部又は全部を合わせて指導を行うことも可能

①「特別の教科 道徳」の押さえについて

・「年間指導計画作成」と「個別の指導計画を改訂」するこの機会に、道徳の押さえも改めて整理する必要がある。

・時間割に1コマ取す。
 × 時間割を大きく変える
 × 準備時間が足りない

・特定の学期又は特定の期間に行ってもよい。
 ○ 無理なくできそう
 ○ まずはこの方法で

・内容の一部又は全部を含めて指導を行うことも可能。
 × いくつかを指導したか不明
 × 評価が書きにくい

・現2、3年は、「道徳と自立は主として作業学習で指導する」を継続。
 →表録の様式も個別の指導計画にも変わらない。

・R4年度入学生から、「道徳は主として作業学習と“特定に期間で指導する”へ変更。
 →その方が、何を道徳として指導するかははっきりして、個別の指導計画の評価に指導要録の記入がしやすい。

②“特定の期間で指導する内容”について

・担任の先生が無理なく指導できる方法とは？
 ・年度初めのLHRを整理できないか？

・学校行事との関係から、特定の期間で指導する内容をピックアップする。

特定の期間で指導する内容(17.5時間)	授業学習で主に指導する内容(17.5時間)	特別活動として取り扱う内容
○卒業集会(学級ごと)及び、それを受けた学級活動 ○行事の事前・事後の内、「息巻の理解」に関する内容 ・儀式行事の事前事後学習(息巻の理解) ・現場実習の事前事後学習(息巻の理解) 宿泊研修、見学旅行の事前事後(神慮、協力) ○その他 ・健康診断に際する学級指導 ・遊戯訓練に際する学級指導 SDGs(ユネスコスクール)についての学習 開校記念日に際する学級指導	卒業学習で主に指導する内容(17.5時間) ○道徳教育全体計画や基礎的な指導計画を基に、特に次の内容に着目して指導する。(本校独自で決まり) [自主、自律、自由と責任] [尊重、敬意] [向上心、団結の伸長] [思いやり、感謝] [礼儀] [社会奉仕、公共の精神] [防災] [国際理解、国際貢献] [よりよくなる喜び]	○学校行事 ○生徒会活動 ○ホームルーム活動

- ・文献研修により、理解を深めた。
- ・研究集録第13号を基に、本校でのこれまでの取り組み(令和3年度年間指導計画作成)の経緯や今後の課題について、共通理解を深めた。
- ②令和3年度に作成した年間指導計画について、学年進行に合わせた指導内容を検討して、3学年分の年間指導計画を見直し改訂版を作成した。
- ・他校の年間指導計画を参考に、令和3年度に作成した年間指導計画の「◆題材名及び指導内容」を見直し、追加や変更を行った。
- ・グループのメンバーで題材の見直しを月ごとに分担し、全員で内容、表現、学年傾斜(発展性)を検討した。
- ・分掌等の行事にすべきか、道徳にすべきか、LHRにすべきか検討に連携が必要なことがあった。

2、「道徳グループの研究の目標について」

学年	1	2	3
道徳	1. 道徳の重要性を認識し、道徳的行動を実践する。 2. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。	1. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。 2. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。	1. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。 2. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。

① 今後の課題
 ①年間指導計画の様式が他の教科と異なる。
 →現時点では、3学年の流れが分かりやすいため、この様式で作成しておく。
 →次年度以降、「基礎となる指導計画」と学年ごとの「年間指導計画」に分けることを考えていく。
 ⇒3学年分そろえるまでは、現状のものを活用する。

2、「道徳グループの研究の目標について」

① 1学年の内容の充実や教材・教具の充実(題材、ワークシート)が必要である
 →今年度はまず1学年の内容がある程度固め、次年度に学年進行で内容の充実を図っていく。
 →そのために、校内研究と連携し、教育課程検討委員会のメンバーや各学年担当者などとした校内研究グループの工夫についても検討する。

① 1学年の題材名はこれでよいのか、内容に不足はないか検討する。(年間指導計画担当)
 ② 2、3学年もほぼ同じ内容と言言になっているので、学年傾斜をつけた内容にしたい。 ※2学年は必須とする。3学年はできれば作成する。(年間指導計画担当)
 ③ 必要な題材には、題材にあった教材を作成する。(教材発掘担当)

検討の過程

・各月の担当者の原案を基に、内容、表現、学年傾斜を一つずつ検討した。

学年	1	2	3
道徳	1. 道徳の重要性を認識し、道徳的行動を実践する。 2. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。	1. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。 2. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。	1. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。 2. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。

※2、3年生の内容が多すぎるため、削減して1ヶ月(78)へ変更。

検討結果(成果)

・3学年分の年間指導計画を見直し、改訂版を作成した。

学年	1	2	3
道徳	1. 道徳の重要性を認識し、道徳的行動を実践する。 2. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。	1. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。 2. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。	1. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。 2. 道徳的行動の大切さを理解し、道徳的行動を実践する。

2 今後の課題

(1)教材発掘グループ

- ・年間指導計画との整合性を整え、内容を学年ごとに整理する。実際に道徳の授業で、各学級で活用できるように略案やワークシートなどをアップデートしていく。
- ・次年度に向けて、副教材やVTR教材など指導する上で必要なものをそろえる必要がある。
- ・今回の研究グループで取り扱えなかった題材については、今後も引き続き校内研究で進めていく。
- ・見えそうな材料を探しているが、映像が多くなりがちである。
- ・インターネット検索だけではなく、教師用の副読本的な書籍があると良かった。

(2)年間指導計画グループ

- ①改訂した「特別の教科 道徳」の年間指導計画は、他の教科の「年間指導計画」と様式が異なっている。
 - ・3学年の流れが分かり検討しやすいため今年度作成したものは残しつつ、次年度は他の教科と同様に「学年ごとの年間指導計画」を作成する。そこに発掘した教材をはめこんでいく。
- ②「基底となる指導計画」の更新
 - ・「基底となる指導計画」の更新ができていない(旧様式で作成したままとなっている)ため、作成、更新が必要。

3 作成資料など

- ・教材開発グループ:「勤労の尊さ、希望の実現」教材案 【別紙1】
- ・教材開発グループ:「防災」学習指導略案①、ワークシート、動画のあらすじ 【別紙2】
- ・教材開発グループ:「防災」学習指導略案②、ワークシート、読み物 【別紙3】
- ・年間指導計画グループ:「年間指導計画(案)」【別紙4】

1 学年

○『好きな仕事か安定か悩んでいる』 出典：なし

教材：「好きな仕事か安定か悩んでいる」という就活生からの新聞投稿に対する4人の返答から自分に問う。①牧師：やりたいことをやるべき

②大手企業会社員：現実的な生き方を選択して自分の基盤を作る

③転職経験の飲食店経営者：焦らず探し間違ったらやり直せばいい

④アルバイト：同じく悩んでる

○『ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと』 出典：同書 SBクリエイティブ

教材：あこがれて入社した会社だったが、清掃の部門に配属になり落ち込んでいたところ、掃除の神様と呼ばれる人からの教えでやりがいを感じ、その道を究めるまでに至る過程から職業観を考える。

2 学年

○『あるレジ打ちの女性』 出典：「あすを生きる3」日本文教出版

教材：何をやっても長続きしない女性がレジ打ちの仕事を始め、徐々に仕事の喜びに気づく話から、個人の好みや経済性を優先させるばかりではなく、働くことによって生きがいを感じたり、人の役に立つことができたりすることに気づく。

3 学年

○『プロフェッショナル 仕事の流儀 心を込めて、当たり前を ビル清掃 新津春子』

出典：「映像」NHK ティーチーズ・ライブラリー / 著書「清掃はやさしさ」ポプラ社
書籍「プロフェッショナル 仕事の流儀 壁を打ち破る34の生き方」

教材：中国残留日本人孤児家族が生きるために仕方なく始めた「清掃」の仕事から、やりがいを感じてその道を究めるまでに至る過程から職業観を考える。

その他の教材案

○『プロフェッショナル 仕事の流儀』 出典：NHK 出版新書

「プロフェッショナル 仕事の流儀 壁を打ち破る34の生き方」

教材①：「磨きの神様」研磨職人・小林一夫さんの、弟子の芝山さんへの指導を通して、仕事への向き合いかたや、働く姿勢について考える。「ゆっくりでいい、でもあきらめるな」

教材②：クレーン技師・上坪茂さんの仕事への向き合いかたを通して、働く姿勢について考える。「速くて一人前、優しくて一流」

教材③：ビル清掃・新津春子さんの仕事への向き合いかたを通して、働く姿勢について考える。「やさしさで、清掃する」

○『プロジェクト X』 出典：文春文庫「プロジェクト X リーダーたちの言葉」

教材：史上最高の営業マン、ソニーヨーロッパ支配人・小松万豊さんの、仕事への向き合いかたを通して、働く姿勢について考える。「北極でもうまい氷なら売れる。それをやるのが営業マンだ」

第1学年 特別の教科 道徳 学習指導略案			
対象	科名	日時	令和 年 月 日 ()
担当	○		校時 : ~ :
単元名	防災への意識 「七ヶ浜でみつけた」	場所	各教室
時間	学習活動	指導上の留意点	資料等
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ■挨拶 ■出席確認 ■本時の学習内容 ・防災の定義、道徳の内容、動画の視聴 ・ワークシートへの記入 ・発表 		
9:05	<p>1 <u>防災（定義）について確認する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の地震災害について想起する。 ・「台風や地震、事故などの災害による被害を防ぐ取組のこと」 ・災害対策基本法では「災害の予防から被災後の復旧、復興活動も含めて防災」と定義されている。 <p>2 <u>道徳の内容について知る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災は「自然への畏敬の念」「生命の尊重」「社会参画」「友情」「信頼」「向上心」「希望と勇気」「家族愛」など <p>3 <u>資料 動画「七ヶ浜でみつけた」を視聴する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災。当時の証言をもとに作成された。 <p>4 <u>ワークシートに取り組み考えをまとめる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5場面に分け、それぞれ道徳的観点に基づいた設問を設定し、内容を振り返りながら思考を深める。 <p>①海人は、なぜ弥生を強引に避難させたのか。</p> <p>②海人に町を案内された弥生の気持ちは。</p> <p>③大津波警報が発令された時の二人の気持ちは。</p> <p>④避難生活中も家族が頑張ったのはなぜか。</p> <p>⑤10年ぶりに七ヶ浜を訪れた弥生の気持ちは。</p> <p>○全体を通して、防災のために自分ができることは何か。</p> <p>5 <u>ワークシートの記載内容を発表し合う。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災のために自分がかつて切ること」などを発表し合う。 	<p>1993年北海道南西沖地震</p> <p>1995年1月阪神淡路大震災</p> <p>2011年3月東日本大震災</p> <p>2018年北海道胆振東部地震</p> <p>今回の学習で、考えてほしい道徳の内容を分かりやすく伝える。</p> <p>各場面の内容に含まれる道徳的観点に関する設問を5つ設定する。</p> <p>①友情、信頼 ②友情、社会参画 ③生命の尊重、勇気 ④家族愛、強い意志 ⑤向上心、個性の伸長</p>	<p>アニメ</p> <p>動画19分</p> <p>宮城県七ヶ浜町製作</p> <p>ワークシート</p>
9:45	<ul style="list-style-type: none"> ■挨拶 <p>1 指導者の話を聞く。</p>	<p>・可能な限り、全員の意見を発表させ共有する。</p>	
まとめ (5分)			

★アニメ動画「七ヶ浜でみつけた」(19分)をみて、次の設問に考えをまとめましょう。

1 場面1「転校生が来た」

津波注意報が出た時、海人はなぜ、東京からの転校生の弥生を強引に手を引いて高台に避難させたのでしょうか。海人や弥生の気持ちを考えて書きましょう。



①海人(かいと)の気持ち

②弥生(やよい)の気持ち

2 場面2「転校生を街案内」

海人に街を案内された転校生弥生の気持ちを考えて書きましょう。

3 場面3「卒業式 地震と津波」

中学校の卒業式を終え、海岸に集まった仲間5人。進路について語り合っていた時、突然「大津波警報」が発令。その時の海人の気持ちを考えて書きましょう。

4 場面4「避難生活」

津波からの避難生活中も、家族が頑張れたのはなぜかを考えを書きましょう。

5 場面5「10年後、復興した街での再開」

10年ぶりに七ヶ浜を訪れた弥生の気持ちを考えて書きましょう。

6 このアニメ動画をみて、「防災のために自分ができること」は何かを考えて書きましょう。

場面	時間	あらすじ
転校生来る	3分36秒	地元の小学校6年生の仲間4人が海釣りをしているところに、東京からの転校生弥生（やよい）が通りかす。その後、町中に津波注意報が出され、海人（かいと）は避難しようとしなない弥生の手を引いて高台に避難する。「津波を軽く見るな」と叱責される弥生だが、互いの言い分を反省し弥生と海人は仲直りする。
転校生を街案内	2分40秒	町に詳しい海人は、弥生を町中案内する。外国人に英語で観光案内したり、ラーメンのおいしい店で敏行さんを紹介したり、海人の父親が働く海苔の要職を見せたりしているうちに、季節は冬を迎えていた。
卒業式 地震と津波	5分40秒	中学校の卒業式を終え、海岸に集まった弥生を含む5人の仲間たち。高校卒業後の自分たちの進路について語り合う。弥生は「この町でやりたいことを見つけない」という。すると突然、大きな地震が起こり「大津波警報」が発令される。避難の途中で転んでけがをした弥生を背負って、海人は高台へと急いで避難する。津波のシーン。
避難生活	4分20秒	焚火をしながら、差し入れのおにぎりを食べる避難した人たち。家族みんなの無事を確認したり、建物の屋上から悲惨な景色を見つめる。1週間、各自が復興に向けてできることに取り組むが、もとの場所には住めない。弥生の家族は、罪悪感を感じながらも仮設住宅を離れ、東京の親せき宅へと引っ越すこととなる。
10年後の 再会	2分44秒	10年後、弥生は大学で研究活動に取り組んでいる。ある日、弥生は七ヶ浜を久しぶりに訪れ、復興活動をしている海人夫妻と出会う。そして自然の回復力を感じる。また、昔の仲間4人と再会し、10年たっても変わらない友情をかみしめる。

第2学年 特別の教科 道徳 学習指導略案			
対象	科名	日時	令和 年 月 日 ()
担当	○		校時 : ~ :
单元名	防災への意識 「みんなで守る命」	場所	各教室
時間	学習活動	指導上の留意点	資料等
9:00 導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ■挨拶 ■出席確認 ■本時の学習内容 ・防災の定義、道徳の内容、資料の読み合わせ ・ワークシートへの記入 ・発表 		
9:05 展開 (40分)	<ol style="list-style-type: none"> 1 <u>防災(定義)について確認する。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の地震災害について想起する。 ・「台風や地震、事故などの災害による被害を防ぐ取組のこと」 ・災害対策基本法では「災害の予防から被災後の復旧、復興活動も含めて防災」と定義されている。 2 <u>道徳の内容について知る。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・防災は「自然への畏敬の念」「生命の尊重」「社会参画」「信頼」「希望と勇気」「家族愛」など 3 <u>資料「津波の映像」を見る。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年3月東日本大震災の津波の映像 大きな被害があった。たくさん亡くなった。銭函にも来るかも。 4 <u>資料「高台へ」を読み合わせする。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災をもとに宮崎市で防災教育のために作成された。 5 <u>ワークシートに取り組み考えをまとめる。</u> <ol style="list-style-type: none"> ①津波の映像を見た感想 ②一郎さんが叫んだ時の気持ちは みんな助かるか心配。声が聞こえたかな。無事に避難できるか。 ③被害者が出なかったとき、一郎さんはどう思ったか 助かってよかった。避難訓練の成果がでた。協力したおかげ。 ④今、津波が来たらどんな状況になるか たくさんの人で避難所がいっぱい。逃げ遅れる。 ⑤その時、どんな行動をしようと思うか 困っている人を助ける。お年寄りを助ける。誘導する。 6 <u>ワークシートの記載内容を発表し合う。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・津波が来たとき、自分ならどうするか発表する。 	<p>1993年北海道南西沖地震 1995年1月阪神淡路大震災 2011年3月東日本大震災 2018年北海道胆振東部地震</p> <p>今回の学習で、考えてほしい道徳の内容を分かりやすく伝える。</p> <p>津波の映像を提示し、被災の状況を想像させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①身近な問題として考えさせる。 ②消防団員としての自覚に気づかせたい。一人の被害者も出さないために走り回る姿に共感させたい。 ③達成感、安堵感、不安感など、様々な思いを導きたい。 ④自分の置かれた状況での発想につなげたい。 ⑤命を大切にす=互いの命を守る意識につなげたい。周りの人のために行動する役割に気づかせる。日ごろから防災意識が高く、十分な訓練備えをすることの大切さを伝えたい。 	<p>資料映像 津波の動画 (4分30)</p> <p>読み物資料 「高台に」 宮崎市防災教育資料</p> <p>ワークシート</p>
9:45 まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ■挨拶 1 指導者の話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、全員の意見を発表させ共有する。 	

★資料「高台に」を読み合わせして、次の設問に考えをまとめましょう。

1 津波の映像を見て、どんなことを感じましたか。

2 一郎さんは、どんな思いや気持ちで「早く高台に!」と叫んでいたと思いますか。

3 被害者が出なかったことで、一郎さんはどんな気持ちだったと思いますか。

4 今、地震が起こり津波が来たとしたら、みんなはどんな状況、様子になると思いますか。

5 その時、あなたはどんな行動をしようと思いますか。

「高台に・・・」

「高台に！早く高台に！」町役場の一に勤める一郎さんは、消防車から拡声器で叫び続けた。

初春の屋下がり、庁舎は激しい揺れに襲われた。今まで経験したことのない揺れに、代々語り継がれているあの惨事が頭をよぎった。明治三陸大津波（1896年）や昭和三陸津波（1933年）。それぞれの津波で354人と113人が命を奪われた。その命の多くは、一郎さんの暮らす地元古崎地区が占めていた。

「津波だ。これは、きっと来るぞ。」そう予感した一郎さんは、役場から約7キロ離れた地元消防団の詰め所に、即刻、車を走らせた。数分で到着。すぐに消防団の仲間とともに消防車両に飛び乗り、ただひたすら拡声器で叫びながら地元を走りまわった。住民の聞き漏らしがないようにと走る道を選びつつ、向かった先はある高台だった。海拔15メートル余り。十分間がむしやりに叫び、走った。今思うと、何十分も叫びまわっていたかのようにさえ思える。そして任務を終えた消防団員全員の高台への退避が完了した。そして団員は、行きつく間もなく住民たちが高台から降りないように、低地につながる町道を封鎖した。毎年住民とともに重ねてきた訓練通りに……。だが、胸の一部に不安がよぎっていた。「すべての住民が避難してくれただろうか……。」

一郎さんは、高台から息を殺し、じっと古崎地区を見下ろしていた。やがて、これまで見たこともない想像をはるかに超える勢いで、津波が古崎地区を襲ってきた。つい先ほどまでの日常の平和な暮らしが、ずたずたに壊されていく。津波は容赦なく一郎さんたち古崎地区住民の生活の場を奪っていった。

高台に避難してきた人々は一様に、恐怖と悲しみの入り混じった叫び声を挙げながら、津波が故郷の町を飲み込んでいくのを目の当たりにしていた。

一郎さんは高台に立ったまま、襲いかかる津波をにらんでいた。聞こえてくる周りの悲鳴を時折案じながらも。そして、静かに瞼を閉じて、古崎地区から被害者が一人も出ないことを祈り続けた。

人口1万9000人の町から、古崎地区を含めて住宅45棟、漁業施設などの非住宅135棟に津波被害がでた。漁船に至っては7割近くを失った。

ところが、被害が大きかった沿岸自治体で唯一、古崎地区だけは、死者・行方不明者がゼロだった。その背景には、海のそばに丘陵地が広がる地形に恵まれていたこともあるが、何より住民の日ごろの十分な備えがあったことが挙げられる。

そして、それらに加えて、一郎さんたち消防団の意識改革があった。任務終了後は逃げることを徹底するようにしたのである。以前は、地震後も沿岸で潮位を見守る団員がいた。そのことが、住民の避難の遅れにつながるのではないか。つまり、消防団が率先して退避することで、住民も必死に逃げると考えた。防災訓練では、消防団員の退避行動や、低地に続く町道の道路封鎖を訓練のメニューに加えた。

こうして、けが人一人出なかった、古崎地区の奇跡は生まれたのであった。

別紙4

特別の教科 道徳 年間指導計画(案)

目標		□人間としての在り方生き方を考え主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。											
学年	重点目標	1 学年			2 学年			3 学年					
		□素晴らしいものを素直に受け入れる感性と、コミュニケーションの基礎を身に付け、豊かな人間関係を築こうとする態度を育む			□様々な人の思いに共感する感性を身に付け、他者の個性を尊重し、様々な人と協力して物事に取り組もうとする態度を育てる			□思いやりの心を実践するとともに、生きがい、やりがいを見付けて自分らしい生き方を模索し、集団や社会の一員として進んで社会に貢献しようとする態度を育む					
月	時数			単元(題材)・指導内容 *特定の期間に指導する内容						備考			
	1年	2年	3年	1 学年	2 学年	3 学年	学習指導要領項目	道徳でのカウント	特別活動(学校行事・LHR)	進路学習	教材教具・ICT	SDGsの関与	
4月		1	1		◆2年生としての自覚 (始業式後の学年集会1h) ・学年目標を通して、2年生としての在り方、進路実現に向けた決意をもつ。	◆3年生としての自覚 (始業式後の学年集会1h) ・学年目標を通して、3年生としての在り方、進路実現に向けた決意をもつ。		・始業式後の学年集会(2,3年)	始業式 着任式 入学式 新入生歓迎会				
			1		◆後輩を迎える (入学式の準備1h) ・後輩を迎える準備を通して、先輩としての言動を考える。	◆後輩を迎える (入学式の準備1h) ・後輩を迎える準備を通して、先輩としての言動を考える。	【礼儀】 【相互理解・寛容】	・始業式「入学式の準備」(2,3年)	入学式準備				
		1	1	◆集団生活のきまり (入学式後の学年集会1h) ・小樽高等支援学校の生活のきまりを知り、規則がある意味、規則を守る大切さについて考える。	◆集団生活のきまり ◆学級の仲間、友達について (学年集会を受けた学級指導2h) ・学年目標から、自分達が目指す姿や言動を考える。 ・学級や学校の一員としての自覚、集団の意義と自分の役割、望ましい学級集団とは ・思いやり、協力の意義 ・相手を理解し、自分と異なる意見を大切にする。	◆集団生活のきまり ◆学級の仲間、友達について (学年集会を受けた学級指導2h) ・学年目標から、自分達が目指す姿や言動を考える。 ・学級や学校の一員としての自覚、集団の意義と自分の役割、望ましい学級集団とは ・思いやり、協力の意義 ・相手を理解し、自分と異なる意見を大切にする。	【自主・自律、自由と責任】 【礼儀】 【適法精神、公徳心】 【公正、公平、社会正義】 【よりよい学校生活、集団生活の充実】 【よりよく生きる喜び】 【相互理解・寛容】 【真理の探究、創造】	・入学式後の学年集会1h(1年) ・入学式当日のLHRの内1hを道徳でカウント(2,3年)	入学式 1年各種オリエンテーション 部・同好会活動開始 学級目標、係	キャリアカウンセリング			
		1		◆本校生としての自覚 ◆学校生活の目標 (入学式後の学級指導1h) ・よりよい高校生活を送るために大切にしたい言動について考える。 ・校訓「感動、協働、躍動」の意味を考える。 ・充実した学校生活、目標を持つ大切さについて考える。				入学式当日又は翌日学級指導の内1hを道徳でカウント(1年)					
		1	1	◆自分を見つめる (入学式を受けた学級指導1h) ・長所や短所を知る。今の自分が社会に出てできること。 ・より高い目標を持つ、困難な失敗を乗り越えることの大切さ	◆自分を見つめる (入学式後片付け、学級指導1h) ・長所や短所を知る。今の自分が社会に出てできること ・より高い目標を持つ、困難な失敗を乗り越えることの大切さ	【向上心、賢性の伸長】 【希望と勇気、克己と強い意志】 【よりよく生きる喜び】 【真理の探究、創造】	・入学式当日の学級指導の内、1hを道徳でカウント(2,3年)		キャリアカウンセリング				

	1年	2年	3年	1 学年	2 学年	3 学年	学習指導要領項目	道徳	特別活動(学校行事・LHR)	進路学習	教材教具・ICT	SDGsの視点
4月	5	3	4	◆望ましい生活習慣 (検診に関わる LHR5. 2) ・望ましい生活習慣の意義、心身の健康、節度節制、よく考えた行動の大切さ	◆生活習慣と将来の生活 (検診に関わる学級指導3. 1) ・心身の健康の増進と、生涯にわたる意欲や習慣の大切さ	◆生活習慣と将来の生活 (検診に関わる学級指導3. 9) ・心身の健康の増進と、生涯にわたる意欲や習慣の大切さ	【節度・節制】	・各検診前後の学級指導(5~8月)を道徳でカウント)	各種検診 内科検診 歯科検診 眼科検診 耳鼻科検診			
5月	1	1	1	◆環境持続可能な社会のためにできること (学級指導 1h) ・SDGsやユネスコスクールについて知り、自分たちができることを考える。 ・国際的な視野、自然環境を大切にすることの意義。	◆環境持続可能な社会のためにできること (学級指導 1h) ・持続可能な社会のために自分たちができることを考える。 ・SDGsの達成目標と、自分たちの生活(教科、作業学習)とのつながりを考える。	◆環境持続可能な社会のためにできること (学級指導 1h) ・持続可能な社会のために自分たちができることを考える。 ・国際的な視野をもちSDGsの目標を達成する意義について考える	【国際理解、国際貢献】 【郷土の伝統、文化の尊重】 【我が国の伝統と文化の尊重】 【自然愛護】 【感動、畏敬の念】	・SDGsについての学級指導1h(金曜日 LHR)を道徳としてカウント (全学年)	夏季軽装開始 春の読書週間			
			1			◆仲間との協調、集団行動 (見学旅行に関わる事前1h) ・学年の一員としての自覚をもち、集団の意義と自分の役割について考える。 ・自主的な判断と責任について考える。	【よりよい学校生活、集団生活の充実】 【友情、信頼】 【自主、自律、自由と責任】 【よりよく生きる喜び】 【相互理解・寛容】 【我が国の伝統と文化の尊重】	・見学旅行の事前学習1hを(「意義等」に関する)道徳としてカウント(3年)	3年見学旅行 2年生徒面談週間 いじめアンケート			
6月	6日	1	1	◆勤労の尊さ、希望の実現 (現場実習に関わる事前学習1h) ・勤労の意義を理解し、働くことの喜びや生きがい、社会とのつながりを考える。 ・社会の一員としての役割を考える。 ・目標に向けた努力の尊さと希望の実現について考える。	◆勤労の尊さ、希望の実現 (現場実習に関わる事前学習1h) ・勤労の意義や将来の生き方について、考えを深める。 ・勤労を通じた社会貢献について考える。 ・目標に向けた努力の尊さと希望の実現について考える。	◆勤労の尊さ、希望の実現 (現場実習に関わる事前学習1h) ・勤労の意義や将来の生き方について、考えを深める。 ・勤労を通じた社会貢献について考える。 ・目標に向けた努力の尊さと希望の実現について考える。	【 <small>労働の尊厳</small> 】 【 <small>勤労の尊厳</small> 】 【 <small>希望と、勇気、自己の強い意志</small> 】 【 <small>よりよく生きる喜び</small> 】 【 <small>郷土の伝統、文化の尊重</small> 】 【 <small>我が国の伝統と文化の尊重</small> 】	・現場実習の事前学習1hを(「意義等」に関する)道徳としてカウント(2, 3年)	2年I期現場実習 3年I期現場実習			
			1	◆仲間との協調、集団行動 (宿泊研修に関わる事前学習1h) ・学級や学校の一員としての覚をもつこと、自分役割を果たす意義について考える。 ・集団の意義、よりよい集団とは何を考える。			【よりよい学校生活、集団生活の充実】 【友情、信頼】 【自主、自律、自由と責任】 【相互理解・寛容】 【感動、畏敬の念】 【真理の探究、創造】	・宿泊の事前学習1hを(「意義等」に関する)道徳としてカウント(1年)	1年宿泊研修 1, 3年生徒面談週間			
			1	◆学校の一員として (開校記念日に関わる学級指導1h) ・学校の歴史を知り、学校の一員としての自覚	◆よりよい校風を作る (開校記念日に関わる学級指導1h) ・協力し合ってよりよい校風をつくることの大切さを考える。	◆よりよい校風を作る (開校記念日に関わる学級指導1h) ・最上級学年として、よりよい校風や集団生活の充実について考えを深める。	【よりよい学校生活、集団生活の充実】 【相互理解・寛容】 【郷土の伝統、文化の尊重】 【我が国の伝統と文化の尊重】	・開校記念日の学級指導1h(金曜日 LHR)を道徳としてカウント(全学年)	開校記念日 生徒総会 議案書の審議 (北海道道民の日)			

				1 学年	2 学年	3 学年	学習指導要領項目	道徳	特別活動(学校行事・LHR)	進路学習	教員養成・ICT	SDGsの視点
7月	1	1	1	◆1学期のまとめ、夏休みの過ごし方(学年集会1h) ・1学期の生活を振り返る。 ・夏休みの過ごし方、ルールを知り、望ましい生活習慣について考える	◆1学期のまとめ、夏休みの過ごし方(学年集会1h) ・1学期の生活を振り返る。 ・夏休みの過ごし方、ルール、安全について考える。 ・規則正しい生活の意義や、望ましい生活習慣について考える。	◆1学期のまとめ、夏休みの過ごし方(学年集会1h) ・1学期の生活を振り返る。 ・夏休みの過ごし方、ルール、安全について考える。 ・将来の生活を見据えた望ましい生活習慣の意義や大切さについて考える。	【自主・自律・自由と責任】 【節度・節制】 【遊法精神・公德心】 【よりよく生きる喜び】	・終業式の学年集会1hを道徳としてカウント	参観日 終業式 スポーツレク 芸術鑑賞会 SNS講習会	2年職場見学		
8月	1	1	1	◆2学期に向けて(学年集会、二計測後の学級指導1h) ・学年目標を通して言葉遣い、仲間との接し方や距離感などについて考える ・1学期の反省をもとに2学期の学校生活の在り方、目標を考える。	◆2学期に向けて(学年集会、二計測後の学級指導1h) ・学年目標を通してよりよい学校生活について考える。 ・1学期の反省をもとに2学期の学校生活の在り方、目標を考える。	◆2学期に向けて(学年集会、二計測後の学級指導1h) ・学年目標を通してよりよい学校生活について考える。 ・1学期の反省をもとに2学期の学校生活の在り方、目標を考える。	【礼儀】 【遊法精神・公德心】 【よりよい学校生活、集団生活】 【向上心、習性の伸長】 【まじめにまじめにまじめに】 【よりよく生きる喜び】 【相互理解・寛容】 【真理の探究・創造】	・学年集会及び、二計測後の学級指導1hを道徳としてカウント(全学年)	始業式 学年集会	キャリアカウンセリング		
				◆防災への意識(避難訓練関わる学級指導1h) ・防災、避難訓練、交通安全、自然災害に備える意義。 ・災害の事実の理解と人間の有限性、いのちの大切さを考える。	◆防災への意識(避難訓練関わる学級指導1h) ・防災、避難訓練、交通安全、自然災害に備える意義。 ・災害の事実の理解と人間の有限性、いのちの大切さを考える。	◆防災への意識(避難訓練関わる学級指導1h) ・防災、避難訓練、交通安全、自然災害に備える意義。 ・災害の事実の理解と人間の有限性、いのちの大切さを考える。	【節度・節制】 【生命の尊さ】 【自然愛護】	・避難訓練に関わる学級指導1hを道徳としてカウント(全学年)	避難訓練② 1日防災学校			
				◆自分の大切さを知ろう(非行防止に関わる学級指導1h) ・いじめやそれにつながる行為、他者や自己を傷つける行為について考え、自分の大切さを実感する。 ・「いじり」や「いじめ」について考え、感じ方は人それぞれ違うことに気付く。	◆自分の大切さを知ろう(非行防止に関わる学級指導1h) ・いじめやそれにつながる行為、他者や自己を傷つける行為について考え、自分の大切さを実感する。 ・誰もが安心して過ごすために大切なことは何か考える。	◆自分の大切さを知ろう(非行防止に関わる学級指導1h) ・いじめやそれにつながる行為、他者や自己を傷つける行為について考え、自分の大切さを実感する。 ・相互理解や寛容、自分と同じように相手を大切にすることについて考える。	【自主・自律・自由と責任】 【遊法精神・公德心】	非行防止教室(全体講演)1h、非行防止教室後の学級指導1hを道徳としてカウント(全学年)	非行防止教室			
9月	1	1	1	◆働くということ(現場実習に関わる事前1h) ・働くことの意味や大切について考える。 ・仲間との協働におけるマナーやその意義を考える。 ・勤勉の尊さやその意味について考える。	◆勤労の尊さ、希望の実現(現場実習に関わる事前1h) ・勤労意義を理解し、将来の生き方について考えを深める。 ・勤労を通して社会に貢献する、好まれる人間像。 ・目標に向けた努力と希望の実現	◆勤労の尊さ、希望の実現(現場実習に関わる事前、事後1h) ・勤労意義を理解し、将来の生き方について考えを深める。 ・勤労を通して社会に貢献する、好まれる人間像。 ・目標に向けた努力、現場実習の成果と自己実現。	【社会奉獻・公益の精神】 【勤労】 【向上心、習性の伸長】 【希望と勇氣、克己と強い意志】 【礼儀】 【よりよく生きる喜び】 【郷土の伝統、文化の尊重】 【我が国の伝統と文化の尊重】	・現場実習の事前学習1hを(「意義等」に関する)道徳としてカウント(全学年)	1年現場実習 2年Ⅱ期現場実習 3年Ⅱ期現場実習			

月	時数			単元(題材)・指導内容 全学年共通	学習指導要領項目	備考				
	1年	2年	3年			道徳	特別活動(学校行事・LHR)	進路学習	教材教具・ICT	SDGへの関与
				* 右記の内容を中心に、主に作業学習で年間を通して指導する。	【自主、自律、自由と責任】 【節度、節制】 【向上心、個性の伸長】 【思いやり、感謝】【礼儀】 【社会参画、公共の精神】 【勤労】 【国際理解、国際貢献】 【よりよく生きる喜び】					
	17.5	17.5	17.5							

1 研究内容について

(1) 本グループ研究の期待される成果

- ・「主体的で対話的な深い学び」の視点を取り入れた授業の充実
- ・新しい授業フォームの検討(略案、指導案、単元・題材別指導計画等)

(2) 研究での取組

- ・本校における授業づくりに関する研究成果の確認
- ・「主体的で対話的な深い学び」の実践事例の発掘
- ・本校としての授業づくりのおさえ
- ・OKS授業フォーム(様式)の検討

2 研究の成果

(1) 本校における授業づくりに関する研究成果の確認

- ・本校で今まで取り組んだ、「アクティブ・ラーニング」(H28)、「合理的配慮」(H28)、「対話的な授業」(R3)の3つの研究内容について確認した。
- ・メンバーそれぞれの日々の授業で心掛けているポイントについて共有した。

- ・生徒同士で考えさせる。
- ・座っているだけにならないように生徒に言葉を掛ける。
- ・(製品などを)協力して組み立てる。
- ・自分の意見とは違う考えに気付いてもらえるような発問、場面設定を心掛けている。
- ・自分で考えて動くことを伝えている。

→どのポイントも今まで取り組んできた研究の内容に当てはまること、そしてどれも授業づくりにおいて大切であることを確認することができた。

- ・3つの研究の中で作成した略案についても確認したが、現在これらの略案を使用している人はいなかった。

→今後、作成しやすく、いろいろなポイントを意識していることが分かるような略案の形式を検討していきたいと確認した。

(2) 「主体的で対話的な深い学び」の視点を取り入れた実践事例について

- ・メンバーで、「主体的で対話的な深い学び」の実践事例の発掘を行い、主体的で対話的な深い学びとは、授業改善のポイントであることを確認することができた。
- ・実践事例の中で、「主体的で対話的な深い学び」により実現したい子どもの姿をイメージとして表したピクトグラムがあり、これを活用して指導計画などに取り入れるのは良さそうだという意見が多くあがった。

(3) OKS 授業フォームの検討

- ・メンバー同士で日々使用している略案を交流し、「主体的で対話的な深い学び」の視点をどのように取り入れるかを検討した。
- ・継続して使用できる略案にするため、作成しやすいもので、授業改善のポイントを分かりやすく表示できるもの考えたが、作成することはできなかった。「主体的で対話的な深い学び」のポイントは、1 単位時間ではなく、単元や題材計画など、まとまりの中で実現していくものであるため、今後は略案ではなく、ピクトグラムを取り入れた単元計画等を作成していくことが良いと考える。

(4) 本校の授業づくりについての検討

- ・副校長先生からの資料を基に、「本校としての授業づくりについて」を検討し、日々の授業づくりにおける工夫点などを共有した。

OKS 授業の指導や支援のおさえ（案）

～授業づくりの視点～

- (1) 授業においては、一人一人の生徒の実態や特性などに合わせて「できる状況づくり」を行い、「できた、わかった」などの喜びや充実感を味わわせながら自己肯定感を高めて、学ぶ意欲を育てるよう指導・支援にあたる。
- (2) 授業においては、一人一人の生徒の進路等を見つめ、社会における「働く生活に必要な力」を高めるよう指導内容を選択して指導・支援にあたる。
- (3) 授業においては、一斉授業で学習した指導内容を一人一人の生徒の実態に応じて、経験的・活動的な学習に発展させ実際の場面で活用できるよう指導・支援にあたる。

「OKS 授業の指導や支援のおさえ(案)」(岩佐副校長)

- ・本校の授業づくりの視点として

- ①一人一人の生徒の実態や特性などに合わせて「できる状況づくり」を行う。
- ②一人一人の生徒の進路等を見つめ、社会における「働く生活に必要な力」を高めるよう指導内容を選択する。
- ③一斉授業で学習した指導内容を経験的・活動的な学習に発展させる。
→この3つを本校の授業づくりの基本的なおさえとして、今後示していくと良いのではと話し合った。

3 今後の課題

(1) OKS 授業フォームの提案について

- ・本校の授業づくりについてのポイントや「主体的で対話的な深い学び」のポイントについてメンバー内で共有をしたが、これらのポイントを意識した授業を行うための指導計画や略案など、形に残るようなものを検討、作成することができなかった。
→今後は、年間指導計画や題材計画等を作成する段階で、「主体的で対話的な深い学び」のポイントを意識できるようなものを作成していけると良い。

(2) 研究の推進について(反省)

- ・1年間で、期待される成果に向けて計画的に研究を進めることが難しかった。メンバー全員が揃うことが少なく、課題検討などを全員で話し合うことができれば良かった。

4 参考資料など

- ・「ピクトグラム一覧」(独立行政法人教職員支援機構(NITS)ホームページより)【別紙1】
<https://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jirei/pictogram.html>
- ・「主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック」(新潟県立教育センター)
<https://www.nipec.nein.ed.jp/project/kaizen/handbook2.pdf>【別紙2】

別紙 1

ピクトグラム一覧

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
 <p>興味や関心を 高める</p>	 <p>互いの考えを 比較する</p>	 <p>思考して問い続ける</p>
 <p>見通しを持つ</p>	 <p>多様な情報を 収集する</p>	 <p>知識・技能を習得する</p>
 <p>自分と 結び付ける</p>	 <p>思考を表現に 置き換える</p>	 <p>知識・技能を活用する</p>
 <p>粘り強く 取り組む</p>	 <p>多様な手段で 説明する</p>	 <p>自分の思いや 考えと結び付ける</p>
 <p>振り返って 次へつなげる</p>	 <p>先哲の考え方を 手掛かりとする</p>	 <p>知識や技能を 概念化する</p>
	 <p>共に考えを 創り上げる</p>	 <p>自分の考えを形成する</p>
	 <p>協働して 課題解決する</p>	 <p>新たなものを 創り上げる</p>

独立行政法人教職員支援機構 (NITS) ホームページより

主体的・対話的で深い学び 実践ハンドブック

新潟県立教育センター

「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト

はじめに

今、皆さんの目の前にいる子ども^{※1}たちが生きる社会は、将来どのような社会になるでしょうか。「Society5.0」^{※2}の到来、グローバル化の進展など、多様化、複雑化が加速度的に進み、予測困難な社会に向かっていくことが予想されます。

新学習指導要領では、未来を生きる子どもたちに必要とされる資質・能力の三つの柱、すなわち「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成できるようにするものとし、その実現を目指して「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」と示しています。^{※3}

独立行政法人教職員支援機構（NITS）の次世代型教育推進センターは、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学習過程の質的改善により「実現したい子供の姿」を、ピクトグラムを用いることでイメージ化を試み、その成果を Web ページで公表しました。^{※4}

私たち、新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクトでは、このピクトグラムを基に授業改善の手立てを考えました。「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにどのような手立てがあるのか、どのようなポイントで授業づくりを進めていけばよいのか、1冊のハンドブックとしてまとめました。このハンドブックが、未来を生きる子どもたちの「力」を育もうと日々取り組んでいらっしゃる先生方のヒントになれば幸いです。

目の前にいる子どもたちの様子、学校や地域の実態に合わせて、先生方それぞれが、このハンドブックを基に「主体的・対話的で深い学び」を実現する効果的な手立てを生み出してくださることを期待しています。

平成 31 年 2 月 22 日

新潟県立教育センター

「主体的・対話的で深い学びの推進」プロジェクト

- ※1 このハンドブックでは、NITS の資料及び、「小学校学習指導要領解説 総則編」からの引用では「子供」、それ以外の部分は「子ども」と表記している。
- ※2 「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」のこと。
（内閣府 Web サイト https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html より）
- ※3 小学校学習指導要領解説総則編第 1 章 2（3）総則改正の要点より
- ※4 次世代型教育推進センター「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」
（<http://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jirei/index.html>）

実践ポイント編

- p 1 はじめよう！主体的・対話的で深い学び
- p 2 実践ポイントについて
- p 3～ 「主体的な学び」実践ポイント
- p 5～ 「対話的な学び」実践ポイント
- p 9～ 「深い学び」実践ポイント

はじめよう！主体的・対話的で深い学び

「主体的・対話的で深い学びが実現している授業を行いたい。」と思っているのにどうもうまくいかない。そんなときに、このハンドブックを開いてみてください。「そうか、なるほど！」と思ったところから、活用してみてください。

では、まずは「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行う際の視点について「学習指導要領解説 総則編」ではどのように書かれているか、確認していきましょう。

- 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

出典：「小学校学習指導要領解説 総則編」（平成29年7月）

※ 表現は全ての校種で同一。太字アンダーラインは、当プロジェクトチーム独自のもの。

そのほかにも、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、基本的なポイントをまとめてみました。参考にしてみてください。

- 1 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点は、学びの過程としては一体として実現されるものであり、相互に影響し合うもの。
- 2 1単位時間ではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で実現を図っていくもの。
- 3 授業改善の視点であり、目指すべきは、資質・能力の育成。
- 4 深い学びの鍵として「見方・考え方」※を働かせることが重要。
- 5 資質・能力の育成には、教育課程全体での取組が必要。



※ 各教科等の「見方・考え方」とは、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという教科等ならではの物事を捉える視点や考え方のこと。
(出典：「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年7月)

実践ポイントについて

私たちプロジェクトでは、NITSの次世代型教育推進センターが作成した「主体的・対話的で深い学びのイメージ図」（資料編 p 6 参照）で示されている、下記の【実現したい子供の姿】ピクトグラムを基に授業改善の手立てを考え、実践ポイントとしてまとめました。

その際、「主体的な学び」「対話的な学び」については、一つ一つの【実現したい子供の姿】に基づく手立てを考えました。また「深い学び」の姿については、それ独自で存在するものというより、単元全体を通して実現を図っていく姿であると考え、「主体的な学び」「対話的な学び」の手立ても一部含むものとしてまとめました。

なお、実践ポイントについては、カード形式でも使っていただけるように一つ一つの手立てごとにシートを作成しています。

○ 「主体的な学び」「対話的な学び」の実践ポイント

一つ一つの「実現したい子供の姿」に基づく手立て

○ 「深い学び」の実践ポイント

単元全体にかかわる手立て

（「主体的な学び」「対話的な学び」の手立ての一部を含む）

NITS【実現したい子供の姿】ピクトグラム

<主体的な学び>



興味や関心を高める

見通しを持つ

自分と結び付ける

振り返って次へつなげる

粘り強く取り組む

<対話的な学び>



共に考えを削り上げる

協働して課題解決する

互いの考えを比較する

思考を表現に置き換える

先哲の考え方を手掛かりとする

多様な手段で説明する

多様な情報を収集する

<深い学び>



思考して問い続ける

自分の考えを形成する

自分の思いや考えと結び付ける

新たなものを削り上げる

知識・技能を活用する

知識・技能を習得する

知識や技能を概念化する

◇ 「主体的な学び」実践ポイント 1



興味や関心を高める

解決の必要感もてる課題の設定

- ・子どもが「解決したい」「知りたい」と自然に思える課題にする。
- ・身近な生活や社会と関連がある課題を設定する。

主体的に向き合える課題提示の工夫

- ・導入を工夫し、提示した課題を解決したいと思う「問い」に変容させる。
- ・既習内容との違いや自他の考えの違いを意識化できる場を設定する。

解決までのストーリーの提示

- ・単元全体の学習過程（見通し）を子どもと共に創る。
- ・既習内容との関連を示し、学びの連続性に気付かせる。

◇ 「主体的な学び」実践ポイント 2



見通しを持つ

単元の学習過程や育成する資質・能力の明確化

- ・単元の学習過程やゴールを可視化し、子どもと共有する。
- ・単元で身に付ける資質・能力を示す。

課題解決のプロセスの確認

- ・課題と活用させたい既習知識との相違を確認し、「見方・考え方」を働かせて課題解決の予想を立てさせる。
- ・活用する「知識・技能」を明確にする。

◇ 「主体的な学び」実践ポイント3



自分と
結び付ける

自分ごととして考えることのできる課題の設定

- ・課題が自分ごととして考えられるよう、発問や学習過程の工夫をする。
- ・子どもの疑問をもとに課題を作り上げる。

学んだことを自分にフィードバックする場の設定

- ・学んだことをまとめ、振り返る場を設定する。
- ・単元の終末に、学んだことを自分で意味付ける場を設定する。

◇ 「主体的な学び」実践ポイント5



粘り強く
取り組む

課題解決に向けた学習過程の工夫

- ・考えをもつ、話し合う等、課題解決に向けた学習活動の時間や場を十分に確保する。
- ・スモールステップの学習過程を設定し、達成感を得ながら課題解決に取り組めるようにする。

互いに認め合う関係性の構築

- ・成果だけでなく、学習活動の過程も肯定的評価を行う。
- ・互いの努力を称賛し合える場を設定する。

◇ 「主体的な学び」実践ポイント4



振り返って
次へつなげる

単元を見通した「振り返り」の場の設定

- ・思考の深まりが期待できる時間や単元の終末時には確実に時間を確保する。
- ・学年の発達段階に応じて、「振り返り」を言葉としてまとめられるようにする。

書く内容の焦点化

- ・「分かったこと」「考えの変容等とその要因」「次に学びたいこと」等、必要に応じて授業者が書く視点を示すことで学びの自覚化を図り、次への学ぶ意欲につなげる。
- ・「振り返り」と「まとめ」との関連や違いを明確にもつ。

「振り返り」の共有

- ・書き終わった子どもから「振り返り」を発表させる。
- ・他の子どもと「振り返り」を共有し、自分とは異なる視点からの気づきを得られるようにする。

☆ 「対話的な学び」実践ポイント1



共に考えを
創り上げる

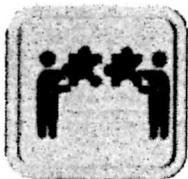
協働して解決する価値や意義のある課題の提示

- ・複数の視点や根拠をもとに思考・判断・表現できる課題を提示する。

自分たちで選択した既習知識や方法を活用した課題解決

- ・思考を可視化しながら、考えをまとめる。
- ・互いの考えの相違を確認し合い、課題に対する結論を練り上げる。

☆ 「対話的な学び」実践ポイント2



協働して
課題解決する

一人一人が自分の考えをもつ場の設定

- ・自分の考えを学習シートやノート等を書き表す。
- ・考えをもてない子どもへの具体的な手立てを準備する。
(問い方を変える、考える視点や考えの書き方、既習事項とのつながり、等を示す。)

課題解決のゴールイメージの共有

- ・互いの考えの相違点や類似点をもとに話し合いを進める。
- ・互いの考えを理解し、最適解・納得解を創り上げることの意義を示す。

互いの考えを聴き合える集団の構築

- ・受容的な人間関係を形成する。
- ・聞くことのマナーやスキルの定着を図る。
- ・自己肯定感や自己有用感を育む。肯定的な声かけをする。

☆ 「対話的な学び」実践ポイント4



思考を表現に
置き換える

根拠をもとにした考えの構築

- ・考えを構築する過程や考えの根拠等を構造的に示すことができる学習シートを活用する。
- ・学習シートやICT機器を活用して、自分の考えを論理的に説明する。

互いの考えを確認する場の設定

- ・視点を意識した比較・検討を通して、考えの共通点や相違点を明確にする。
- ・結論に至るまでの思考過程について、互いに意見交換したり、確かめ合ったりする。

☆ 「対話的な学び」実践ポイント3



互いの考え
を比較する

考えの根拠や思考過程の可視化

- ・思考を可視化する学習シートを用いて、自分の考えを根拠や理由を含めて書く。

視点を明確にした話し合いの場の設定

- ・考えの分類・比較・関係付け等の思考スキルを活用する。
- ・ネームプレートやホワイトボードを活用した構造的な板書で、子どもの考えを可視化する。

違いを認め合える学習集団

- ・考えの違いが、学びを広げたり深めたりするのに役立つことを共通理解する。
- ・同じ考えの中にある小さな違いに着目する学習を重ねる。

☆ 「対話的な学び」実践ポイント5



先哲の考え方を
手掛かりとする

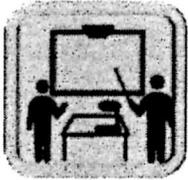
先哲の考えの共通理解

- ・先哲の具体的な考えを、学級全体で共有する。

先哲の考えの活用

- ・多様な資料に記された先哲の考えをもとに、自分の考えを形成できるようにする。
- ・活用の目的と視点を子どもに明確に示す。

☆ 「対話的な学び」実践ポイント6



多様な手段
で説明する

多様な表現方法の提示

- ・図や写真等の利用素材の工夫や、ICTの活用、発表方法（レポート、ポスター、プレゼンテーションソフト等）を目的に合わせて用いる。
- ・個々の子どもが、目的に合わせて表現方法を選択できるよう、多様な活用例を示す。

他者へ説明することの意義の確認

- ・知識の再構成、学級全体での情報の共有等、活動の目的を明確にする。
- ・「振り返り」をしたり、相互に評価したりする場を設定する。

◎ 「深い学び」実践ポイント1

「深い学び」の実践ポイントは、単元全体を通した手立てとして大きく4つにまとめました。これらの手立ての中には、「主体的な学び」の手立てや、「対話的な学び」の手立ても一部含まれています。

それぞれの手立てによって、どのような【実現したい子供の姿】が見取れるかを考え、ピクトグラムを位置付けました。

育成する資質・能力の明確化

- ・単元・題材で育成したい資質・能力は何か、を授業者が明確にむつ。
- ・育成したい資質・能力を体現している子どもの姿を具体化する。
- ・学びの過程の中で、どの場面で、どのように目指す資質・能力を育成するかを構想する。
- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」をどのように働かせるかを構想する。

77

☆ 「対話的な学び」実践ポイント7



多様な情報
を収集する

複数の方法による多様な情報の収集

- ・本やインターネット、公的機関や身近な人等、多様な対象・方法で情報を収集する。
- ・個々の情報について、発信元も含めて信ぴょう性を吟味する。

多様な情報の整理

- ・収集した情報を学習シート等で観点別に分類する。
- ・ワールドカフェやポスターセッション等、多様な考えや情報を聞き合える場を設定する。

◎ 「深い学び」実践ポイント2

学ぶ意欲を引き出す課題の工夫



思考して
問い続ける



知識・技能
を活用する

- ・生活や社会とのつながり、既習内容の想起や関連付け、子どもの疑問をもとにした「問い」を作成する。
- ・子どもが「解決したい」「知りたい」という思いをもてるよう、課題の内容や提示の仕方を工夫する。

◎ 「深い学び」実践ポイント3-①

4つの「場」を生かした単元構成の工夫



思考して
問い続ける

① 見通しを持つ「場」

・主体的な学び実践ポイント2「見通しを持つ」と同様に、課題の解決に向けた、つながりのある学習過程や、単元で身に付ける資質・能力を子どもと共有することで、子どもが主体的に各時間の学習活動に取り組めるようにする。



自分の考え
を形成する



自分の思いや考
えと結び付ける

② 考えを伝え合う「場」

・可視化した互いの考えを、明確な視点のもとで、分類、比較、関係付けをしながら、話し合いをする。
・考えを交流させることで、自分の考えを違う視点から捉え直したり、考えの更新や再構成を図れるようにする。

◎ 「深い学び」実践ポイント4

全体交流での教師の意図的な「出方」



知識・技能
を習得する



知識や技能を
概念化する

① 整理する

・単元における本時の学びの位置付けを子どもと確認する。
・多様な考えを意図的に書き分け、構造化して板書する。



思考して
問い続ける



知識・技能
を活用する

② 明確にする

・個々の考えの意図や根拠を明確にするために問いを重ねる。
・複数の視点や立場の考えの関係性を問うことで、相違やつながりを明確にする。



新たなものを
断り上げる



自分の思いや考
えと結び付ける

③ 価値付けする

・子どもの考えに価値付けをすることで、新たな視点からの気づきを促したり、子どもが学びのよさを実感したりできるようにする。

◎ 「深い学び」実践ポイント3-②

4つの「場」を生かした単元構成の工夫



知識・技能
を活用する



新たなものを
断り上げる



知識や技能を
概念化する

③ 資質・能力を活用・発揮する「場」

・身に付けた資質・能力を活用・発揮する学習活動を設定し、毎時間の学びに目的意識をもたせる。
・単元・題材で育成したい資質・能力の定着を図る。



知識・技能
を習得する



知識や技能を
概念化する

④ 振り返りの「場」

・主体的な学び実践ポイント4「振り返って次へつなげる」と同様に、単元デザインの中で、いつ振り返りを行うか、見通しをもって設定する。
・振り返りを行い、学んだことの意義を実感させ、学びに向かう力・人間性等の育成につなげる。

単元デザイン編

- p 1～ 作ってませんか？
主体的・対話的で深い学び 単元デザイン
- p 2～ 単元デザイン例（小学校）
- p 6～ 単元デザイン例（中学校）
- p 8～ 単元デザイン例（高等学校）

作ってませんか？主体的・対話的で深い学び 単元デザイン

【単元デザイン例（中学校、音楽科）】

- ・単元のゴールをもとに再考し、各単元の学習への目的意識を明確にする。
- ・計画的に位置付けた学習活動により、考えを再構築する学習を意図的に作る。

1 単元名 「聞き取りからわかる和楽器の音色」「和楽器の音色を聴く」「和楽器の音色を奏する」

2 単元の目標
音楽（和楽器）の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。

3 単元の目標達成と学びの過程のイラスト（表と時間）

単元名	学習の目標	単元の目標達成と学びの過程	時間
1 (1)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (2)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (3)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (4)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (5)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (6)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (7)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (8)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (9)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (10)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (11)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (12)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (13)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (14)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (15)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (16)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (17)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (18)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (19)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分
1 (20)	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	和楽器の音色や演奏の姿を通して和楽器の音色を知るとともに、演奏の楽しさや楽しさを感じ、自分なりの表現を創出する。	10分

単元のデザインを考える際に、主体的・対話的で深い学びを実現するために、特に大事にしたことをまとめました。

単元において、資質・能力を育成するために、どのような学びの姿を目指すのか、3つの学びの視点で考え、ピクトグラムをあてはめました。

吹き出しには、目指す姿を実現するために具体的にどのようなことに配慮して学習活動を設定したか、特徴的なものを記述しました。

この【単元デザイン例】は
・1つの単元における3つの学びの位置付け
・授業における3つの学びの具体的な姿がイメージできるようにしています。

私たちプロジェクトでは、ピクトグラムを活用した単元デザインを考え、作成しました。

この単元デザインでは、1つの単元における3つの学びの位置付けや、3つの学びの具体的な姿をイメージできるようにしています。新学習指導要領では、単元を通して資質能力を育成することが求められています。授業者が、どのような学びの姿を、単元のどの場面で育成していくのかを明確に持ち、単元全体のデザインを考えることが、重要になります。

私たちは、このピクトグラムを活用し単元全体のデザインを考えると「主体的・対話的で深い学び」の実現を進めていく方策として考えました。次ページ以降に、「単元デザイン例」を掲載しましたので、参考にしていただければと思います。

【単元デザイン例 小学校 5年国語】

- ・単元のゴールを子どもと共有し、各時間の学習への目的意識を明確にする。
- ・計画的に位置付けた交流活動により、考えを再構築する学習を意図的に行う。

1 単元名 「随筆で伝えるわたしの好きな季節」(教材名「わたし風『枕草子』」学校図書)

2 単元の目標

- ・随筆「枕草子」の原文や現代語訳を読んで随筆の特徴を知るとともに、随筆を創作することを通して、自分の思いや考えを読み手に伝える。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント(全8時間)

次 時	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	「枕草子」の原文を音読したり、現代語訳を読んだりして、大体的な内容を理解したりする。			
1 (2)	「枕草子」の現代語訳を読み、随筆の特徴を捉える。	興味や関心を高める	単元のゴールに向けた学習過程を子どもと共に作り、各時間を学ぶ意義を確認する。	知識・技能を習得する
2 (3)	単元の学習の進め方について話し合い、学習の見通しをもつ。選んだ季節について書いたイメージマップをもとに意見交換をする。	見通しを持つ	付箋で書いたことについて意見交換することにより、随筆の内容や表現を再考し、伝えたいことを明確にする。	
2 (4)	選んだ季節の好きな時間と場所を決め、場面の様子や感じたことを付箋に書く。			
2 (5)	交流活動での意見交換を通して、随筆で伝えたいことを明確にする。		思考を表現に書き換える	思考して問い続ける
3 (6)	文章例の比較を通して、書き方の工夫について考える。構成を考え、下書きを書く。	自分と結び付ける	学んだことを生かし、自分が伝えたいことを明確にしなが表現や構成を工夫して随筆を書くこととする。	知識・技能を活用する
3 (7)	推敲のポイントをもとに下書きの表現を見直す。交流活動で、読み手に伝わる表現になっているか、助言し合う。	交流活動をすることで、随筆の表現を再考し、よりよい表現になるようにしていく。	思考を表現に書き換える	
3 (8)	推敲をもとに清書を書く。交流活動で互いの随筆のよさを伝え合う。	振り返って次へつなげる	自分の随筆のよさに気付くことで、単元での学習に満足感をもち、今後の書く学習活動への意欲を高める。	自分の考えを形成する

【単元デザイン例 小学校 5年社会】

- ・「社会的な見方・考え方」を働かせた学習にする。
- ・社会的事象の特色や相互の関連、意味の多角的な思考を図る学習場面を設定する。

1 単元名 「私の生活、命を守る情報」

2 単元の目標

- ・災害時に市民に情報を発信する人々の話を聞いたり、情報の集め方を調べたりすることとおして、住民の生活や命を守るために、関係機関とネットワークを介して連携し、正確でより詳細な地域の情報を多くの人に素早く届ける工夫していることを理解し、情報の受け手も目的に応じて信ぴよ性のある情報を集め、次の行動を適切に判断していくことの大切さに気付く。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント(全8時間)

次 時	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	台風が接近した時のことを想起させ、通常の生活に様々な影響が生じたことと事前情報との関連性について、気付いたことを話し合う。		児童の生活との関わりを意識させたり、関連付けさせたりしやすい学習課題や問題を設定する。	自分の思いや考えと結び付ける
1 (2)	水害など、過去に自然災害を経験した人に聞き取り調査を行ったことを発表し合い気付いたことをまとめ、整理する。	自分と結び付ける	インタビューや過去の新聞記事等で得た情報を観点を決め、KJ法等でワークシートに整理する。	
1 (3)	過去の被災経験から、当時の市の情報発信と市民の情報収集について調べ、考えたことをお互いに共有する。		「過去と現在」など、時期や時間の経過の見方を働かせて、対象の変容をとらえる。	
2 (5)	市役所の方から聞いた話をもとに、現在の情報発信手段に至るまでの移り変わりや特徴、実際に情報を発信するまでの流れをまとめて、発表し合う。	見通しを持つ		思考して問い続ける
2 (6)	市の情報発信手段の他に、国や県が発信する「エリアメール」などの災害通知メールの特徴や関連について調べる。		図や写真をICT機器を活用しながら示すとともに、発表をとおして相互に知識を再構成する。	知識・技能を習得する
2 (7)				
2 (8)	学習を振り返り、自分の生活や命を守るために情報を受け取る際に大切なことについて考えたことを発表し合う。	振り返って次へつなげる	学んだことをもとに、今後起こりうる災害時において、適切に情報収集ができる考え方をもち、	自分の考えを形成する

【単元デザイン例 小学校 5年算数】

・単元の後半に学んだ知識・技能を自分事として活用・発揮する場面を設定する。

1 単元名 「単位量当たりの大きさ」

2 単元の目標

・単位量あたりの考えを用いて異種の二つの量を比べたり表現したりする。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全6時間）

次 時	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	二つの観点から一方をそろえて他方の量で大きさを比較する。 (商品の単価を比較する)	興味や関心を高める	互いの考えを比較する 自分の考えの可視化や説明に重点を置き、小さな違いや気づきを大切に学習を重ねる。	
(2)	二つの観点から一方を単位量として大きさを求め大小を比較する。 (混み具合を比較する①)	振り返って次へつなげる	一見して比較しやすい数値から、単位量当たりの考え方が必要な数値を提示し、新しい思考を促す。	思考して問い続ける
(3)	二つの観点から単位量あたりの大きさを求めて大小を比べる。 (混み具合を比較する②)		協働して課題解決する	自分なりの求め方をもち、友達との共通点や相違点をもとに話し合い、整理する。
(4)	一つの観点から単位量あたりの大きさを求めるよさについて理解する。 (人口密度を考える)	1次で習得した知識・技能を活用できる様々な生活場面を用意し、学びと生活の関連付けを深める。		知識・技能を習得する
2 (5)	生活の中にある単位量あたりの大きさについて理解を深める。 (燃費、収穫高など生活場面で考える)	興味や関心を高める	学んだことを活用し、「自分なら」という視点で考えをまとめ、表現し合い、視野を広げ、学びを深める。	知識・技能を活用する
(6)	単位量あたりの考え方を活用して、将来生活したい場所を考える。 (数値データを根拠に自分の考えをまとめる)	自分と結び付ける	思考を表現に置き換える	自分の思いや考えと結び付ける

【単元デザイン例 小学校 6年理科】

・理科の「見方・考え方」を働かせて問題解決に取り組むことを意識し指導計画を立てる。
・学んだことを活用し、妥当な考えをつくりだし表現する場を繰り返し設定する。

1 単元名 「てこの規則性」

2 単元の目標

・てこの規則性についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
・てこの規則性について追究する中で、主にそれらの仕組みや規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
・てこの規則性について追究する中で、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全10時間）

次 時	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	てこ実験器を使った力比べから、より小さな力で物を持ち上げるにはどうしたらよいか、仮説を設定する。	興味や関心を高める	おもりの重さ、支点からの距離など、理科の見方・考え方を想起させる場面を設定する。	
(2)	てこの支点から力点までの距離を変え、力点の手応えを調べる実験において、条件を制御して実験する。	見通しを持つ	見方・考え方を働かせ、条件を制御することにより計画的に実験を行う。	実験結果から、仮説が正しいか考察する
(3)	支点から力点までの距離を変えず、支点から作用点までの距離を変えた場合でも手応えが変わるか、前時の考察をもとに説明する。		思考を表現に置き換える	自分の考えを形成する 妥当な考えを作りだし表現する。
(4)	体重計を使って力点に加える力の大きさを数量で表す。			
2 (5)	てこがつり合うときのきまりを考える。	粘り強く取り組む	思考を表現に置き換える	知識・技能を習得する
(6)				
(7)	「g」と「cm」で、てこの規則性を表す。		学んだことを活用し、身の回りの現象を説明する。	知識・技能を活用する
(8)	身の回りてこで、てこのきまりを利用した道具のしくみについて説明する。			
(9)				
3 (10)	てんびんの仕組みを理解し、物の重さを量る。	振り返って次へつなげる	思考を表現に置き換える	知識や技能を概念化する

単元の学習を通して知識・技能を結び付け、次の課題解決に使える知識・技能にする。

【単元デザイン例 中学校 3年国語】

- ・話し方や表現の視点を明示し、考えの整理を促す。
- ・目的を明確にして話し方や発表を行い、考えの深まりを促す。

1 単元名 「現代と古代を比較しながら和歌を読み、古典を味わう」
(教材名「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」)

2 単元の目標
・現代の価値観と古代の価値観を比較しながら和歌を読むことで、人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つ。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント (全5時間)

次 時	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	教材となる和歌(4首)と出会う。 古今和歌集仮名序(現代語訳)を読み、古代における和歌の在り方や言葉への認識を知る。	 興味や関心を高める		
(2)	4首の和歌のうちグループで一つを選び、大意、作者、時代背景などについて調べ学習を行う。	 見通しを持つ		 知識・技能を習得する
		和歌に詠まれた価値観を、バタフライマップを使いながら整理し、共有する。		
2 (3)	調べた和歌について、現代人の価値観とどのような相違点や類似点があるか、意見交換を行う。 発表用の資料を作成する。	 自分と結び付ける	 思考を表現に置き換える	
(4)	発表資料をもとに各グループで発表をする。 他グループの発表を聞き、新たな気付きを得たり、考えの根拠を明確にしたりする。		和歌の表現と他グループの発表の両方に注目しながら、自分の考えを形成する。	
			 自分の思いや考えと結び付ける	
3 (5)	前次までの学習を生かし、個人で一つの和歌を選び、紹介文を書く。 紹介文は、自分がその和歌に「共感できるか、できないか」の視点で書くようにする。	 振り返って次へつなげる	 思考を表現に置き換える	

【単元デザイン例 中学校 1年理科】

- ・理科の「見方・考え方」を働かせて問題解決に取り組むことを意識した指導計画を立てる。
- ・生徒自ら進んで課題解決し規則性、関係性を見いだす。

1 単元名 「音の性質」

2 単元の目標
・音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだして理解する。観察、実験などに関する技能を身に付ける。
・問題を見いだし見直しをもって観察、実験などを行い、音の性質の規則性や関係性を見いだして表現する。
・科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント (全5時間)

次 時	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	音はどのように発生しているか調べる。 ・太鼓、笛、のど、スピーカー、音叉	 興味や関心を高める	脈動、振動の大きさ、発音体の長さの違いによる音の変化など、理科の見方・考え方を働かせる場面を設定する。	
(2)	音はどのように伝わるか調べる。 ・音叉、太鼓、糸電話 音の伝わる速さを考える。 ・花火、やまびこ	見方・考え方を働かせ、条件を制御した実験計画を作成する。		 知識・技能を習得する
(3)	音の大きさと高さを調べる計画を立てる。 ・仮説の設定 ・実験計画の立案	 見直しを持つ	 思考を表現に置き換える	 自分の考えを形成する
(4)	音の大きさと高さ調べる。 ・実験 ・仮説の検証	 粘り強く取り組む	 思考を表現に置き換える	実験結果から、仮説が正しいか考察できる。
(5)	音の波形を表す。 ・オシロスコープ ・PCソフト 音についてまとめる。	 振り返って次へつなげる	単元の学習を通して知識・技能が結び付き、次の課題解決に使える知識・技能とする。	
				 知識や技能を概念化する

【単元デザイン例 高等学校 国語（国語表現）】

- ・知識・技能を活用し、資質・能力の確実な定着を図る。
- ・生徒自身が評価規準をもつことで、身に付けたい資質・能力を明確にする。

1 単元名 「表現を工夫しながら民話を語る」

2 単元の目標

- ・民話の内容を的確に聞き取り、自分の言葉で表現を工夫しながら効果的に語る。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全7時間）

次 単	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	単元の学習の目標（近隣幼稚園での発表）を共有する。 民話の語り（録音）を聞き、あらすじをノートにまとめる。	興味や関心を高める	グループで協働しながら、「聞く」技能のポイントをつかむ。	知識・技能を習得する
(2)	前時に作成した「民話のあらすじ」をグループ内で共有し、内容を精選する。		協議して課題解決する	
2 (3)	「民話のあらすじ」をもとに、グループで民話を語る時の効果的な表現方法の工夫を考える。		生徒自身がルーブリックを作成することで、育成したい資質・能力を共有する。	
(4)	前時の学習活動をもとに、民話を語る際のルーブリックをグループごとに作成する。	見通しを持つ	グループで協働しながら、「話す」技能のポイントをつかむ。	
(5)	作成したルーブリックに基づき、語りの練習をしながら、ルーブリックの内容を再検討する。	粘り強く取り組む	協議して課題解決する	知識・技能を習得する
3 (6)	実際に近隣の幼稚園に出向き、幼稚園児に向けた「お話しの会」を行う。自身の「語り」の様子をビデオ録画する。	ICT 機器やルーブリックを用いながら、学びのメタ認知を促す。		知識・技能を活用する
4 (7)	前時の録画を見ながら、ルーブリックを用いて自身の「語り」を自己評価する。	振り返って次へつなげる	話す技能の習得だけでなく、「伝えたい」という思いを育てる。	

【単元デザイン例 高等学校 理科（化学基礎）】

- ・理科の「見方・考え方」を働かせて問題解決に取り組むことを意識した指導計画を立てる。
- ・実験等から、探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や法則を理解させる。

1 単元名 「化学反応式」

2 単元の目標

- ・中学校での既習事項を基本とし、化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことができるようにする。
- ・反応に関与する物質の質量や体積の間に成り立つ関係を物質質量と関連付けて扱い、物質の変化量を化学反応式から求めることができるようにする。
- ・科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全5時間）

次 単	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	化学反応式の作り方を理解する。 ・係数の決定 ・イオン反応式	振り返って次へつなげる	中学校で学習した内容と関連付け、追加される考え方を意識しながら理解する。	
(2)	化学反応式の量的関係を見いだす。 ・係数の比と物質量の比 ・係数の比と体積の比	粘り強く取り組む	物質量を学ぶ有用性を実感しながら、量的関係について理解する。	
(3)	化学反応の量的関係について基本的な実験を行う。 (酸化カルシウムと水の反応) ・仮説の設定 ・実験計画の立案	興味や関心を高める	協議して課題解決する	見方・考え方を働かせ、条件を制御した実験計画から、協働的に操作・考察を行う。
(4)	化学反応の量的関係について発展的な実験を行う。 (炭酸カルシウムと塩酸の反応) ※物理基礎の内容とも関連する発展的内容	見通しを持つ	思考を表現に置き換える	実験結果から、仮説が正しいか考察するとともに、起こっている現象について、他者へ説明を行う。
(5)	実験結果を共有し現象を考察する。 ※既習事項や他科目で得た知識などと関連付けて理解する。	振り返って次へつなげる	互いの考えを比較する	知識・技能を活用する

【題材デザイン例 高等学校 芸術（音楽Ⅰ）】

- ・知識・技能を活用し、音楽表現の創意工夫に係る力を育む。
- ・生徒が主体的に歌唱表現を追求する場面を設定する。

1 題材名 「ドイツ歌曲を歌おう～野ばら～」

2 題材の目標

- ・ドイツ歌曲の曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージを持って歌ったり、作曲家及び演奏者による表現の特徴などを理解して味わって聴いたりする。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全7時間）

次 単	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	題材の目標を共有する。 「野ばら」を鑑賞し、既習曲 「魔王」との曲想の違いに関心 を持つ。	 興味や関心 を高める	中学校で学習し た内容と関連付 け、曲想の違い に気付く。	
	グループごとにテーマを決め、 作曲家シューベルトや作詞者グ ーテなど曲を取り巻く歴史的背 景について調べる。	曲想と音楽の構 造や歌詞の内容 及び曲の背景と の関わりについ て調べ、一体的 に理解する。 得た知識を共有 する。	 協働して 課題解決する	
	前時でまとめた内容について発 表し合い、楽曲の背景について 理解を深める。		 多様な情報 を収集する	 知識・技能 を習得する
2 (5)	「野ばら」の表情や味わい、歌 詞が表す心情などを生かし、楽 曲にふさわしい音楽表現を工夫 する。	 粘り強く 取り纏む	歌唱表現に関わ る知識や技能を 得たり生かしたり しながら、曲 にふさわしい歌 唱表現を創意工 夫する。	 知識・技能 を活用する
	前時に考えた自己の表現意図を 意識して、「野ばら」を歌唱する。			 新たなものを 断り上げる
3 (7)	これまでの学習をふまえて「冬 の旅」（抜粋）を鑑賞する。楽 曲や演奏を解釈し、よさや美し さを創造的に味わう。	 振り返って 次へつなげる	これまでに習得 した知識を活用 し、曲想と音楽 の構造を考えな がら鑑賞する。	

資料編

- p 1～ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の
学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）
- p 4～ 小学校学習指導要領解説 総則編
- p 6～ 平成 30 年度次世代教育推進セミナー
「ちばっ子の学び変革」要項
- p 8～ 各教科等における見方・考え方一覧（「主体的・対話的で
深い学びの推進プロジェクト」編集）

学習指導要領改訂の背景

人工知能が進化して
人間が活躍できる職業は
なくなるのではないか。

今学校で教えていることは
時代が変化したら
通用しなくなるのではないか。

子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、
未来の創り手となるために必要な資質・能力を
確実に備えることのできる学校教育を実現する。

よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を作るという目標を学校と社会が共有して実現

社会や産業の構造が変化し、質的な豊かさが成長を支える成熟社会に移行していく中で、私たち人間に求められるのは、定められた手続を効率的にこなしていくにとどまらず、個性を豊かに豊かにしながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、自分なりに逆行課題したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくことであるということ、そのためには生きて働く知識を含む、これからの時代に求められる資質・能力を学校教育で育成していくことが重要であるということ、学校と社会が共通の認識として持つことができる好機にある。

学校教育のよさをさらに進化させるため、学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡せる「学びの地図」として、学習指導要領を示し、幅広く共有

- ・これからの時代に求められる知識や力とは何かを明確にし、教育目標に盛り込む。これにより、子供が学びの意義や成果を自覚して次の学びにつなげたり、学校と地域・家庭とが教育目標を共有してカリキュラム・マネジメントが実現しやすくなる。
- ・生きて働く知識や力を育む意欲の高い学習過程を実現するため、各教科における学びの特徴を明確にするとともに、授業改善の視点（「アクティブ・ラーニングの視点」）を明確にする。これにより、教科の特徴に応じた深い学びと我が国の強みである「授業研究」を通じたさらなる授業改善が実現する。

出典：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日

これからの教育課程の理念

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

<社会に開かれた教育課程>

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

出典：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造
的に示す
学習内容の削減は行わない。

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の観点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成
知識の偏りを削減せず、質の高い
理解を促すための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※新設科目については、施設・設備等の整備や教員等の研修等が必要となること等が留意点となっており、
そのほか内容を定済するため、課程内容の整備等も各教科・科目の進捗を踏まえて実施する。

出典：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

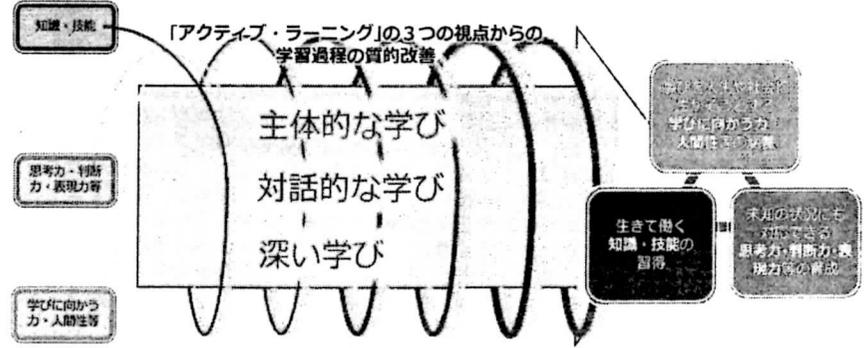
理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

出典：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日

資質・能力の育成と
主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）

- ◆ 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を明確化することで、授業や学習の改善に向けた取組を活性化することができる。これにより、知識・技能を生きて働くものとして習得することをめ、育成を目指す資質・能力を身につけるために必要な学習過程の質的改善を実現する。
- ◆ 資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりすることなども含む。



基礎的・基本的な知識・技能の習得に重点が置かれる場面においても、「深い学び」の観点から学習内容の深い理解や動機付けがなされ、主体的な学び」の観点から学びへの興味や関心を引き出すことなども必要である

出典：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日

主体的・対話的で深い学びの実現
（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

- 【例】
 - ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組みとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
 - ・ 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先達の考え方を手掛かりに考えること等を通じて、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

- 【例】
 - ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を観たり、実社会の人々の話を聴いたりすることで自らの考えを広げる
 - ・ あらかじめ他人で考えたことを、意見交換したり、協議したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとする
 - ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

- 【例】
 - ・ 事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組み
 - ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通じて協働としての考えを形成したりしていく
 - ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく



出典：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日

資質・能力に関する学習指導要領の記述（抜粋）

第3章 教育課程の編成及び実施

第1節 小学校教育の基本と教育課程の役割

3 育成を目指す資質・能力（第1章第1の3）

3 2の(1)から(3)までに掲げる内容の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「各教科等」という。ただし、第2の3の(2)のア及びウにおいて、特別活動については学級活動（学校給食に係るものを除く。）に限る。）の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。その際、児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること

出典：「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年7月

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する 学習指導要領の記述（抜粋）②

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

出典：「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年7月

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する 学習指導要領の記述（抜粋）①

第3節 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（第1章第3の1の(1)）

(1) 第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習の過程を重視した学習の充実を図ること。

出典：「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年7月

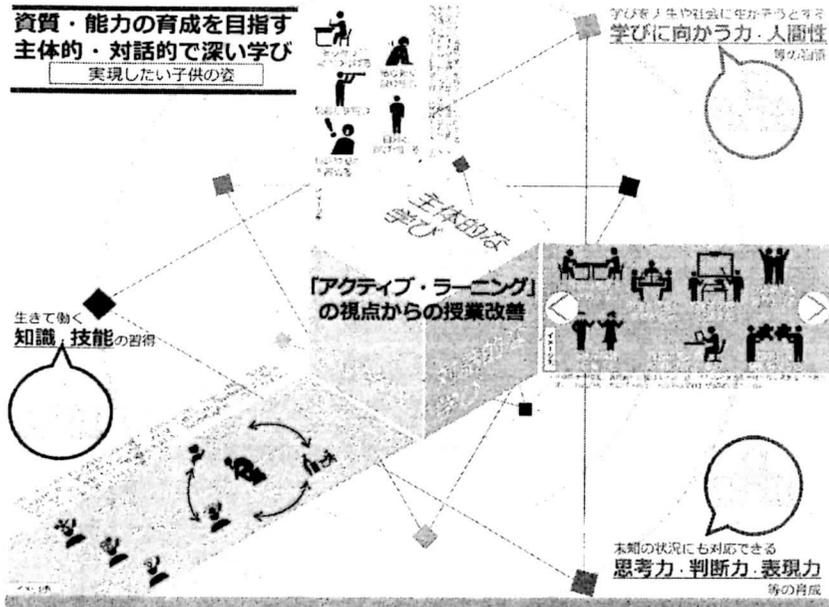
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する 学習指導要領の記述（抜粋）③

また、主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。

主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとし、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

出典：「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年7月

資質・能力の育成を目指す
主体的・対話的で深い学び
実現したい子供の姿



出典：平成30年度 独立行政法人教職員支援機構（NITTS）次世代教育推進セミナー（千葉会場）要項

「対話的な学び」を実現する
子供のイメージ例

異なる多様な他者との対話を繰り返し、
自らの考えを構築しながら、
他者とともに納得解や最適解を創り上げる子供

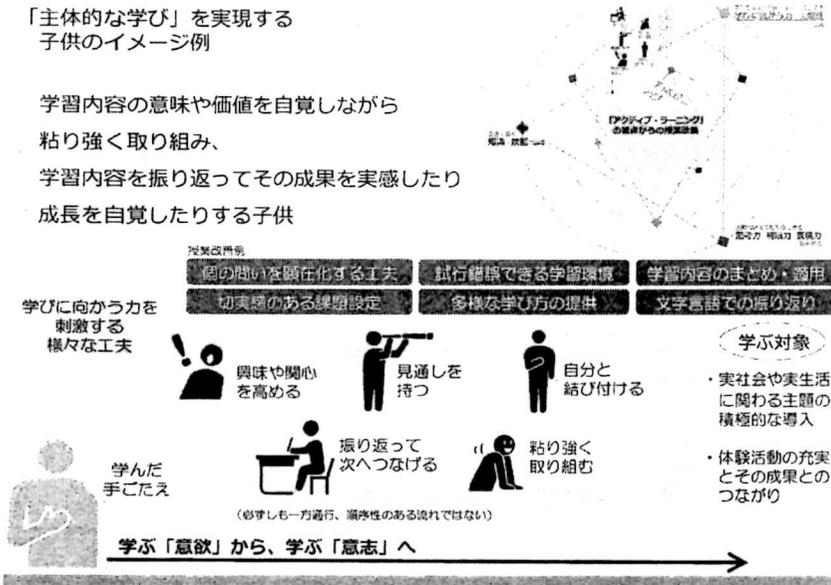


対話する必然性のある課題の設定
学習内容等に順じたグループサイズの適用
情報の可視化・操作化など思考を深めるツール等の適用
話を聞き合える関係性の構築

出典：平成30年度 独立行政法人教職員支援機構（NITTS）次世代教育推進セミナー（千葉会場）要項

「主体的な学び」を実現する
子供のイメージ例

学習内容の意味や価値を自覚しながら
粘り強く取り組み、
学習内容を振り返ってその成果を実感したり
成長を自覚したりする子供



出典：平成30年度 独立行政法人教職員支援機構（NITTS）次世代教育推進セミナー（千葉会場）要項

「深い学び」を実現する
子供のイメージ例

切実な課題を解決するプロセスを通して、
試行錯誤しながら他者とともに解決を図り、
身に付けた知識や技能を活用・発揮し、
学んだ手ごたえとして実感する子供



出典：平成30年度 独立行政法人教職員支援機構（NITTS）次世代教育推進セミナー（千葉会場）要項

【各教科等における見方・考え方】

教科	小学校	中学校	高等学校
国語	言葉による見方・考え方を働かせることは、児童(生徒)が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方を着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。	社会科、地理歴史科、公民科の特質に応じた見方・考え方の総称で、社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」。	社会科、地理歴史科、公民科の特質に応じた見方・考え方の総称で、社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」。
社会 地理歴史 公民	社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」。	社会科、地理歴史科、公民科の特質に応じた見方・考え方の総称で、社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」。	社会科、地理歴史科、公民科の特質に応じた見方・考え方の総称で、社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」。
算数 数学	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。	事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。	事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。
理科	問題解決の過程において、自然の事物・現象をどのような視点で捉えるかという「見方」については、「エネルギー」を柱とする領域では、主として量的・関係的な視点で捉えることが、「粒子」を柱とする領域では、主として質的・実体的な視点で捉えることが、「生命」を柱とする領域では、主として多様性と共通性の視点で捉えることが、「地球」を柱とする領域では、主として時間的・空間的な視点で捉えることが、それぞれの領域における特徴的な視点として整理することができる。 問題解決の過程において、どのような考え方で思考していくかという「考え方」については、児童が問題解決の過程の中で用いる、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなどを「考え方」として整理することができる。	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。
生活	身近な生活に関わる見方・考え方、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすること。		
音楽 芸術 (音楽)	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。	感性を働かせ、音や音楽を、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。
図画工作 美術 (美術)	造形的な見方・考え方とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。	造形的な見方・考え方とは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感知する力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。	造形的な見方・考え方とは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

【各教科等における見方・考え方】

教科	小学校	中学校	高等学校
体育 保健体育	生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する視点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」。	体育の見方・考え方については、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する視点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」。	生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する視点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」。
技術・家庭 家庭	「生活の営みに係る見方・考え方」 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。	「生活の営みに係る見方・考え方」 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。 「技術の見方・考え方」 生活や社会における事象を、技術との関わり方の視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること。	「生活の営みに係る見方・考え方」 生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造するために、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。
外国語	「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」。	外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」。	外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」。
特別の教科 道徳	様々な事象を道徳的諸価値をもとに自己との関わりで(広い視野から)多面的・多角的にとらえ、自己の(人間としての)生き方について考えること。		
総合的な学習の時間 総合的な探究の時間	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方を、探究的な見方・考え方と呼ぶ。	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方を、探究的な見方・考え方と呼ぶ。	各教科・科目等における見方・考え方を総合的に活用して、広範で複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の在り方生き方を問い続けるという総合的な探究の時間の特質に応じた見方・考え方を、探究の見方・考え方と呼ぶ。
特別活動	「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることとは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること。	「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることとは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること。	「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることとは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること。

【各教科等における見方・考え方】

教科	小学校	中学校	高等学校
芸術 (書道)			書の特徴に即して物事を捉える視点や考え方をいい、感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働き の視点で捉え、書かれた言葉や、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと。
情報			「情報に関する科学的な見方・考え方」は、「事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構築すること」。
理数			「数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ」のうち「数学的な見方・考え方」は、事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発見的、体系的に考えること。また、「理科の見方・考え方」とは、自然の事象・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの探究する方法を用いて考えること。

<MEMO>

出典

- ・小学校学習指導要領解説：総則編、国語編、社会編、算数編、理科編、生活編、音楽編、図画1作編、家庭編、体育編、外国語活動・外国語編、特別の教科道徳編、総合的な学習の時間編、特別活動編（平成29年7月）
- ・中学校学習指導要領解説：総則編、国語編、社会編、数学編、理科編、音楽編、美術編、保健体育編、技術・家庭編、外国語編、特別教科道徳編、総合的な学習の時間編、特別活動編（平成29年7月）
- ・高等学校学習指導要領解説：総則編、国語編、地理歴史編、公民編、数学編・理数（主として専門学科において開設される教科）編、理科編・理数（主として専門学科において開設される教科）編、保健体育編、芸術編・音楽編、美術編、外国語編・英語編、家庭（各学科に共通する教科）編、情報編（各学科に共通する教科）編、理数（各学科に共通する教科）編、総合的な探究の時間編、特別活動編（平成30年7月）
- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改等及び必要な方策等について（答申）（平成28年12月）

第6次研究（3か年研究）1年目のまとめ（成果と課題）

2023.2.16 全体研究

今年度の各研究課題別グループの日常的な活動や1月13日の校内研究交流会の資料及び報告を受け、研究の成果と課題を各グループごとにまとめた。また、本日の全体研究において確認された内容や助言を追加して研究集録の内容とする。

（1）研究の成果

ア 各グループの成果

グループ名	主な成果
I C T	<ul style="list-style-type: none"> ①授業づくりでは、作業学習に視点を置きICT機器を使ってどのように展開できるか検討できた。（調べ学習、計算など）実際の作業場面での使用の困難さという課題が見えた。 ②モラルの学習については、関係部署と連携し迅速に対応できた。（保管場所、持ち出しバックの購入など） ③1人1台端末になり、ICT教育への意識がより高まり、意欲的に取り組める生徒が増えた。
指 導 法	<ul style="list-style-type: none"> ①発達障害者支援法における定義に基づき、本校の指導に活用できるよう3つの研究グループで取り組むことができた。 ②それぞれの障害の特性について資料や文献を集め、基本的な定義や特性をまとめることで、当事者が抱える困難を見つめなおすことができた。 ③内容を精査するために、指導上の悩みを共有し、各グループとも5項目で共通に整理することができた。このことを通して、障害についての理解を深め、知識を改めて整理し、日々の指導を振り返るきっかけとなった。 ④文献をまとめることで、根拠に基づいた授業づくりなどで参考となる資料が作成できた。
観 点 別 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度より1学年の個別の指導計画の評価に導入されたが、実際に作成してみたの良かった点と課題点、記述の実際についてまとめることができた。（文字数の制限、記述の難しさ、記述の工夫、実践の積み重ねの必要性、評価基準の見直しと精査・活用） ②観点別評価の視点を取り入れて授業を行うことで、三観点で生徒を多角的に観察しようとする意識が高まった。 ③特別支援教育に関する観点別評価についての参考文献や資料を発掘できた。今後、共有する方法を考えたい。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ①グループ内で「OKSライフキャリアプランの理解と活用」と「キャリアカウンセリングの充実」について現状の課題を共有できた。（様式の保管場所が点在、様式の構造が難解、項目が多く分かりにくい、日常的なアプローチの必要性、進路希望とのつながりなど） ②キャリアカウンセリングの充実に向けて、「学校生活の柱となる効果的な実施方法の検討」「様式のつながりの分かりにくさ、活用の難しさの解消」に取り組むことができた。

	<p>③現状を多角的に把握するため、キャリアカウンセリングに関わる職員を対象としたアンケートを実施し、実践に基づく様々な意見を集めることができた。 （担当者の様々な工夫点の共有、項目の曖昧さ、使用する様式の多さ、活動の煩雑さなどで教材が活用しきれていない、など）</p> <p>④「キャリアカウンセリングシート」と「自己チェックシート」の改訂を行うことができた。（本人の希望等の記載欄、4段階の評価基準、レーダーチャートによる表示）</p>
道 徳	<p>①特別支援学校における「特別の教科 道徳」の今後の在り方や授業づくりについて理解を深めることができた。</p> <p>②新2、3学年で活用できそうな教材を整理できた。</p> <p>③令和3年度に作成した年間指導計画について、学年進行に合わせ指導内容を、他校の例も参考に検討、見直し、3学年分の改訂版を作成することができた。</p>
授 業 づ くり	<p>①本校における授業づくりに関する研究成果の確認ができた。 （アクティブ・ラーニング、合理的配慮、対話的な授業）</p> <p>②日々の授業で心がけているポイントを共有できた。</p> <p>③「主体的で対話的な深い学び」の実践事例の発掘を行い、授業改善のポイントとして確認できた。</p> <p>④実践事例として「実現したい子どもの姿を表したピクトグラム」は、指導計画に有効活用できそう。</p> <p>⑤「本校としての授業づくりについて」検討し、日々の授業づくりにおける工夫点を共有したり、授業づくり視点について確認できた。（できる状況づくり、働く生活に必要な力、経験的・活動的な学習など）</p>

イ 全体に共通した成果

「研究課題の解決に必要な理論を学び合う」ことをサブテーマとした今年度は、どのグループも文献や過去の研究成果などをもとに理論研究を行い、一定の成果を収めたと言える。これらの成果を「研究集録」として活用できる形にまとめ、次年度の校内研究の中で役立てていくことを期待したい。

(2) 研究の課題

ア 各グループの課題

グループ名	主な課題
I C T	<p>①作業学習における端末機器の効果的な使用方法の検討（作業日誌と現場実習日誌のリンクなど）</p> <p>②機器の使い方について、一般的、常識的な「約束事」の指導（学級指導などでは、日常的でバラツキのない指導が重要）</p> <p>③教科「情報」の「基底となる指導計画」の作成</p> <p>④ICT教育に必要な基本的なスキルの向上（PCのスキルアップ、モラルやマナーの学習など）</p>
指 導 法	<p>①実践の悩みを解決するような資料にするためには、指導のポイントなどについて、もっと多くの文献を研究する必要がある。</p> <p>②生徒の抱える困難や問題行動について「なぜ、どうして」というメカニズムまで分析を深める必要性を感じた。</p> <p>③なぜこの指導が必要なのか、理論立てて更に実践していけるようにする必要性を感じた。</p>

観点別評価	<p>①公正で客観的な評価を行うために、過去の研究成果を、現在の評価に合わせて見直し、活用する。(記述方法、本校の実践の積み重ね)</p> <p>②三観点を意識した授業の工夫については、教育目標を明確化し、授業と評価が一体化するように、授業を組み立てることが有効である。そのために全ての生徒に対して、内的な面も含めた客観的な実態把握と評価の根拠となる資料の収集が課題である。</p>
キャリア教育	<p>①「OKSライフキャリアプランの理解と活用」については、課題点に対する取り組みには至らなかった。</p> <p>②「キャリアカウンセリングの充実」については、実践例の作成には至らなかった。</p> <p>③「キャリアパスポートの取り組み方」については、書式などを検討していく。</p>
道徳	<p>①年間指導計画との整合性を図り、内容を学年ごとに整理する。</p> <p>②活用しやすいように略案やワークシートなどをアップデートしていく。</p> <p>③取り扱わなかった題材についても今後研究していく。</p> <p>④「特別の教科 道徳」の年間指導計画の様式を、他教科と同様に学年ごとに作成する。</p> <p>⑤「基底となる指導計画」を更新する。</p>
授業づくり	<p>①授業づくりのポイントについて共有を図ったが、これらのポイントを意識した授業を行うための指導計画や略案などを検討するに至らなかった。</p> <p>(年間指導計画や題材計画を作成する段階で「主体的で対話的な深い学び」のポイントを意識できるもの)</p>

イ 全体に共通した課題

各グループともに、積み残した研究内容(研究の課題)が明確となった。これらについて、今後継続して取り組むことが研究の深化につながると思われる。

(3) 研究2年目に向けた方向性

ア 研究内容

- ・「学んだ理論を実践で試す」
- ・学び合った理論に基づく、授業を通しての実践と検証
- ・1年目の積み残しの研究内容
 - 時代背景、教職員アンケートなどから研究課題を設定
 - ①ICTを活用した教育
 - ②発達障害の特性を踏まえた指導法
 - ③観点別評価を生かした授業
 - ④キャリア教育の充実
 - ⑤特別の教科 道徳の取組
 - ⑥主体的で対話的な深い学び
 - 障害特性とその対応に関わる研究

イ 研究方法

- ・研究課題によるグループ編成(基本的に今年度の継続)
- ・「授業研究」又は「授業公開」の実施
- ・校内研修会の開催(夏季=北特研道央地区大会全体講演・冬季校内研修会)

ウ 助言

(ア) 1月校内研究交流会（学校長）

（要旨）

- ・各グループの成果と課題についての発表の総括として、今まで先を見据えて取り組んでいた内容をもとに、今自分たちの足元をしっかりと見極めて、前へ進んでいこうという印象を持った。
- ・障害特性の理解については、特に知的障害特別支援学校に勤める職員は、これまで知っているという前提で進んできたが、様々な学校種から先生たちが本校に集まっていることから、特にそこを理解できていたのか改めて振り返ることができたと思う。
- ・これまで14年間、ベーシックプラン、基底となる指導計画など様々なものを作り上げてきたが、それが今回の研究テーマである「時代と社会の変化に敏感に対応していく」ということにつながっていくのではないかと思う。
- ・今年度、1年目の研究の成果を、是非来年度は実践するということにつなげてほしい。
- ・来年度の学校経営方針の中でも述べるが、校内研究授業を充実させることが必要だと思う。基礎・基本とこれらを見据えた指導について、グループで話し合った。それを学校全体のものとしていくよう是非、校内での研究授業を充実させるための「校内授業研究会」を開催してほしい。
- ・これが私たちの教育力、指導力の向上にもなるし、今回出願者数が定員をオーバーするということにもつながっていると思う。是非、先生方の指導力を高め、子どもたちの将来につながる教育の実践に役立ててほしい。

(イ) 2月研究日（学校長）

（要旨）

- ・理論武装ができたので、今度は実践が大事である。
- ・それを受けて、3年目にはしっかりとしたものにつながっていくと思う。
- ・来年度の学校経営方針の中でも、「授業を大切にしたい」ということを打ち出していくのでよろしく願いしたい。

寄宿舎研究の成果と課題

1 研究主題

「変化に対応できる力を身に付ける」

2 主題設定の理由

寄宿舍の概要

寄宿舍では寝食を共にする集団生活を通して、基本的な生活習慣や身辺自立、マナーやルールを身につけながら、協調性や仲間意識などお互いを思いやる気持ちを育てるよう、学校での教育と合わせて、一日24時間の生活を継続して組織的に指導している。また様々な人と関わる生活の中で、自ら主体的に関わり、よりたくましく生きていくための様々な力を育てていくよう努めている。

主題設定の理由

第1次研究（平成23～25年度）では、寄宿舍の役割は、集団生活を通して「人間関係形成能力」に関わる必要な力を育てていくことがすべてのキャリア発達段階の力を育てることにつながっていることがわかった。また、2人部屋編成である本校の寄宿舍生活を通して個人と集団の相互作用や集団への働きかけを計画的、意図的に行う中で、自他の違いを認め、協調性や仲間意識などお互いを思いやる気持ちや自己有用感を育てることにつながっていく必要性が明らかとなった。

第2次研究（平成26～28年度）では、各グループにおける生徒間の人間関係相関図を作成し、生徒の関係性の変化を検証しながら、コミュニケーションに関わるグループワークを実践してきた。様々な実践を通して、自己有用感とは他者の存在を前提として、「自分の存在価値を感じ」「誰かの役に立つ成就感」「誰かに必要とされているという満足感」が自己有用感を高めることだということが明らかになった。また、適応的な仲間関係の構築は、相互の経験を通して自分の課題を肯定的に受けとめ、苦手なことも得意なことも含めて自己を受けとめようとする力が育ち、自己理解、他者理解がすすむことにつながることがわかった。

第3次研究（平成29年度～平成30年度）では、自己有用感を高める指導の工夫、心理的支援を要する生徒の理解と指導の工夫、内的動機を高める指導の工夫の3点を研究の課題として、ワークショップ研修や事例研究を重ねてきた。

「一人一人が主人公になる生活」とは、「主体的に生きる」ということである。私たち指導員は、受容と深い共感をもたらす安心できる環境の中で、生徒が多様な対話を繰り返しながら「自分たちで解

決できた」と思えるような援助「可能性を広げるサポート」をしていくことが重要だということが明らかとなった。

第4次研究（令和元年～3年度）では、テーマを「ともに育ちあう生活づくり」とし、寄宿舎生が主体的に生きるためのサポートを検証した。室会、室長会での生徒同士の対話、自分たちで解決できた経験を重ねた結果、内的動機付けによる行動につながることを検証した。その結果「考える土台の未熟さ」に課題があり、生徒個々の考える順序や理解する方法の違いを踏まえ、指導の手立てや配慮を行うことが大切だということをあらためて学ぶことができた。

認知特性や対話に関するワークショップ研修を実施し、指導員自身、一人一人考える順序や理解する方法が違うということを経験するなかで、生徒指導において何を大切にするかを考える機会になった。また、生徒理解支援ツール「ほっと」を実施し、各グループやブロックで作成した人間関係相関図の作成と合わせて生徒個々や集団の実態を分析し、生徒理解を深めてきた。

3 研究推進計画

第4次研究では、相互尊重の中で生徒が安心して自分を出せる環境をどのようにサポートしていくかに焦点を当て研究を進めてきた。認知特性や対話に関するワークショップ研修の中では、効果的な指導には「認知の特性に応じた柔軟な対応力」、「指導者の対話力の向上」が欠かせないことを再認識した。

第5次研究は「あたりまえをあらためてかんがえる」というキャッチフレーズのもと、今まであるものを見直していく時期と考え、現在使用されている個別の指導計画などが、どのような意味で作成されたのかを理解し、時代や実態に合わせた内容に見直すことが必要と考えた。テーマを「変化に対応する力を身に付ける」とし、私たち指導員がキャリア発達の視点で、生徒にとって必要な力を考察するために、キャリア教育について学ぶところからスタートした。

4 研究内容・方法

第1次研究からの原点に立ち返り、時代や生徒の実態に合わせて、個別の指導計画、実態把握シートの見直しを行う。生徒が生涯続くキャリアを学び続け、成長し続けるためには、私たち指導員が学ぶ理論研究と生徒に向けた実践研究の両方が必要と考えた。

《年次計画》

※人間関係相関図の作成は継続して行う。

(1) 1年次は個別の指導計画の見直しに向けて本校のOKS ライフキャリアプランなどを理解する1年。

- ① キャリア教育について学ぶ機会を持つ。
- ② 卒業後の社会生活に向け、今の時代の寄宿舎生活に求められている役割、必要な力について、考察する。
- ③ OKS ライフキャリアプランについて研修し、理解を深める。

(2) 2年次は生徒理解などキャリア発達の視点でもう少し深く学び直しをする1年。

個と集団に焦点を当て、生徒の実態を明らかにして実践につなげるための研修を行う。

第1次研究に立ち返り、今の社会や生徒の実態に合わせ検証する。

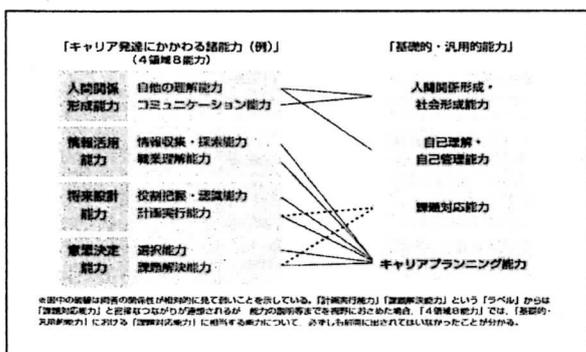
(3) 3年次は実態や時代に合わせて個別の指導計画などの様式を見直し、3年間のまとめを行う1年。

5 1年次研究の成果

今年度は私たち指導員の学びの年と考え、「キャリア教育についての研修」、「社会人基礎力についての研修」、「OKS ライフキャリアプランについての研修」、「人間関係関関図の作成」、「ワークショップ研修」の内容で研修を行った。

1 キャリア教育についての研修

この研修では、キャリア教育に関する基本的な知識を身に付け、指導の基礎となる視点を共有できた。



キャリア発達を支援する教育の充実

菊地(201:

- ①ライフキャリアの視点に立つということを経験的に理解すること
- ②コンピテンシーの考え方から捉え、そのために「教育活動の目的や経過、または、評価を可視化、具現化すること」
- ③本人の願いを重視すること
※願いは叶うという経緯やロールモデルの存在が重要

2 社会人基礎力(経産省)についての研修

この研修では、概要の説明の後、各グループで1名の生徒を抽出して分析を行った。その結果、生徒の実態を把握し、卒業後に必要な力と現在不足している力を明確にしてグループの指導員間での共有ができた。

研修後の反省アンケートでは「卒業後に必要な力は生徒だけではなく、職員にも言うことなので今後も折りを見て話してほしいと思った。」「社会人基礎力は大人にとっても難しいことだと思った。」「自己分析シートで、自己や他者の特徴を客観的に見ることができたことがとてもよく、活用できるものだと知った。」という意見があり、卒業後の社会生活に向け、難しいけれど必要なものとの考えが多くみられた。



社会人基礎力分析表



3 人間関係相関図の作成（5月・11月）

昨年度までに引き続き、人間関係相関図を作成した。

5月と11月に作成することで、各棟のブロックやフロアの中での生徒同士の関係性の変化、集団の実態を知るために役立てている。また生徒一人一人のコミュニケーション力の伸びや、仲良くなりたけれど入れないなど集団の中での個々のニーズを把握することができるため、生徒のつながりを広げていく指導の見直しの機会となっている。

4 本校 OKS ライフキャリアプランについての研修

本校コーディネーターの小谷先生から説明をしていただいた。

寄宿舎で作成している個別の指導計画と OKS ライフライフキャリアプランとの関連性、連動性を理解することができた。また寄宿舎においてもキャリア発達の視点をもって指導すること、5つの重点に取り組む必要性、重要性を再認識した。

本校のキャリア発達を支援する5つの重点 ～本人、保護者等、教師の「共通の視点」～

①人間関係づくり	・他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら様々な人々と協力して物事に取り組む
② コミュニケーション	・コミュニケーションの基礎的な力を身に付け、豊かな人間関係を築こうとする
③ 働く習慣	・職業生活に必要な基礎的な習慣を身に付ける
④ 将来設計	・進路学習を通じ、働きたいという気持ちを育て、自分で進路を選ぶ力を身に付ける
⑤ 生きがい	・個性を伸ばし、生きがい、やりがいを発見し、自分らしく生きようとする

5 ワークショップ研修

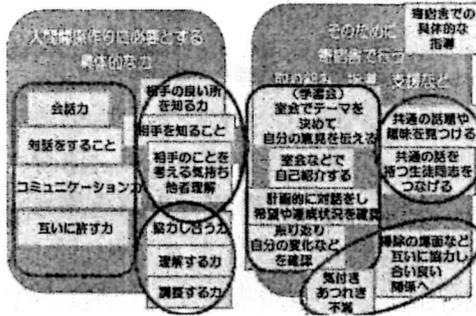
第4次研究でも明らかになったように「指導者側の対話力の向上が欠かせない」ため、ワークショップ研修を実施した。ワークショップ研修では OKS ライフキャリアプランの研修から学んだ「本校のキャリア発達を支援する5つの重点」の中から①人間関係づくり、②コミュニケーション、③働く習慣、⑤生きがいの4つのテーマを選び、少人数のグループに分かれて「必要とする具体的な力」と「そのために寄宿舎で行う取り組み、指導、支援」を話し合い、発表した。

この研修では、各棟の様子や取り組みを共有し、意見を交換することができ、職員の対話の機会となった。

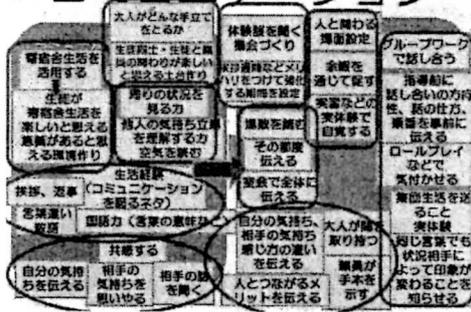
また、これまでの研修で学んだ理論の理解を深化することができ、今後の指導、実践へつながるものとなった。

《ワークショップ研修の様子》

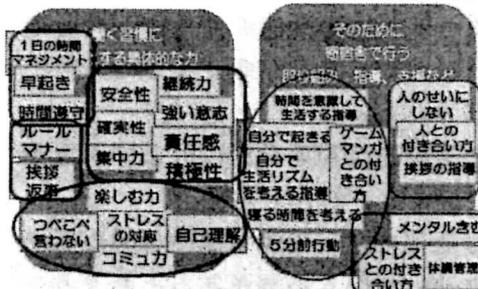
人間関係づくり



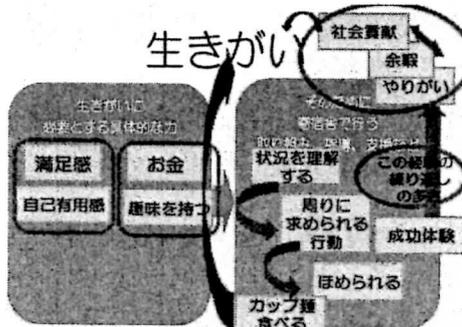
コミュニケーション



働く習慣



生きがい



6 今後の課題

今年度の研究内容について、反省のアンケートで以下のような意見が挙げられた。

- (1) 個別の指導計画を見直していく必要がある。

「新学習指導要領の施行に伴い、学校では「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3本柱で評価する形になっている。寄宿舎の指導計画についても時代に合わせた見直しが必要。」という意見があり、3年次での個別の指導計画の見直しに向けて研修を重ね、時代と生徒の実態を明らかにしながらそれに合わせた検討をしていく必要がある。

- (2) 心理検査などの研修をどのように実際の指導につなげていくか。

次年度へ向けてアンケートでやってみたい研修を聞いたところ、「社会人基礎力分析の結果など指導に反映させることができるとよい。」、「個別の指導計画と心理検査のコラボ」という意見があり、次年度の実践へつなげる研究として進めていく必要がある。

- (3) 時間的な制約があるが今後研修が必要なことについて

次年度へ向けての反省アンケートでは、「時間があれば生徒全員の分析をしてみたい。」「時間がない中で行っているため、尻切れトンボ感があり、グループで話し合う時間があるとよいと感じた。」「SNS、携帯電話の取り扱いについて、職員間で話し合い共通理解を図ることができればよい。」という意見が出され、研修で学びを深めたいことはたくさんあるが、十分な時間的が取れないという実情があった。また、「自傷の捉え方、心理面のケア、共感的理解のあり方について、指導で効果的な対応など」の研修を次年度要望する意見もあり、生徒の実態の変化により心理面でのケアを必要とする生徒が増え、指導に苦慮していることが多くなってきている。そのため生徒の理解をより深めることが急務である。

これからの寄宿舎で、生徒同士、生徒と職員の対話を深めるためにはまず職員間の対話を深めることが必要であり、いかに深めていくかが課題となる。

そのため、次年度からは限られた時間を有効に活用でき、生徒指導や日課に反映できる、また実践につながる研修内容を選定し推進していく必要があると考える。

校内研究に関連した取組

第44回北海道特別支援教育研究協議会 全道研究大会（星置大会） 概要報告

◆期日

令和4年7月29日（金）

◆会場

北海道星置養護学校

◆主催

全日本特別支援教育研究連盟 北海道特別支援教育研究協議会 北海道星置養護学校

◆日程

9:00 9:30 10:00 12:00 13:00 15:05 15:30 16:00

受付	開会式	全体講演 「できる特別支援教育指導者のためのアセスメント講座」	昼食	研究部会（10部会）	閉会式	総会
----	-----	------------------------------------	----	------------	-----	----

※教育実践講座は7/29～8/16 10講座をYouTubeで配信



◆参加者（本校）

児玉校長、岩佐副校長、林教頭、大谷、山末、富加見、松本和、奈良、小谷、濱谷

◆研究大会の内容

1 全体講演 「できる特別支援教育指導者のためのアセスメント講座」

【講師】 北海道教育大学教職大学院特任教授 小野寺 基史 氏

【主な内容】

①望ましいアセスメントと支援に向けて

困り感について相談や検査（観察・面接・心理テスト）でみとり、指導支援に生かす

②特別支援教育における「授業づくりの基本のき」

出力を意識 主体的活動へ 発達の最近接領域 個別最適化を意識した授業づくり

③知的障害特別支援学校におけるアセスメントの基本

知的機能 適応行動 社会性

④具体的な支援を目指して

2 研究部会内容

【①教科別の指導 ③進路指導とキャリア教育 ⑤主体的、対話な深い学び ⑥カリキュラム・マネジメント ⑧生徒指導 ⑩ASDなど障害に応じた指導、などに分散して参加】

・ワークショップは進行役と記録役を決め、提言者が決めた柱に沿って各自の意見を付箋やホワイトボードを活用して整理していく。助言者から最後にまとめをいただく。

3 教育実践講座

・ 7/29～8/16 10講座をYouTubeで配信

・内容 ①子どもも先生も輝きだす秘訣 ②ポジティブ行動支援 ③デジタル・シティズンシップ ④親亡き後も安心して暮らすために ⑤お互いを護る支援介助法 ⑥自閉症の早期療育の必要性と実践 ⑦摂食に関する基礎知識 ⑧不器用な子どもたちの姿勢・運動の特徴と対応 ⑨スクールロイヤー制度 ⑩子どもたちの理解に寄り添う効果的なチーム支援



令和4年度 夏季校内研修会の概要

◆日時

令和4年8月2日（火）10:00～11:30

◆場所

北海道小樽高等支援学校 体育館

◆参加者

本校教職員 56名 保護者 6名

◆内容

- 1 講演 「発達障害のある生徒の理解と対応について」
講師 北海道立特別支援教育センター主任研究員（自閉症・情緒障がい教育室）

日小田 泰昭 氏

内容

- はじめに
- 支援を必要とする生徒の状況について
特別な教育的支援を必要とする生徒の状況 生徒に見られる気になる行動
- 発達障がいの理解と対応
発達障害の定義 学習障害とは その対応例
ADHDとは その対応 情緒障害とは その対応例 教育相談の対応例
- 生徒一人一人の状態に応じた指導や支援のために
指導に向けた情報の収集 教育的側面からの把握 障がいの社会モデルの考え方
- 生徒の困難さを把握し対応を考える（演習）
①気になる生徒の行動や様子を書く ②背景の困難さ ③支援や配慮
④グループ内で交流 ⑤全体で交流
- まとめ
振り返り 講義の感想 明日から取り組みたいこと



2 参加者の感想から

- 改めて日常の取り組みを振り返る良い機会となった。
- 今まさに対応方法について悩んでいたのが、とても参考になった。
- 医学モデル・社会モデルでの考えた方を取り入れることが参考となった。
- 日々の仕事量や生徒対応に時間をとられ、問題となる行動に目が行きがちだが、特性や取り巻く環境を捉えて、対応したい。

令和4年度 冬季校内研修会の概要

◆日時

令和5年1月11日（水）10:00～11:40

◆場所

北海道小樽高等支援学校 体育館

◆参加者

本校教職員 56名 保護者 3名

◆内容

- 1 講演 「ICT機器を活用した授業づくりと情報モラルについて」
講師 北海道立特別支援教育センター主任研究員（発達障がい教育室室長）
鎌田 隆仙 氏

内容

- 1 特別支援教育におけるICT機器の活用
特別支援教育の理念 ICT活用の視点 学習場面ごとのICT活用の類型
インプットのための利用 アウトプットのための利用
- 2 ICT機器を活用した授業づくり
クラウドを活用 クラウドの機能ごとに具体的な想定を アプリの活用
(Kahoot! DropNews GoogleClassroom メンチメーター)
- 3 ICT機器の活用における情報モラル教育
情報モラル教育が求められる背景 教育のポイント
情報モラル教育の充実に向けた取り組み モラル教育に役立つ資料
- 4 ICT機器を活用した学びの質の向上
ICT機器を活用した学習の段階的な導入 活用するのは先生？生徒？
1人1台端末の学習への溶け込みを目指して 授業改善と学び 実践は校内にある
- 5 まとめ



2 参加者の感想から

- ・学校の先生たちがICT機器を活用してどのような取組を行っているか保護者として参考になった。
- ・動画や実践事例など内容豊富な講義と資料ありがとうございました。
- ・実技の時間があり、生徒の気持ちになってクイズに取り組み、是非紹介されたアプリを活用してみたい。
- ・グーグルクラスルームとカフトをうまく使いこなせるようになると、生徒の興味・関心を引き出せると思った。ICTの研修頑張ります。
- ・ICTの活用については、新しいことの足し算ではなく、置き換えるという考え方で、少し気が楽になった。

令和4年度ICT研修会の概要

<これまでの取組>

- ◆令和3年(2021年)7月26日 「Zoom研修会」(ICT教育推進委員会)
 - ・ホストとしてZoomを活用した取組みを行う時の留意点について
 - ・ゲストとしてZoomを活用した取組みに参加する法うについて(個人の端末の場合)
 - ・実技
 - ・質疑・応答
- ◆令和4年(2022年)1月12日 「ICT校内研修会」(ICT教育推進委員会)
 - ・GIGAスクール構想とは(2019年開始 全国の児童・生徒に1人1台のコンピュータと高速ネットワークを整備する文科省の取組。Global and Innovation Gateway for All)
 - ・本校の取組について(購入予定モデル、ICTプロジェクトメンバーによる授業実践の紹介、年間指導計画への記入方法について)
 - ・道内の先進的な取組の紹介(「GIGAワールド通信」より)
 - ・Google Workspaceとは(アメリカのGoogle社が提供する100%WEBのツール。IBG Suite for Education 教育機関がクラウドを活用し生徒の学習を支援できる、厳重なセキュリティ対策が魅力の学習支援ツール。)
 - ・実技(Googleフォームでアンケートの回答)

<今年度の取組>

- ◆令和4年(2022年)8月17日 「ICT校内研修会」(ICT教育推進委員会)
 - ・Google ドライブの紹介と実技研修
(ドライブの共有ストレージ、Google Workspaceの利用、共有ドライブでできること)
 - ・Google Classroomの使い方 (実技なし)
 - ・Googleフォームの使い方の基礎(実技 スプレッドシートの紹介、アンケートの作り方)
 - ・生徒用iPad利用規約および管理方法の周知について
 - ・10月7日 生徒用iPad説明会について(この日より生徒1人1台端末の配付)
- ◆令和4年(2022年)12月26日~27日 「ICT校内研修会」(ICT教育推進委員会)
 - 「初中級編」
 - ・生徒用iPadのアプリの使い方
 - ・iPadを利用した授業の本校実践事例の紹介(外国語、体育、社会)
 - ・Zoomのセッティング方法
 - ・その他、iPadやアプリの使用法の疑問への回答
 - 「上級編」
 - ・Google Classroomの使い方 (実技)
 - ・Google ドライブの使い方(教師間、教師と生徒間の資料共有の方法)

令和4年度 校内研究交流会の概要

- ◆日時
令和5年1月13日（金）10:00～11:50
- ◆場所
北海道小樽高等支援学校 体育館
- ◆参加者
本校教職員 70名（教務、寄宿舍）
- ◆内容



- ◆開会のことば
- ◆本日の進め方について
研究課題別グループから6本、寄宿舍からの計7本
各グループの研究の成果と課題をプレゼンする。

- ◆発表
※詳細は本集録を参照
のこと

- ①ICTグループ
- ②指導法グループ
- ③観点別評価グループ
- ④キャリア教育グループ
- ⑤道徳グループ
- ⑥授業づくりグループ
- ⑦寄宿舍の研究

- ◆助言
児玉校長より
 - ・グループの研究の成果と課題を総合的に発表し、足元をしっかりと見極めて前進していこうという印象を持った。
 - ・障害特性について、様々な学校種から集まった先生たちが理解するという点で、その大切さを改めて振り返ることができた。
 - ・14年間、様々な指導計画を作成してきたが、それが「時代と社会の変化に敏感に対応」していく事につながる。
 - ・来年度は、今年の研究の成果を「実践する」ということにつなげてほしい。研究授業を充実させるために校内授業研究会を開催してほしい。
 - ・私たちの教育力、指導力を高めることは、生徒たちの将来につながる教育の実践に役立つことになる。

- ◆閉会のことば

学校経営計画「各学年経営計画・学科経営計画」の見直しについて

1 課題について

(1) 経過

- 令和3年度に教育課程 Basic Plan を見直すにあたり、管理職より、「学校経営の基本方針」の具体目標や目指す生徒像の改善が示され、キャリア教育全体計画も併せて見直した。
- このことを踏まえ、「学校経営計画」の各学年、学科経営計画とのつながりを整理する必要がある。

(2) 具体的内容

- ・「学校経営の基本方針」と「学校経営計画」の各学年及び、学科経営計画の目標、方針、指導の重点、生徒指導・進路指導の重点等のつながりを確認し、項目や記載内容を整理する。

2 課題の整理のポイント

キーワード:各種方針や計画等との整合性、PDCA サイクル、年度末評価との連動

ア 現在の学年・学科経営計画の「記載内容とその根拠」は、H28年度に検討したままであり、当時の「教育課程基本方針」や「学習指導要領の目標」を基にしている。(※下図1参照)

- ・そのため、「新学習指導要領」や、R3年度に見直した、「学校経営の基本方針、教育課程の基本方針、教育課程 Basic Plan」との整合性が取れていない。
- ・学年経営計画の「3 基本方針」の“キャリア教育”や“生徒指導”に関する方針が、「キャリア教育全体計画」や「生徒指導全体計画」と連動していないため、年度末評価が各種全体計画の反省として生かされていない。

イ 進路指導について、現場実習の各学年の目的が示されているが、「学年の方針や目標」が示されていない。そのため、評価がされず、PDCA サイクルとして改善に生かされていない。→作成が必要

ウ 家庭・寄宿舎との連携など、学年経営計画を整理する中で、年度末反省と連動できるものは項目(文言)をそろえてはどうか。(学校評価の項目も多いため、精査してもよいのではないか。)

エ 「6 業務内容と分担」の“(1)各教科の指導に関すること”については、年度末評価の際に、「年間指導計画に沿った指導ができたか、学習内容、時数等の適切さ」などについて具体的に評価があがるようにした方がよい。(そうすれば、各学年からの、教育課程の改善につながっていくのではないか。)

オ 学科の「基本方針」も項目が多い。三つくらいにしばってはどうか。

※古い“基本方針”を根拠とした文章のままになっている。

1 学年経営計画 学年の構成	※図1
2 目標 自分の可能性を広げ、将来の夢や希望を描く	※教育課程 (Basic Plan) より記入
3 基本方針	※備考欄の観点から逸れなければ、文言の加除・修正は可。
方針	備考
(1) 将来の目標や希望を描くとともに、現在の学習や学校生活が将来の生活に展開、発展することを理解し、主体的に取り組む態度の育成に努める。	キャリア発達の支援 ※本校基本方針(1)
(2) 望ましい勤労観、職業観を育成しながら、現場実習などを通して自分の進路を主体的に考えることができるよう進路指導の充実に努める。	進路指導 (進路指導の充実) ※本校基本方針(4)
(3) 各教科等の学習活動を通じて、働く生活、地域生活、家庭生活に必要な力(知識、技能、実践的態度)の定着、発展を図る。	学習指導 (教科指導の充実) ※本校基本方針(2)
(4) 望ましい人間関係を進んで形成し、学級や学年集団への所属感や連帯感を深め、よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的態度の育成に努める。	生徒指導
(5) 生徒や保護者等との信頼関係を築き、生徒一人一人の教育的ニーズや保護者の願いなどの把握に努め、個に応じた指導の充実に努める。	家庭との連携
(6) 寄宿舎との連携を密にし共通理解に基づく指導を進める。	寄宿舎との連携

3 検討結果

(1) 学年経営計画新様式… ※別紙 01 参照

① 概要について

「学年経営計画」の記載内容やその根拠を、「新学習指導要領」「学校経営計画、教育課程の基本方針（R3年度見直したもの）」、「教育課程 Basic Plan」、「キャリア教育全体計画」、「生徒指導全体計画」と整合性を図り、改訂した。

② 「3 基本方針」について

ア)「方針」、「根拠」を確認し、各文書の表記と整合性を取った。

イ) (5) 家庭、寄宿舎との連携は、学習評価項目(26番)と共通項目とした。

③ 「5 指導の重点について」

ア) 各項目と、「教育課程 Basic Plan(令和3年度改訂)」の表記との整合性を取った。

イ)「教育課程 Basic Plan(令和3年度改訂)」に、「各教科」「作業学習」の学年共通目標が抜けていたため、追加した。

→「教育課程 Basic Plan(令和3年度改訂)」を、「教育課程 Basic Plan(2022改訂版)」へ更新して活用する。(※別紙 02 参照)

(2) 学科経営計画新様式… ※別紙 03 参照

① 学科経営計画は、根拠としている文書が「北海道教育課程編成基準」「基底となる指導計画」「教育課程 Basic Plan(令和3年度改訂)」と多岐に渡るため、それぞれとの整合性を確認した。

ア)ポイント①については、これまでどおり。

イ)ポイント②「1 学科の目標」は、これまでどおり「道立特別支援学校高等部教育課程編成基準」の学科の目標を記入する。

ウ)ポイント③「2 基本方針」は、「教育課程 Basic Plan(2022改訂版)」の学科の目標を記入する。

エ)ポイント④「3 今年度の重点」は、これまでどおり。

オ)ポイント⑤「4 指導の重点」は、「基底となる指導計画(2022.09.29改訂版)」から記入する。

カ)ポイント⑥⑦⑧「5 業務内容と分担」は、これまでどおり。

③ 学科経営計画と「基底となる指導計画」との整合性を図るため、各学科の「基底となる指導計画」を別紙のように更新した。(記載の内容や根拠は、UD 赤文字斜体部分を参照する。)

※別紙 04 参照 (基底となる指導計画新様式記入例～作業学習 R4.09.29)

ア)「教科の目標」=記載のとおり。教育課程 Basic Plan 学科の目標 = 学習指導要領の専門教科の目標に統一。

イ)「教科を学ぶ意味や価値」=記載のとおり。

ウ)教科の評価の観点 = 各教科については、【左欄】のみの掲載であるが、各学科については【右欄】(現行の「基底～」に各科の評価の観点として記載のあったものを残した。)

※別紙参照 (改善等通知)

エ)「評価の場面・評価方法」「学習上の留意点」=記載のとおり。

カ)「各学年の目標」=学習指導要領の専門学科の目標を、基礎、発展、応用の視点で記入する。(全学科統一)

→各科独自で考えたものは、主な学習内容の欄に移動し残すようにした。

→上記の必要の是非(残すか残さないか)は、各学科で判断する。

キ)「主な学習内容」=記載のとおり。前段に学科独自の押さえを記入できる欄を設けた。

ケ)「時数」=記載のとおり変更となる。

(令和4年度1学年より、学年進行で、道徳の「17.5時間分」を特設の時間を設定して実施することとしているため、現行の作業学習の時数から17.5時間を引くことになる。)

- 基本のフォントは、MSゴシック（10.5ポイント程度が望ましい）
- 余白は20mm以上あることが望ましい。（上下左右とも）

ポイント①

キャッチフレーズについては、校長の「今年度の重点」を受け、キャッチフレーズを記入する。
※DF平成ゴシック体W5 14ポイント 太字

VI 学年経営計画

VI - 1 1学年 経験から学ぶ～成功と失敗から学ぼう～

1 学年の構成

学級 / 学科	男子	女子	計
生産技術科	4	1	5
木工科	8	0	8
環境・流通サポート科	6	1	7
家庭総合科	4	4	8
福祉サービス科	4	4	8
合計	26	10	36



2 目標

自分を見つめ 将来の生活をイメージする。

ポイント②「教育課程 Basic Plan（2022改訂版）」より記入する。

3 基本方針

- (1) 自分のよさや生きがいを見付け、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育てるとともに、生活する力や働く力を身に付け、自分の生活に生かすことができる生徒を育てる。（キャリア発達の支援）
- (2) 将来、社会人・職業人として、主体的に自分の人生を生きるために、働く生活に必要な、知識・技能・態度・習慣を育てる。（学習指導）
- (3) 自分の能力や適性についての理解を深めるとともに、学ぶことや働くことの意義を理解し、学習や学校生活、将来の生活に意欲的に取り組もうとする実践的な態度を育てる。（生徒指導）
- (4) 「働く生活に必要な力」を育成し、自己理解を深め自分の進路への意識を高められるよう、進路指導の充実に努める。（進路指導「進路指導の充実」）
- (5) 保護者等、学校、寄宿舎との連携を密にし、OKS ライフキャリアプランの共通理解に基づく指導に努める。（家庭、寄宿舎との連携）

ポイント③

観点は、全学年統一したものとする。

4 今年度の重点

- (1) OKS ライフキャリアプランの作成・活用を通して、生徒の実態を把握し、家庭と学校、寄宿舎が連携して指導の充実に努める。
- (2) 言語環境をはじめ、安心して生活できる環境を整え、素直な気持ちや発信する力を育てる。
- (3) 学校生活や人との関わりを通して自他を認め、自分の思いを広げたり、将来を想像したりする力を育てる。

ポイント④

学校経営方針の「重点目標」を受け、各学年の年度の重点（下位目標）を具体的に記入する。

→キャッチフレーズを具体化するイメージで、各学年で毎年変更する。例にとられず、学年で共通理解しやすい表現でよい。

5 指導の重点

ポイント⑥「教育課程 Basic Plan (2022 改訂版)」から各教科等の目標を記入する。

(1) 各教科

生徒が自立し、社会参加するために必要な「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成する。

(2) 作業学習

実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、職業人として必要な基礎的知識や技術、課題を解決する力、豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して、自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(3) 道徳

人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

(4) 進路学習 (総合的な探究の時間)

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成する。

(5) 特別活動

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する。

(6) 自立活動

個々の生徒が自立を目指し、障害による学習又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達のための基盤を培う。

6 業務内容と分担

項目	業務	
(1) 各教科等の指導計画の作成に関すること	※ 専門教科 (作業学習) = 作業学習とする	ポイント⑥ 年度末評価等を受け、「課題達成に向けた方向性」で示された関係組織に関する内容を「3重点目標と業務内容及び分担」または「4年間業務推進計画」の中に盛り込む。
(2) 行事等の推進に関すること		
(3) 学年経営全般に関すること		ポイント⑦ 年度末評価の際、年間指導計画に沿って学習できたか、学習内容はどうか、時数等の適切さなどについて評価する。
(4) その他		
(5) SDGsの視点	ア 残食をゼロ～配食の工夫 イ 特性の理解～分かる授業の展開 ウ 個に応じた教材教具の工夫 エ 自己理解と他者理解～他者への共感 オ 人間としての生き方の自覚	担任 全員

ポイント⑧

重点目標や活動内容等からSDGsの17項目のどれに当てはまるのかを記載する。また、右上にSDGsのアイコンを表記する。

※アイコンのデータ保存場所 旬のもの→R5学校経営計画→SDGsアイコン

●なお、作成したデータは「旬のもの→学校経営計画→集約」に入れること。4/3まで

教育課程 Basic Plan

社会人、職業人として主体的に自分の人生を生きるために必要な力を育てる

1年 / 基礎

自分を見つめる

自分を見つめ
将来の生活をイメージする

2年 / 発展

自分の可能性を広げる

自分の可能性を広げ
将来の夢や希望を描く

3年 / 応用

自分の生き方を考える

自分の生き方を考え
将来の生活をデザインする

教科等の目標と主な内容		※目標、資質・能力の三本柱は学習指導要領よりそのまま抜粋		
作業学習	○基礎的・基本的な知識と技術の習得	○関連する職業に必要な能力の定着と発展	○関連する職業に必要な能力の発展と実践的な態度の形成	
	実践的、体験的な学習を行うことなどを通して、職業人として必要な基礎的知識や技術、課題を解決する力、豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育てる。			
	工業の見方・考え方（ものづくりを、工業生産、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などに着目して捉え、新たな時代を切り拓く安全で安心な付加価値の高い創造的な製品や構造物などと関連付けること）を働かせ、実践的・体験的な学習活動などを行うことを通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続可能な発展に寄与する職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 工業に関することについて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識・技能) (2) 工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力を養う。(思考力・判断力・表現力等) (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)			
	○紙工、園芸、セラミック加工、グラス加工、清掃の基礎的な学習を行うこと ○多くの作業種を経験すること	○紙工、園芸、グラス加工、木工、グラス加工、清掃の発展的な学習を行うこと ○1年時の学習をもとに、木工とグラス加工を合わせてた写真立などの製作をすること	○2年間の学習をもとに、紙工、グラス加工、セラミック加工、清掃の応用的な内容に取り組むこと ○外注製品、卒業制作、ニーズに応じた製品を製作すること	
木工科	※目標は、生産技術科に同じ			
	○研磨などの基礎・基本的な木工技術を習得すること ○簡単な機械を操作すること ○挨拶、返事、言葉遣いなど、ルールやマナーを徹底すること	○受注製作、販売を通して技術の向上を図ること ○丁寧に正確な製品製作を行うこと ○受注製作の際に、お客様とのコミュニケーションや責任感を学ぶこと	○卒業制作に向けてこれまで身に付けてきた木工技術の振り返り、大型機械を安全に操作すること ○販売会で売れる製品を考えること ○自ら考えて判断し、安全に作業を行うこと ○社会の一員としての自覚を持つこと	
環境・流通サポート科	流通・サービスの見方・考え方（流通業やサービス業に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、適切な商品の流通やサービスの提供などと関連付けること）を働かせ、実践的・体験的な学習活動などを行うことを通して、流通業やサービス業を通じ、地域や社会の健全で持続可能な発展に寄与する職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 流通やサービスに関することについて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識・技能) (2) 流通やサービスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力を養う。(思考力・判断力・表現力等) (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)			
	○環境整備、事務系業務、販売学習等の基礎的な学習を行うこと ○清掃：教室清掃を通して清掃道具の基本的な使い方や清掃の仕方の学習を行うこと ○清掃検定：テーブル拭きやダスタークロスの手順の学習を行うこと ○除草や除雪作業：長時間働ける体力を養うこと ○接客：言葉遣いや接客の基本を学ぶこと	○環境整備、事務系業務、販売学習等の発展的な学習を行うこと ○清掃：職員室や特別教室の清掃の仕方を学ぶこと ○清掃検定：1年生で取り組んだ練習を思い出しながらモップや掃除機の手順を学ぶこと ○除草や除雪作業：根気強さや協力の仕方について学ぶこと ○接客や販売の技術について学ぶこと	○環境整備、事務系業務、販売学習等の応用的な学習を行うこと ○清掃：きれいになるように、仲間と協力して責任を持って取り組むこと ○清掃検定：スグイジー、ポリッシュャーに取り組み、さらに上級をねらうこと ○除草や除雪作業：地域貢献について考え勤労意欲を高めること ○接客：笑顔、気配りに注意し、お客様が満足する接客を目指すこと	
家庭総合科	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方（生活産業に関する事業を協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承、持続可能な社会の構築等の視点でとらえ、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること）を働かせ、実践的・体験的な学習活動などを行うことを通して、生活の質の向上と社会の発展に寄与する職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生活産業に関することについて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識・技能) (2) 生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力を養う。(思考力・判断力・表現力等) (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)			
	○製菓、被服に関する基礎的な学習を行うこと ○製菓：比較的成型が簡単な丸型パンを製造すること ○被服：平面的な縫製製品を製作すること	○製菓、被服に関する発展的な内容を学習すること ○製菓：中型パンやパウンド型パンを使用した中級レベルのパンを製造すること ○被服：トートバッグ、ファスナーの付け方、マチのあるバッグなどの初級、小型の製品を製作すること	○製菓、被服に関する応用的な内容を学習すること。 ○製菓：食パンなどの大型パン、ねじったり、クープ（切り込み）を入れた上級レベルのパンを製造すること ○被服：マチ付き中型バッグ、外ポケット付き大型バッグを製作すること	

一人ひとりのキャリア発達を支援しキャリアを形成していくために必要な意欲・態度・能力を育てる中核となる学習活動

望ましい職業観・勤労観を育てる / 自分の生き方を考える / 自己有用感をもつ

一人ひとりのキャリア発達を支援しキャリアを形成していくために必要な意欲・態度・能力を育てる中核となる学習活動

福祉サービ
ス科

福祉の見方・考え方を生活に関連する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉と関連付けることを働かせ、実践的・体験的な学習活動などを行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 福祉の各分野について体系的、系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識・技能)

(2) 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力を養う。(思考力・判断力・表現力等)

(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

※あわせて、環境・流通サポート科と同じ「流通サービス」の目標も取り入れる。

○介護、接客、清掃、調理の4本柱の学習を経験し、基礎的な学習を行うこと	○4本柱の発展的な学習を行い、後半に次の2つからグループを選択する。 ○福祉グループ：介護、清掃に関すること ○サービスグループ：接客、調理、清掃に関すること サービスグループ：接客、調理に関すること	○選択したグループの学習を深めること ○福祉グループ：介護、清掃に関すること ○サービスグループ：接客、調理、清掃に関すること
-------------------------------------	---	---

キャリア発達を支援する主な視点

人間関係づくり	◆自分のよさや課題への気付き ◆相手を理解し、思いやりの気持ちをもった言動 ◆協力して目標を達成することのよさへの気付き ◆戸惑いや葛藤に対するよりよい課題解決の方法
コミュニケーション	◆あいさつ、返事 ◆援助依頼、報告、伝言、質問や相談 ◆敬語の使い方、状況に応じた会話
働く習慣	◆職場における習慣づくり (時間の意識、安全性、積極性、責任感、集中力、ルールやマナー、丁寧さ、正確性、判断力)
将来設計	◆働くことへの興味関心、将来の夢や憧れ ◆現場実習の目標設定、振り返りから次へのステップ
生きがい	◆社会の一員として貢献している喜びを感じ、自己有用感をもった主体的な活動

進路学習
(総合的な探究の時間)

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2) 実社会や実生活と自己との関りから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。(高等学校学習指導要領より)

○自己理解、仕事、生活、余暇、ところとからだに関する基礎的な学習を行うこと	○自己理解、仕事、生活、余暇、ところとからだに関する発展的な学習を行うこと	○自己理解、仕事、生活、余暇、ところとからだに関する応用的な学習を行うこと
○自己理解：自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合うこと	○自己理解：自分の課題と向き合い、解決に向けた探究に取り組むこと。多様な社会とのつながり、他者との協力について学ぶこと	○自己理解：探究を通して、自己の在り方、生き方を考え、将来の理想をデザインすること。豊かな人間性、自己実現について考えること
○仕事・生活・余暇：基本的な知識を得ること	○仕事・生活・余暇：調べ学習を通して、社会人として必要な知識を理解すること	○仕事・生活・余暇：仕事・生活・余暇の3つの関係性を理解して、将来の生活に向けて意欲を持つこと
○ところとからだ：基本的な知識を得ること	○ところとからだ：社会人として必要な知識を得て、多様な意見を知ること	○ところとからだ：自分の具体的な生活や社会を考えながら、実生活に結び付ける必要な知識を得ること

キャリア発達を支援する主な視点

人間関係づくり	◆自分のよさや課題への気付き ◆相手を理解し、思いやりの気持ちを持った言動
将来設計	◆将来の夢や憧れ ◆進路希望に向けた目標と取組
生きがい	◆自己を生かしたよりよい生き方、余暇活動の楽しさ、やりがい

特別の
道徳

人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。(中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 14ページ)

○主として自分自身に関すること (自主、自立、自由と責任)

○主として人との関わりに関すること (思いやり、感謝、礼儀、友情、信頼、相互理解、寛容)

○主として集団や社会との関りに関すること (遵法精神、公德心、公正、公平、社会正義、社会参加、公共の精神、勤労、家族愛、家庭生活の充実、より良い学校生活、集団生活の充実、郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度、我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度、国際理解、国際貢献)

○主として生命や自然、崇高なものとの関りに関すること (生命の尊さ、自然愛護、感謝、畏敬の念、よりよく生きる喜び)

キャリア発達を支援する主な視点

人間関係づくり	◆相手を理解し、思いやりの気持ちをもった言動 ◆協力して目標を達成することのよさへの気付き
コミュニケーション	◆敬語の使い方、状況に応じた会話
生きがい	◆自己を生かしたよりよい生き方、余暇活動の楽しさ、やりがい

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互

特別活動

いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間ととしての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

- ホームルーム活動
- 生徒会活動
- 学校行事（儀式的行事、文化的行事、健康・安全体育的行事、旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕的行事）

キャリア発達を支援する主な視点

- | | | |
|-----------|-------------------------------|------------------------|
| 人間関係づくり | ◆自分のよさや課題への気付き | ◆相手を理解し、思いやりの気持ちをもった言動 |
| | ◆協力して目標を達成することのよさへの気付き | |
| | ◆戸惑いや葛藤に対するよりよい課題解決の方法 | |
| コミュニケーション | ◆敬語の使い方、状況に応じた会話 | |
| 将来設計 | ◆進路希望に向けた目標と取組 | |
| 生きがい | ◆自己を生かしたよりよい生き方、余暇活動の楽しさ、やりがい | |

自立活動

個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う

- 健康の保持
- 心理的な安定
- 人間関係の形成
- コミュニケーション

（「環境の把握」、「身体の動き」に関する内容は、必要に応じて個別に指導する）

キャリア発達を支援する主な視点

- | | | |
|-----------|-------------------|------------------------|
| 人間関係づくり | ◆自分のよさや課題への気付き | ◆相手を理解し、思いやりの気持ちをもった言動 |
| コミュニケーション | ◆あいさつ、返事 | |
| | ◆援助依頼、報告、伝言、質問や相談 | |
| | ◆敬語の使い方、状況に応じた会話 | |
| 働く習慣 | ◆家庭、学校における習慣づくり | |

社会人・職業人として主体的に自分の人生を生きるために必要な力を育てる

1年 / 基礎

自分を見つめる

自分を見つめ
将来の生活をイメージする

2年 / 発展

自分の可能性を広げる

自分の可能性を広げ
将来の夢や希望を描く

3年 / 応用

自分の生き方を考える

自分の生き方を考え
将来の生活をデザインする

一人ひとりのキャリア発達を支援しキャリアを形成していくために必要な意欲・態度・能力を育てる基礎となる教科等
望ましい職業観・勤労観を育てる / 自分の生き方を考える / 自己有用感をもつ

教科等の目標と主な内容 ※目標、資質・能力の三本柱は学習指導要領よりそのまま抜粋		
各教科等	生徒が自立し社会参加するために必要な「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成する。	
国語	言葉に必要な「見方・考え方（生徒が学習の中で対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方に着目して捉えたり、問い直したりして言葉への自覚を高めること）を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し、表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。	○文章理解や表現のために必要な語句の量を増やすこと ○読んだり聞き取ったりした内容を簡単に書き留めたり、聞き返したりして内容の大体を捉えること ○目的を意識して、書く内容を選び、伝えたいことを明確にすること
	○日常よく使われる敬語を理解すること ○文章や話の中で伝えたいことの中心に注意して内容を捉えること ○理由や事例との関係を明確にして、自分の考えを分かりやすく伝えること	○社会生活に必要な敬語や語いの量を増やし、話や文章の中で使用すること ○文章や話の目的の中心とその内容を捉え、自分が聞きたいことを聞き取ること ○筋道の通った文章になるように文章全体の構成を考えること
		(選択国語) ○漢字や慣用語、ことわざの意味などを理解し、語彙力を高め、日本語により親しむこと ○作文や意見発表、意見交換を通して、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを伝えること
社会	社会的な見方・考え方（社会的な事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の視点や方法）を働かせ、社会的な事象について関心をもち、具体的に考察する活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史と伝統と文化及び外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して、理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 社会的な事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、自分の生活と結び付けて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 (3) 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の人人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。	
	○家庭や学校、地域社会のきまりの必要性や社会に関する基本的な制度を理解すること ○自分の生活に関係の深い公共施設や公共物の役割を理解すること ○地域の自然災害に対する様々な備えについて理解すること ○協力して地域の産業発展に努めていることを理解すること ○北海道の概要や主な歴史を理解すること ○世界の文化や風習の違いを理解すること	○社会生活を営む上で大切な法やきまり、政治の基本的な仕組みについて理解すること ○生活に関係の深い公共施設や公共物の役割を理解すること ○自然災害が国民生活に影響を及ぼすことを理解すること ○食糧生産の重要な役割を理解すること ○日本の地形や気候の概要や歴史上の主な事象、優れた文化遺産について理解すること ○外国の人人々の生活に着目し、日本の文化や習慣との違いについて理解すること
	○生活に関係の深い法やきまり、制度について理解すること ○公共施設や公共物の適切な活用を考え、表現すること ○自然災害から生活を守るための対策などについて理解すること ○工業生産の概要を捉え、これが生活に果たす役割を理解すること ○世界における日本の位置や構成の概要を理解し、先人の業績や優れた文化遺産を理解すること ○国際社会において、日本が果たしている役割を理解すること	
数学	数学的な見方・考え方（見方は、事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に注目して、その特徴や本質を捉えること。考え方は、目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用し、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関係付けながら統合的・発展的に考えること）を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しを持ち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学を生活や学習に活用しようとする態度を養う。	
	○整数の加減乗除の計算をすること ○図形の面積や角の大きさを求めること ○二つの数量の関係を割合によって比べること ○データを表し棒グラフ、折れ線グラフで表し、読み取ること	○小数及び分数の計算をすること ○三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めること ○二つの数量の関係を別の二つの数量とを比べたり、表現したりすること ○データを円グラフや帯グラフで表す方法や読みとり方、測定結果を平均する方法を理解すること
	○文字を用いた式を理解すること ○円の面積や立方体、直方体、角柱、円柱の体積を求めること ○伴って変わる二つの数量を見出し、それらの関係を表や式を用いて表現したり、比で処理したりすること ○量的データータの分布の中心や散らばり方の様子からデータの特徴を読みとる方法を理解すること	

一人ひとりのキャリア発達を支援しキャリアを形成していくために必要な意欲・態度・能力を育てる基礎となる教科等

<p>職業</p>	<p>職業に係る見方・考え方（職業に係る事象を、将来の生き方等の視点で捉え、よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うこと）を働かせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 職業に関する事項について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。</p> <p>(3) よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 353 702 571"> <ul style="list-style-type: none"> ○働くことの意味を理解すること ○職業生活の基礎的な知識・技能を身に付けること ○職業や進路について調べ、理解すること </td> <td data-bbox="702 353 1045 571"> <ul style="list-style-type: none"> ○作業学習や現場実習を通して勤労の意義を理解すること ○職業生活に必要な実践的な知識、技能を身に付けること ○卒業後の進路に必要なことについて現場実習等を通して理解すること </td> <td data-bbox="1045 353 1382 571"> <ul style="list-style-type: none"> ○作業学習や現場実習を通して勤労の意義について理解を深めること ○職業生活に必要な実践的な知識、技能について理解を深めること ○卒業後の進路に必要なことについて現場実習等を通して理解を深めること </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ○働くことの意味を理解すること ○職業生活の基礎的な知識・技能を身に付けること ○職業や進路について調べ、理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業学習や現場実習を通して勤労の意義を理解すること ○職業生活に必要な実践的な知識、技能を身に付けること ○卒業後の進路に必要なことについて現場実習等を通して理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業学習や現場実習を通して勤労の意義について理解を深めること ○職業生活に必要な実践的な知識、技能について理解を深めること ○卒業後の進路に必要なことについて現場実習等を通して理解を深めること
<ul style="list-style-type: none"> ○働くことの意味を理解すること ○職業生活の基礎的な知識・技能を身に付けること ○職業や進路について調べ、理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業学習や現場実習を通して勤労の意義を理解すること ○職業生活に必要な実践的な知識、技能を身に付けること ○卒業後の進路に必要なことについて現場実習等を通して理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業学習や現場実習を通して勤労の意義について理解を深めること ○職業生活に必要な実践的な知識、技能について理解を深めること ○卒業後の進路に必要なことについて現場実習等を通して理解を深めること 		
<p>家庭</p>	<p>生活の営みに係る見方・考え方（見方としては、家族・家庭生活では主に協力・協働を、衣食住の生活では主に健康・快適・安全や生活文化の継承・創造を、消費生活・環境では主に持続可能な社会の構築の視点が重視される。考え方としては、家庭分野で学ぶ、調理や衣服の手入れ、身近な消費生活等に関する内容を捉え、自らの生活を振り返り、工夫する際の思考のこと）を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家族や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 家族や人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 869 702 1075"> <ul style="list-style-type: none"> ○家族・家庭の大切さや自分の果たす役割に気づき、家庭生活に関心を持つこと ○食事の大切さや裁縫の基礎的な住まい方について理解すること ○生活に必要な物の選択や扱い方について理解すること </td> <td data-bbox="702 869 1045 1075"> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長と家族の関わりが分かり、自分の役割を考え表現すること ○健康によい食習慣や目的に応じた衣服の選択について理解すること ○売買契約の仕組みを理解し、計画的な金銭管理の必要性に気づくこと </td> <td data-bbox="1045 869 1382 1075"> <ul style="list-style-type: none"> ○家族と地域のよりよい関わり方について考え、共に支えあうことの大切さを理解すること ○日常食の調理や安全な住空間の整え方を理解し、工夫すること ○消費者の基本的な権利と責任について理解すること </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ○家族・家庭の大切さや自分の果たす役割に気づき、家庭生活に関心を持つこと ○食事の大切さや裁縫の基礎的な住まい方について理解すること ○生活に必要な物の選択や扱い方について理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長と家族の関わりが分かり、自分の役割を考え表現すること ○健康によい食習慣や目的に応じた衣服の選択について理解すること ○売買契約の仕組みを理解し、計画的な金銭管理の必要性に気づくこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族と地域のよりよい関わり方について考え、共に支えあうことの大切さを理解すること ○日常食の調理や安全な住空間の整え方を理解し、工夫すること ○消費者の基本的な権利と責任について理解すること
<ul style="list-style-type: none"> ○家族・家庭の大切さや自分の果たす役割に気づき、家庭生活に関心を持つこと ○食事の大切さや裁縫の基礎的な住まい方について理解すること ○生活に必要な物の選択や扱い方について理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長と家族の関わりが分かり、自分の役割を考え表現すること ○健康によい食習慣や目的に応じた衣服の選択について理解すること ○売買契約の仕組みを理解し、計画的な金銭管理の必要性に気づくこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族と地域のよりよい関わり方について考え、共に支えあうことの大切さを理解すること ○日常食の調理や安全な住空間の整え方を理解し、工夫すること ○消費者の基本的な権利と責任について理解すること 		
<p>外国語（英語）</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方（外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関りに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること）を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づくとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語いなどが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 1422 702 1601"> <ul style="list-style-type: none"> ○英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと </td> <td data-bbox="702 1422 1045 1601"> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活でよく使われる簡単な語句や基本的な表現などを理解すること </td> <td data-bbox="1045 1422 1382 1601"> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活でよく使われる簡単な語句や基本的な表現などを用いて伝え合うこと (選択外国語) ○簡単な英会話や説明を聞き、それらを表すイラストなどと結び付けること ○身近な事柄について、簡単な質問をしたり答えたりすること </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ○英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活でよく使われる簡単な語句や基本的な表現などを理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活でよく使われる簡単な語句や基本的な表現などを用いて伝え合うこと (選択外国語) ○簡単な英会話や説明を聞き、それらを表すイラストなどと結び付けること ○身近な事柄について、簡単な質問をしたり答えたりすること
<ul style="list-style-type: none"> ○英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活でよく使われる簡単な語句や基本的な表現などを理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活でよく使われる簡単な語句や基本的な表現などを用いて伝え合うこと (選択外国語) ○簡単な英会話や説明を聞き、それらを表すイラストなどと結び付けること ○身近な事柄について、簡単な質問をしたり答えたりすること 		
<p>情報</p>	<p>情報に関する科学的な見方・考え方（事象を情報とその結びつきとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用<プログラミングやモデル化・シミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等>により、新たな情報に再構成すること）を働かせ、身近にある情報機器の操作の習得を図りながら、問題の解決を行う学習活動を通して、問題を知り、問題の解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に適切に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 身近にある情報と情報技術及びこれらを活用して問題を知り、問題解決する方法について理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人の関わりについて理解できるようにする。</p> <p>(2) 身近な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 身近にある情報や情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に参画しようとする態度を養う。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 1848 702 1944"> <ul style="list-style-type: none"> ○情報機器やソフトウェア等に関する基本的な知識や操作方法を知ること </td> <td data-bbox="702 1848 1045 1944"> </td> <td data-bbox="1045 1848 1382 1944"> <ul style="list-style-type: none"> (選択情報) ○情報社会の問題を知り、問題解決する方法を知ること </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ○情報機器やソフトウェア等に関する基本的な知識や操作方法を知ること 		<ul style="list-style-type: none"> (選択情報) ○情報社会の問題を知り、問題解決する方法を知ること
<ul style="list-style-type: none"> ○情報機器やソフトウェア等に関する基本的な知識や操作方法を知ること 		<ul style="list-style-type: none"> (選択情報) ○情報社会の問題を知り、問題解決する方法を知ること 		

- 基本のフォントは、MSゴシック(10.5ポイント程度が望ましい)
- 余白は20mm以上あることが望ましい(上下左右とも)

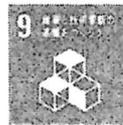
ポイント①

キャッチフレーズについては、校長の「今年度の重点」を受け、キャッチフレーズを記入する。
※DF平成ゴシック体 W5 14ポイント 太字

V-1 ○○科 キャッチフレーズ

※学科順は、道立特別支援学校高等部教育課程編成基準に則る。

(V-1 生産技術、V-2 木工、V-3 環境、V-4 家庭総合、V-5 福祉)



ポイント②

道立特別支援学校高等部教育課程編成基準「別記1 学科の目標」を記入。

1 学科の目標

□□や□等の多様な素材を主材料とする製品の製造などの体験的な学習を通して、勤労の体験を豊かにし、その意義を理解させるとともに、社会自立に必要な基礎的・基本的な能力を高め、実践的な態度を育てる。

ポイント③

2 基本方針

- 1 これまでは8~9点あげていたが、ポイントを絞り、3~4点とする。
- 2 教育課程 Basic Plan(2022 改訂版)の学科の目標を「知識・技能」「思考力・表現力・判断力等」「学びに向かう力・人間性等」の項目で記入する。
- 3 必要があれば(4)に学科独自の方針を記入する。

方 針	備 考
(1) △△に関することについて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	「知識・技能」
(2) △△に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題を解決する力を養う。	「思考力・表現力・判断力等」
(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	「学びに向かう力・人間性等」
(4) ※必要があれば記入する	「学科独自」

ポイント④

学校経営方針の「重点目標」を受け、各学科の年度の重点(下位目標)を具体的に記入する。

→キャッチフレーズを具体化するイメージで、各学科で毎年変更する。例にとられず、学科で共通理解しやすい表現でよい。

3 今年度の重点

- (1) これまで取り組んできた指導内容・方法を検証・評価し、次につながるものへ発展させる。
- (2) 人との関わり・つながりを通して、コミュニケーション能力を高め、実践的な態度を育てる。

ポイント⑥

基底となる指導計画（2022.09.29改訂版）の学年目標を「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力・人間性等」の3観点で記入する。

4 指導の重点

(1) 1 学年

- ①〇△△に関することについて理解するとともに、関連する基本的な技術を身に付ける。
(知識・技能)
- ②〇△△に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえて学習をしたことを振り返り、考えたことを表現するなど、自分の課題を解決する力を養う。
(思考力・表現力・判断力等)
- ③職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

(2) 2 学年

- ①〇△△に関することについて理解するとともに、関連する発展的な技術を身に付ける。
(知識・技能)
- ②〇△△に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえて解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。(思考力・表現力・判断力等)
- ③職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

(3) 3 学年

- ①〇△△に関することについて理解するとともに、関連する応用的な技術を身に付ける。
(知識・技能)
- ②〇△△に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえて解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。(思考力・表現力・判断力等)
- ③職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

5 業務内容と分担

項目	業務内容	担当者
学科経営	<p>ポイント⑥ 年度末評価等を受け、「課題達成に向けた方向性」で示された関係組織に関する内容を「3 重点目標と業務内容及び分担」または「4 年間業務推進計画」の中に盛り込む。</p>	
施設・設備	<p>ポイント⑦ 年度末評価の際、年間指導計画に沿って学習できたか、学習内容はどうだったか、時数等の適切さなどについて評価する。</p>	
その他		
SDGsの視点		

ポイント⑧

重点目標や活動内容等からSDGsの17項目のどれに当てはまるのかを記載する。また、右上にSDGsのアイコンを表記する。

※アイコンのデータ保存場所 旬のもの→R5学校経営計画→SDGsアイコン

●なお、作成したデータは「旬のもの→学校経営計画→集約」に入れること。4/3まで

基底となる指導計画 新様式 記入例 ～作業学習～

※提出の際、赤文字斜体部分は削除する

※太字 ～新設項目

教科等	作業学習		
対象学科	例) 生産技術科		
教科の目標 ※技・ホ=工業 ※環=流通・サービス ※家=家政 ※福=流通・サービス及び福祉	△△の見方・考え方(ものづくりを、工業生産、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などに着目して捉え、新たな時代を切り拓く安全で安心な付加価値の高い創造的な製品や構造物などと関連付けること)を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展に寄与する職業人として必要な資質・能力を育成する。 ※各学科については、Basic Planの各学科の目標の前段部分から記入する。		
	本校における資質・能力と「将来の生活に向けて授業で身に付ける力」との関連 ※【左欄】(1)～(3)は、全教科・全学科共通 →研究集録12号P145から転記する。 ※【右欄】は旧基底の「将来の生活に向けて授業で身に付ける力」と関連する内容を整理して記載する。		
	(1) 知識・技能「学習に意欲的に取り組み社会生活に必要な勤労観や礼儀作法などの確かな知識や技術などを身に付ける」	<ul style="list-style-type: none"> 各作業種の工程について理解する 使用する道具や機械を正しく扱う技術を身に付ける。 	
	(2) 思考力、表現力、判断力等「自ら課題を見つけ、主体的に判断し、個性を發揮して、思いや考えを対話等で表現する」	<ul style="list-style-type: none"> より良い製品を作るために必要な課題を発見し、改善策や解決策を考える。 	
(3) 学びに向かう力、人間性等「様々な学習を意欲的・主体的に行い、自分の生きがいを見つけ、役割を自覚し、協力し合いながら社会に貢献する」	<ul style="list-style-type: none"> 製品作りなどを通して、社会に役立つことを知り、仲間と協働しながら主体的に取り組む態度を養う。 		
教科を学ぶ意味や価値 ※技・ホ=工業 ※環=流通・サービス ※家=家政 ※福=流通・サービス及び福祉	○△△の見方・考え方※学習指導要領解説教科等編下P227～「○○の見方・考え方とは～」以下の文章を転記する。 ものづくりを、工業生産、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などに着目して捉え、新たな時代を切り拓く安全で安心な付加価値の高い創造的な製品や構造物などと関連付けること。 ○△△科で学ぶ意義 ※上記の見方・考え方の意味付け、価値付けを生徒に分かりやすく表記する。これまでの研究成果や旧基底の「将来の生活に向けて授業で身に付ける力」などを記入してもよい。		
	① 集団の中で自分の役割を果たす力が身に付く ② 必要な支援を求めたり、相談したりできる表現力が身に付く ③ TPOに応じた言動を取るためのコミュニケーション能力が身に付く ④ 職業生活に必要な力(安全性、積極性、責任感、集中力、判断力等) ⑤ 活動を振り返り、次に生かそうとする力が身に付く		
教科の評価の観点	※【左欄】H31.3.29「改善等通知 別紙5各教科等の評価の観点及びその趣旨(高等学校及び特別支援学校高等部)1-6 特別支援学校(知的障害)高等部における主として専門学科において開設される各教科の学習の記録から転記する。		※【右欄】左欄を受けた、学科の代表的な評価の観点を記載する
		改善等通知 評価の観点及びその趣旨より	各科の代表的な評価の観点
	知・技	<ul style="list-style-type: none"> △△に関することについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作の工程や必要な道具を理解している。 道具や機械を安全に正しく使用できる。
	思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> △△に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ課題解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> より良い製品を作るために必要な課題を発見し、解決に向けて工夫するべき点について考え、表現していること。
主体的	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> より良い製品作りを目指して意欲的、主体的に取り組む姿勢・態度がある。 周りの人と協力して積極的に取り組むこと。 	
評価場面 評価方法	※評価場面、評価方法を記載する。 ○(知・技) 作業の準備・後片付け、作業工程、道具等の扱い方、出来栄え ○(思、表、判) 作業工程、話し合い活動、工夫点・解決策の検討 ○(主体) 作業態度、振り返りシート		
	学習上の留意点 ※各授業を受ける際の留意事項・実習の心得などを記入する ・挨拶、返事、報告をしっかりとる。 ・道具や生地を大切に扱う。 ・誰に対しても言葉遣いに気を付ける。 ・仲間と協力して作業をする。		
各学年の目標 ※学習指導要領の専門学科の目	1 学年 (基礎)	2 学年 (発展)	3 学年 (応用)
	(知・技) ○△△に関することについて理解するとともに、関連する基本的な技術を身に付ける。	(知・技) ○△△に関することについて理解するとともに、関連する発展的な技術を身に付ける。	(知・技) ○△△に関することについて理解するとともに、関連する応用的な技術を身に付ける。

標を、基礎、発展、 応用の視点で記 入する	(思、判、表) ○△△に関する課題を発見し、職業 人に求められる倫理観を踏まえて学 習をしたことを振り返り、考えたこ とを表現するなど、自分の課題を解 決する力を養う。	(思、判、表) ○△△に関する課題を発見し、職業 人に求められる倫理観を踏まえて解 決策を考え、実践を評価し、表現す る力を養う。	(思、判、表) ○△△に関する課題を発見し、職業 人に求められる倫理観を踏まえて解 決策を考え、実践を評価・改善し、 表現する力を養う。
	(学、人) ○職業人として必要な豊かな人間性 を育み、よりよい社会の構築を目指 して自ら学び、社会貢献に主体的に 取り組む態度を養う。	(学、人) ○職業人として必要な豊かな人間性 を育み、よりよい社会の構築を目指 して自ら学び、社会貢献に協動的に 取り組む態度を養う。	(学、人) ○職業人として必要な豊かな人間性 を育み、よりよい社会の構築を目指 して自ら学び、社会貢献に主体的か つ協動的に取り組む態度を養う。
学期	主な学習内容		
	1 学年 (基礎)	2 学年 (発展)	3 学年 (応用)
	※学科独自の押さえなどがある場合はこ の欄に記入する。ない場合は斜線を引く 多くの作業種を経験し、作業学習 の基礎を培う。	※学科独自の押さえなどがある場合はこ の欄に記入する。ない場合は斜線を引く 1年次の学習を基に発展的な内容 (木工+グラス加工)に取り組む。	※学科独自の押さえなどがある場合はこ の欄に記入する。ない場合は斜線を引く 2年間の学習を基に応用的な内容 (外注品、卒業制作、ニーズに応じた もの)に取り組む。
1	<input type="checkbox"/> 紙工実習 ・紙すき (基礎技術: A4 判) ・校内で使用する製品製作 (基礎技術) <input type="checkbox"/> 清掃実習 ・実習室清掃 ・体育館清掃 (基礎技術) <input type="checkbox"/> 園芸実習 ・校内の花壇整備 (6月~10月) <input type="checkbox"/> 地域との連携 ・町内清掃 ・近隣学校との交流	<input type="checkbox"/> 紙工実習 ・各種用紙の校外受注 (近隣学校、福祉施設など) ・紙すき (色紙判) ・長3形封筒製作 <input type="checkbox"/> 清掃実習 ・実習室清掃 ・体育館清掃 <input type="checkbox"/> グラス加工実習 ・不定期 (5月~3月) <input type="checkbox"/> 地域との連携 ・町内清掃 ・近隣学校との交流	<input type="checkbox"/> 紙工実習 ・紙すき (A3 判) ・角2封筒製作 <input type="checkbox"/> 清掃実習 ・実習室清掃 ・体育館清掃 <input type="checkbox"/> グラス加工実習 ・不定期 (5月~3月) <input type="checkbox"/> 地域との連携 ・町内清掃 ・近隣学校との交流
2	<input type="checkbox"/> 紙工実習 ・各種用紙の校内受注 ・紙すき ・製品製作 (カット、印刷) <input type="checkbox"/> 清掃実習 ・実習室清掃 ・体育館清掃 <input type="checkbox"/> セラミック実習 ・製品製作 <input type="checkbox"/> 学校祭販売製品作り ・紙工 (貯袋、メッセージカードセット) ・セラミック (小皿など)	<input type="checkbox"/> 紙工実習 ・各種用紙の校外受注 (近隣学校、福祉施設など) ・紙すき (色紙判) <input type="checkbox"/> 清掃実習 ・実習室清掃 ・体育館清掃 <input type="checkbox"/> 学校祭販売製品作り ・紙工 ・グラス加工・木工 <input type="checkbox"/> 地域との連携 ・近隣学校との交流	<input type="checkbox"/> 紙工実習 ・紙すき ・卒業証書用紙製作 <input type="checkbox"/> 清掃実習 ・実習室清掃 ・体育館清掃 <input type="checkbox"/> 学校祭販売製品作り ・紙工 (袋作り) ・グラス加工 <input type="checkbox"/> 地域との連携 ・近隣学校との交流
3	<input type="checkbox"/> 紙工実習 ・各種用紙の校内受注 ・紙すき <input type="checkbox"/> 清掃実習 ・実習室清掃 ・体育館清掃 <input type="checkbox"/> グラス加工実習 ・グラス加工の基礎技術 <input type="checkbox"/> 地域との連携 ・地域の除雪 ・近隣学校との交流	<input type="checkbox"/> 紙工実習 ・各種用紙の校外受注 (近隣学校、福祉施設など) ・紙すき (色紙判) <input type="checkbox"/> 清掃実習 ・実習室清掃 ・体育館清掃 <input type="checkbox"/> 地域との連携 ・地域の除雪	<input type="checkbox"/> 卒業制作 ・製品製作 ※作るものによっては時期を早 めて製作する。 <input type="checkbox"/> 清掃実習 ・実習室清掃 ・体育館清掃 <input type="checkbox"/> 3年間のみまとめ
時数	297.5 時間	455 時間 (R5~437.5 時間)	455 時間 (R6~437.5 時間)
備考			

2学年の教科「情報」の履修について

1 課題について

(1) 課題検討の経緯

- ・現在「情報」は、1学年(全員)と3学年(選択)での履修であり、2学年は履修していない。令和3年度のICT教育推進委員会から、今後検討が必要な事項として教科「情報」の履修方法が挙げられ、令和4年度の教育課程検討委員会の議題とし、令和6年度以降の実施に向け検討することとした。

(2) 具体的内容

- ・情報の履修学年、履修方法、時間割の改善の必要性について検討する。

2 本校での教科「情報」の履修の必要性

次のことから2学年でも全員履修が必要であると考えた。

(1) 確かな学力の育成

(2) 時代と社会の変化に対応できる力の育成 (研究主題より)

- ・一人一台端末に向け、教科「情報」での学習成果がその他の各教科の学習とつながる。
- ・教職員の指導力の向上につながる。

3 検討結果

今年度育課程検討委員会で検討し、次のように実施することとする。

(1) 令和6年度より、2学年でも教科「情報」を履修する。

(2) 現在13時間履修している作業学習を1時間分減らし(12時間へ)、その1時間を教科「情報」に充てる。

(3) 具体的には、月曜日の4校時を教科学習の時間とする。

- ・月曜日=3時間作業、水曜日=6時間作業(隔週)、木曜日=4時間作業とする。

(4) 福祉科2学年の「製菓」の題材時期は、月曜日の作業学習が4時間続きで学習できるように時間割を変更する。(3学期に2~3回を想定)

(5) 教科「情報」は、学級単位での履修とする。

(6) その他

ア 令和6年度以降、次の履修時数とする。

	教科「情報」	作業学習
1学年	全員履修:週1時間(年35単位時間)	週 9(8.5*)時間
2学年	全員履修:週1時間(年35単位時間)	週 12(11.5*)時間
3学年	選択教科:週2時間(年70単位時間)	週 13(12.5*)時間

*道徳35時間の内、17.5時間を主として作業学習で指導するとしているため。(学年進行で実施)

イ 令和5年度の履修時数は次のとおり

	教科「情報」	作業学習
1学年	全員履修:週1時間(年35単位時間)	週 9(8.5*)時間
2学年		週 13(12.5*)時間
3学年	選択教科:週2時間(年70単位時間)	週 13時間

4 検討に当たって

(1) 知的障害特別支援学校における各教科等について（学習指導要領）

- ア 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業及び家庭の各教科、道徳科、総合的な探究の時間、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、全ての生徒に履修させる。
- イ 外国語及び情報については、生徒や学校の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。
- ウ 各教科、道徳科、ホームルーム活動及び自立活動の授業は、年間 35 週行うことを標準とし、必要がある場合には(中略)、授業を特定の学期又は特定の期間に行うことができる。
- エ 総合的な探究の時間に充てる授業時数は、各学校において、実態に応じて適切に定める。

(2) 他校の「情報」履修状況

・情報は全学年で週 1 時間履修している学校がほとんどである。

	各教科の「2 学年」の週履修時数											備考			
	国	社	数	理	音	美	保	職	家	外	情	道	総		
小樽	2	1	2	-	1	1	3	1	1	1	-	全体	1		
稲穂	1.5	1	1.5	1	選択 2	4	1	1	1	1	1	0.3	2	*情報は、全学年週 1 時数	
札高養	1	1	1	-	1	2	2	1	1	-	1	全体	1	*情報は、全学年週 1 時数	
あいの里 (職業学科)	2	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	全体	?	*情報は、全学年週 1 時数	
旭川	2	1	1.5	1	1	1	1.5	1	1	1	1	-	適宜	*情報は、全学年週 1 時数	
あいべつ	1	1	1	1	1	2	2	0.5	0.5	1	1	1	1	*情報は、全学年週 1 時数	
新得	1	1	1	1	1	1	3.1	1	1	1	1	全体		*情報は、全学年週 1 時数	
みなみの杜	?	?	?	?	選択 1	2	2	1	1	1	1	全体	適宜	*情報は、全学年週 1 時数	

5 具体的な検討経過

(1) 2 学年で教科「情報」を履修する方法について、メリット、デメリットを踏まえて A 案～D 案から検討した。

【結果】

・A 案のうち、「作業学習」「国語・数学」のいずれかの時数を減らす方向に絞った。

時数	方法		備考
1 時間増	A	複数時数のある教科（作業学習、国語、数学、保健体育）のいずれかの時数を減らし、情報を追加する。	○現時間割を基本に作成可。 ●現行教科のいずれか時数減。
	B	A 以外の教科（社会、音楽、美術、職業、家庭、外国語）のいずれかをなくし情報を追加する。	○現時間割を基本に作成可。 ●現行教科のいずれか時数減。
	C	木曜日 6 校時を追加する。（毎週又は隔週で、6 校時目を追加。）	●1、3 学年も時数増が必要。
0.5 時間増	D	前期/後期または、隔週での履修とする。 ・例「外国語/情報」とし、前期は外国語、後期は情報を履修。 ・例「外国語/情報」とし、隔週で履修。	●0.5 時間(前後期、隔週)では定着が難しいか。 ●担当者時数に工夫が必要か。

【理由】

- ① 情報の時数は、週 0.5 時間では不十分であり、3 学年が選択であることを考えると 2 学年では週 1 時間履修が必要である。
- ② C 案は、生徒会活動の時間の確保等から現実的ではない。
- ③ B 案の、現行 1 時間しかない教科を減らすことは、学習の系統性や積み重ねの観点から説明がつかない。平成 30 年度から 2 学年でも音楽と美術を履修できるようにした経緯がある。（それ以前は、1 学年は音楽のみ 2 時間、2 学年は美術のみ 2 時間履修となっていた。）
- ④ A 案であれば「作業学習」か「国語、数学」を 1 時間減らすのが妥当。「国語、数学」の学年の系統性、時間割の複雑化を考えると、「作業学習」を減らすことを優先的に考えるべき。

※メリットデメリットの比較一覧、意見の詳細については、別紙 01 参照

(2)次に、A案を基に次の三案についてメリット、デメリットを踏まえて具体的に協議した。

- ①「国語・数学」を隔週で1時間ずつ減らす。(国語1.5時間、数学1.5時間となるようにする。)
- ②「作業学習」を1時間減らす。
- ③水曜の5～6校時「作業学習/進路学習」を「情報/進路学習にする」

【結果】

- ・②案「作業学習」を1時間減らす方向で進める。

【理由】

- ・①案は、教科の系統性から好ましくない。また、国数の授業日が隔週で変わるだけでなく、音楽の授業日も隔週で変えなければならない。減らすなら、やはり時数の多い作業を減らすのが妥当。
- ・③案は、時間割の変更が容易で、担任・副担任を中心に授業が進められるメリットはあるが、情報の担当者が同時刻に7人必要となることは、“授業の質”の確保、担任の授業の負担を考えると現実的ではない。

※メリットデメリットの比較一覧、意見の詳細については別紙02参照

(3)次に、②案「作業学習」を1時間減らす方法のうち次のいずれの案にするか、メリット、デメリットを踏まえて具体的に協議した。

- ・A案：水曜日4校時の作業学習を1時間減らす。
- ・B案：水曜日4校時の作業学習を1時間減らし、情報を2学級合同で実施する。
- ・X案：水曜日1校時の作業学習を1時間減らす。
- ・X'案：水曜日1校時の作業学習を1時間減らし、情報を2学級合同で実施する。
- ・C案：木曜日4校時の作業学習を1時間減らし、情報を2学級合同で実施する。
- ・D案：月曜日4校時の作業学習を1時間減らす。
- ・D'案：月曜日4校時の作業学習を1時間減らし、情報を2学級合同で実施する。

【結果】

- ・X案(X'案)及び、D案(D'案)に絞って検討する。

【理由】

- ・A案、B案は、「水曜日の1時間目に作業を入れる」ことでX案及びX'案として検討する。
⇒「4校時目の作業を減らす」ことを中心に考えたのは、生徒の「気持ちの切り替え」を考慮して。しかし、実際に時間割を組むと、全校的な時間割の入れ替えが必要なことが分かった。
- ・C案を検討から外す。(D案が可能なら、カフェ営業日を変更してまで検討する必要がない。)
⇒「(水)の作業学習を1コマ減らす」案が最優先となったのは、(木)はカフェ営業、(月)は福祉科の製菓があるため。しかし、製菓単元時期だけ4時間作業にすることで対応できるなら、課題は解消できる。

※メリットデメリットの比較一覧、意見の詳細については別紙03参照

(4) 最終的に次の二つの案に絞って検討した

	X案 (水曜日1校時の作業学習を1時間減らす)	D案 (月曜日4校時の作業学習を1時間減らす)
①生徒の切り替え(学習への取り組みやすさ)	・1校時に「教科」を入れてもよいなら	・1校時に「教科」を入れないなら
②終日作業の考え方	・「終日作業が5時間」でよいなら	・「6時間」の終日作業を残すなら
③曜日ごとの作業学習の「時数」	・(水)の5時間以外、(月)、(木)は4時間で固定できる ※ただし、進路学習がある場合などは、(水)は3時間となる。(月4、水3、木4)	・(月)3時間、(水)6時間、(木)4時間と変則的になる ※ただし、進路学習がある場合などは、(水)は4時間となる。(月3、水4、木4)
④1クラスか2クラス合同か	・1クラスごとならX案 ・2クラスでも可能ならX'案	・1クラスごとならD案 ・2クラスでも可能ならD'案

【結果】

- ・D案で実施することとした。

【理由】

- ・「終日6時間作業を続ける可能性をできるだけ残した方がよい。」という意見が多数であったため。

【意見】

<X案がよい>

- ・作業3時間の後、4時間目に教科が入るより、1時間目に教科が入る方が気持ちの切り替えや授業への集中がしやすい。
- ・作業学習が「3時間」へ短縮される曜日がある中、「終日作業」だけが6時間となると、生徒が長時間作業に慣れておらず集中しにくいのではないかと。

<D案がよい>

- ・コロナが収束し、校外学習等が復活することを考えると、終日作業を6時間とする方が、学習が充実できる。
- ・本校では「終日6時間作業」を伝統にしてきたことを考えると、「終日6時間作業」の可能性を残せる方がよい。
- ・5時間作業よりも、「終日6時間作業」の方がインパクトが大きい分、生徒にも達成感がある。
- ・週3日ある作業学習の全体的な学習展開を考えると、水曜日に6時間作業がある方がよい。(家庭総合科)
- ・現場実習が本格化することを考えると、2学年でも「終日6時間作業=1日中作業」の経験は必要。
- ・現在でも、「終日6時間作業」が確保できないことも多いが、「終日6時間作業」の可能性を残せる方がよい。
- ・作業学習が週1時間減る分、終日作業は「6時間」ある方がよい。

<どちらでもよい>

- ・教科学習が4時間目に入っても、1時間目に入っても、「気持ちを切り替えて学習する」ことが必要。また、日課に合わせて気持ちの切り替えや集中力について指導することも大切。なので、「気持ちの切り替え」については、どちらになっても指導の機会と捉えればよい。

※別紙 01

5 具体的な検討経過-(1)に対する、メリットデメリットの比較一覧、意見の詳細

A案：複数時数のある教科の時数を減らし、情報を追加する。

①A一案1：「国語（又は数学）」を1時間減らし、「情報」を1時間追加する。

比較項目	パターン (○=メリット ●=デメリット)		
	①国語又は数学を1時間減。	②情報を2クラス合同で実施。	③家庭科との組合せを情報にする。
ア 授業展開	○1学級ずつ実施可。	●2学級で実施。*1 ●長机の追加必要。 (R8年以降4台)	○1学級ずつ実施可。
イ「家庭と外国語」の組合せの維持 ※調理学習時に家庭が2時間連続になる場合の、時間割変更の容易さ。	○崩さずに実施可。	○崩さずに実施可。	○「家庭と情報」の組み合わせを崩さずに実施可。 ○2時間続きになったときに、外国語よりも情報の方が、授業が展開しやすい。
ウ 担当者の担当時数	△週7時間	○週4時間 (ただしST必要)	△週7時間
エ 1日の授業の連続時数	●火曜日の情報が5時間連続。 ※金曜日の2校時が1学年の情報と重なるのを解消するために必須。*2	○最大3時間。	●火曜日の情報と家庭が5時間連続。 ●家庭が2時間続きの時期は、家庭又は情報が6時間連続もあり得る。 ※金曜日2校時が、1学年情報と重なるのを解消するのに必須。*2
オ「国語と数学」を習熟度別で学習できる配置	●不可	○可能	○可能

*1 パソコン教室に16名生徒が入るのは、広さ的には可能。しかし、R7年度まででPC教室のPC、プリンター、机、椅子のリース期間が切れる。(現在はリース机4台、その他長机4台)

*2 情報の教場を、「コンピュータ室」とした場合。教場がどこでもよければ、この問題は解消できる。

②A一案2：「作業」を1時間減らす。

項目	パターン (○=メリット ▼=デメリット)		
	①作業を1時間減(全クラス同じコマに設定)	②作業を1時間減、教科を入れ換える	③情報を2クラス合同で実施。
ア 授業展開	○1学級で実施可。 ●同時に担当者が7人必要 ※他教科はこのシステムを取っていない。	○1学級で実施可。	●2学級での実施。 ●長机の追加必要。(R8年以降4台)
イ「家庭と外国語」の組み合わせ ※調理学習時に家庭が2時間連続になる場合の、時間割変更の容易さ。	○崩さずに実施可。 ○必要により全クラス作業にするなどの変更が容易。	●「家庭と外国語」の組み合わせが2クラス崩れる。	○崩さずに実施可。 ○その他の時間割の変更が比較的容易。
ウ 担当者の担当時数	○週1時間	△週7時間	○週4時間(ただしST必要)
エ 1日の授業の連続時数	○1日1時間	○最大3時間。	○最大3時間。
オ「国語と数学」を習熟度別で学習できる配置	○可能	●一部不可	○可能

③A一案3:「保健体育」を1時間減らす。

項目	パターン (○=メリット ▼=デメリット)		
	① 体育を1時間減(全クラス同じコマに設定)	② 体育を1時間減、教科を入れ換える	③ 体育を1時間減、情報を2クラス合同で実施。
ア 授業展開	○1学級で実施可。 ●同時に担当者が7人必要 ※他教科はこのシステムを取っていない。	○1学級で実施可。	●2学級での実施。 ●長机の追加必要。(R8年以降4台)
イ「家庭と外国語」の組み合わせ ※調理学習時に家庭が2時間連続になる場合の、時間割変更の容易さ。	○崩さずに実施可。 ○その他の時間割の変更が比較的容易にできる。	●「家庭と外国語」の組み合わせが2クラス崩れる。	○崩さずに実施可。 ○その他の時間割の変更が比較的容易にできる。
ウ 担当者の担当時数	○週1時間	△週7時間	○週4時間 (ただしST必要)
エ 1日の授業の連続時数	○1日1時間	○最大4時間。	○最大3時間。
オ「国語と数学」を習熟度別で学習できる配置	○可能	●一部不可	○可能

【小グループでの協議】

①奈良、石川、大谷、林教頭

		意見等
① 時数	◎「情報」を設定するとすれば、どの程度増やすか。 1時間か0.5時間か。 ・その理由。	◎1時間増やすのがよい。 ▲SNSについてよく分からずに使用し、トラブルになることが多い。情報モラル等についてしっかりとやろうと思えば、0.5時間では足りない。 ▲3年が選択であることを考えると、2学年で1時間は必要。
② 方法	◎A~Dどの方法で「情報」の時数を確保するのがよいか。	◎A案が妥当。 ▲Cは、現在の授業時数の充足、生徒会活動の時間確保等から、現実的ではない。 ▲学習の系統性、積み重ねを考えると、Bの1時間しかない教科を減らすのは、説明がつかない。
③ 具体案	◎具体的に、どの教科の時数を減らすか。(0.5の場合、どの教科と組み合わせるか。) ◎メリット、デメリットの比較から妥当な案はどれか。	◎Aで減らすとすれば、作業学習ではないか。 ・国数のどちらかを減らすなら、数学。国語は2時間必要ではないか。しかし、学年の系統性を考えると国数を減らすのは懸念がある。 ・体育(学年全体の1時間体育)は、集団への意識づくりという視点からも必要な指導であり、減らせない。 ・消去法ではあるが、作業を減らすのが妥当か。しかし、作業学習は雰囲気大切。教科を1時間やってから作業というのは、気持ちを整えるのが難しい。どの校時を減らすかなど、時間割を慎重に考える必要がある。 ・福祉科の介護の履修、カフェ営業等考えると、2学年に作業が減らせるのは水曜日。
④ その他	・その他、質問等	・特になし

意見等	
①時数	▲0.5 時間は不十分 ○1 時間がよい
②方法	○A 案がよい。(満場一致) 作業学習が減らしやすい 国語と数学も「稲穂」のように隔週で 1~2 時間履修もできそう ▲B 案はなし(今も必要最低限なので) 保健体育は「体力つくりのない本校」ではこれ以上減らせない 美術も「やっと 1 時間確保」したばかり ▲0.5 増は中途半端
③具体案	★協議の結果、次の 2 案を導き出した。優先度的には「作業を減らす」方を優先とする。 ○作業時間を 1 時間減らすのがよい(3 名) ○進路学習/作業学習のときの作業学習をけずり、情報に充てる。 ▲週平均にならすと 1 時間の情報となる ▲終日作業の日がなくなり、現場実習へのステップが作れない ○福祉科の初任者研修や家庭総合科の製菓実習には影響ない ▲○情報は隔週で 2 時間続きとなる ▲指導者が固定できるが、担任・副担では負担 ▲指導者 7 名の確保 ▲現在も隔週の終日作業が「進路学習にとられて」なかなか保障されていないことを考えると、かなり厳しく管理していかないと、抱き合わせの教科情報は維持できないかもしれない。 ○情報モラルの指導では、進路学習の余暇部分と関連 ○午前の 4 時間作業のどの曜日のどこを削るか? →1 時間目か 4 時間目がよいが、教科から作業の切り替えは過大 ▲月 1 時間目は福祉科の製菓には必要 ○4 時間目を削って情報とする。 ○国語 2 と数学 2 を隔週で 1 時間ずつ減らし下記のように実施 国語 2 数学 1 情報 1 / 国語 1 数学 2 情報 1 国語と数学の時数はバランスをとる ○他校はほとんど国語、数学は週 1 時間である ▲時間割が複雑化 ▲隔週で行うと系統性が維持しにくいかも ○作業を減らさないため終日作業を存続できる
④その他	・端末一人 1 台となるため、「すべての教科で情報を学習」するようなものである。どの学年も教科情報と他教科の関連、系統などが大切となる。

③その他

①時数	1 時間増やすのが良い	教科として時間を取らない。
②方法	A 案が妥当	
③具体案	作業から減らす 進路学習/作業学習の作業学習を情報に充てる。 (理由)終日作業がなくなるデメリットはあるが、作業の時間配分が変わる日が毎週入ることの方が負担になると思われる	(理由)、 教科、作業を減らすときの根拠がとても難しい。 端末 1 人 1 台より、各教科、作業において狙う学習内容、例えば情報モラルなどを列挙していただき、その内容を指導することで良い。(今までの道徳の考え方)

※別紙 02 「5 具体的な検討経過- (2) に対する、メリットデメリットの比較一覧、意見の詳細

比較一覧表 (○=メリット ●=デメリット)

比較項目	①国語 1.5、数学 1.5 となるようにバランスを取る		②作業を 1 時間減らす(4 校時の作業を減らすことを前提に)				③(水)5~6校時を「情報/進路」へ
	A 国・数を 1.5 へ	B 国・数を 1.5& 情報2学級合同実施	A (水)4校時1時間減	B (水)4校時1時間減& 情報2学級合同	C (木)4校時1時間減& 情報2学級合同 ※カフェ担当曜日の変更が可なら	D (月)4校時1時間減 & 情報2学級合同 ※月福祉科の製菓が3時間で可なら	
ア 国数習熟度別(合同)	●不可	○可能	●不可	○可能	●不可	●不可	○可能
イ 時間割の複雑さ	●1週目と2週目で時間割が変わる。 ●教場を PC 教室とすると、1年(金)2校時とかぶる。 →2年(火)1、2校時の音楽との入れ替えは可能だが、音楽も隔週で時間割が変わる。 ※教場が教室で可なら問題なし	●1週目と2週目で時間割が変わる。 ○教場を PC 教室としても、(金)2校時に授業が入らないので、1年(金)2校時とかぶらない。よって音楽と変更する必要もない。 ●2学級で実施するには PC 教室使用が必須。R7年度以降、長机、椅子の増設が必要*1	●(水)4校時に教科を入れると、終日作業が分断される。 ●解消には、全校的な時間割の入れ替えが必要。 ①→教場を教室とし ②→月5~6と水5~6を3学年丸ごと入れ替え、2年は(月)を6時間作業とする。 ③→②により1年(月)に情報5時間入のを避けるため、1年の月1~4と水1~4を入れ替え ●1、2年家庭科で前日5~6校時の作業が、計量に使えなくなる。 ※1校時に入れるなら、終日作業が5時間になるが、時間割を変えずに実施可	●(水)4校時に教科を入れると、終日作業が分断される。 ●解消には、全校的な時間割の入れ替えが必要。 ○①→1年(水)4校時の情報との重複が解消 ②→月5~6と水5~6を3学年丸ごと入れ替え、2年は(月)を6時間作業とする。 ③→②により1年(月)に情報5時間入のを避けるため、1年の月1~4と水1~4を入れ替え ●1、2年家庭科で前日5~6校時の作業が、計量などに使えなくなる。 ※1校時に入れるなら、終日作業が5時間になるが、時間割を変えずに実施可	○(木)4校時に教科を入れると、終日作業が維持できる。 ○全校的な時間割変更は必要なし。 ●カフェ営業、製パン担当学年の変更が必要(火)=1年→3年へ(水)=3年→2年へ(木)=2年→1年へ ●2年と3年は、6時間作業の午前中がカフェ、製パンとなる。 ●全学年家庭科で前日5~6校時の作業が、軽量などに使えなくなる。	○(月)4校時に教科を入れると、終日作業が維持できる。 ○全校的な時間割変更は必要なし。 ●(月)=福祉科の製菓の日は3時間作業となる ●現在でも、隔週での終日作業の確保は難しいため、厳しく管理していないと、情報の時数確保が難しい。 ○情報モラルの指導では、進路学習の余暇部分と関連がもてる。	○福祉科の初任者研修や家庭総合科の製菓実習には影響ない ●情報は隔週で2時間続きとなる
ウ 教務業務量	●業務量増	▲A案よりは軽減	○現行と同じ	○現行と同じ	○現行と同じ	○現行と同じ	○現行と同じ
エ 「家庭と外国語」の維持	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)	●不可(調理学習2時間連続の際の調整が複雑化)	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)
オ 1日の授業時数	○最大3時間	○最大2時間	○最大3時間	○最大3時間	○最大3時間	○最大3時間	○最大2時間
カ 終日作業	○維持できる	○維持できる	○維持できる ※の場合、終日作業5時間	○維持できる ※の場合、終日作業5時間	○維持できる	○維持できる	●維持できない
キ 担当者の担当時数	○週7時間(平均的)	○週4時間(ただし ST 必要)	○週7時間(平均的)	○週4時間(ただし ST 必要)	○週4時間(ただし ST 必要)	○週4時間(ただし ST 必要)	○週1時間(週平均) ●担当者が7人必要 ●担・副では負担が大きいか。担・副以外の学級所属は、実助、進路 Co.、学年主任など
ク 国数の学習の系統性	●維持しにくい(学年間、隔週での影響)	●維持しにくい(学年間、隔週での影響)	○維持できる	○維持できる	○維持できる	○維持できる	○維持できる

*1 PC 教室に 16 名生徒が入るのは広さ的には可能。しかし、R7 年度で PC 教室の PC、プリンター、机、椅子のリース期間が切れる。→ただし、2 学年に限ったことではない。(R4 年度現在：リース机 5 台、リース椅子 9 脚、その他長机 4 台→R8 年度から、16 人で学習するには、長机 5、椅子 17 の増)

※別紙 03 「5 具体的な検討経過-(3)に対する、メリットデメリットの比較一覧、意見の詳細
比較一覧表 No.2 (○=メリット ●=デメリット)

比較項目	②作業を1時間減らす						
	A (水)4校時1時間減	B (水)4校時1時間減&情報2学級合同	X (水)1校時減	X' (水)1校時減&情報2学級合同	C (木)4校時1時間減&情報2学級合同 ※カフェ担当曜日の変更が可なら	D (月)4校時1時間減	D' (月)4校時減&情報2学級合同 ※月福祉科の製菓が3時間で可なら
ア 国数習熟度別(合同)	△国語で1ペアが不可	○可能	△国語で1ペアが不可	○可能	●不可 ○可能	△国語で1ペアが不可	●不可 ○可能
イ 時間割、教場	<p>●(水)4校時に教科を入れると、終日作業が分断される。</p> <p>●解消には、全校的な時間割の入れ替えが必要。</p> <p>①→教場を教室とし</p> <p>②→月5~6と水5~6を3学年丸ごと入れ替え、2年は(月)を6時間作業とする。</p> <p>③→②により1年(月)に情報5時間入るのを避けるため、1年の月1~4と水1~4を入れ替え</p> <p>●1、2年家庭科で前日5~6校時の作業が、計量に使えなくなる。</p> <p>※1校時に入れるなら、終日作業が5時間になるが、時間割を変えずに実施可</p>	<p>●(水)4校時に教科を入れると、終日作業が分断される。</p> <p>●解消には、全校的な時間割の入れ替えが必要。</p> <p>○①→1年(水)4校時の情報との重複が解消</p> <p>②→月5~6と水5~6を3学年丸ごと入れ替え、2年は(月)を6時間作業とする。</p> <p>③→②により1年(月)に情報5時間入るのを避けるため、1年の月1~4と水1~4を入れ替え</p> <p>●1、2年家庭科で前日5~6校時の作業が、計量などに使えなくなる。</p> <p>※1校時に入れるなら、終日作業が5時間になるが、時間割を変えずに実施可</p>	<p>△5時間だけ終日作業が維持できる。</p> <p>○全校的な時間割変更は不要。</p> <p>○教場をPC教室とできる。</p> <p>○1クラスずつ学習ができる。</p> <p>○全学年家庭科で、前日5~6校時の作業が、軽量などに使える。</p> <p>●1校時に教科が入るため、作業への気持ちの切り替えが心配。</p>	<p>△5時間だけ終日作業が維持できる。</p> <p>○全校的な時間割変更は不要。</p> <p>○教場をPC教室とできる。</p> <p>●2クラス合同だと、指導者の目が行き届かない。ST2名必要</p> <p>○全学年家庭科で、前日5~6校時の作業が、軽量などに使える。</p> <p>●1校時に教科が入るため、作業への気持ちの切り替えが心配。</p>	<p>○終日作業が6時間維持できる。</p> <p>○全校的な時間割変更は不要。</p> <p>●カフェ営業、製パン担当学年の変更が必要 (火)=1年→3年へ (水)=3年→2年へ (木)=2年→1年へ</p> <p>●2年と3年は、6時間作業の午前中がカフェ、製パンとなる。↓</p> <p>○しかし数年前まで「6時間作業の午前中がカフェ、製パン」だったため、デメリットとはいえない。</p> <p>●全学年家庭科で前日5~6校時の作業が、軽量などに使えなくなる。</p>	<p>○終日作業が6時間維持できる。</p> <p>○全校的な時間割変更は不要。</p> <p>△(月)4校時は、教場が教室となる。</p> <p>○1クラスずつ学習ができる。</p> <p>○全学年家庭科で、前日5~6校時の作業が、軽量などに使える。</p> <p>○製菓の題材時期(3学期に2~3回)のみ、4時間作業とすれば解消。</p>	<p>○終日作業が6時間維持できる。</p> <p>○全校的な時間割変更は不要。</p> <p>○教場をPC教室とできる。</p> <p>●2クラス合同だと、指導者の目が行き届かない。ST2名必要</p> <p>○全学年家庭科で、前日5~6校時の作業が、軽量などに使える。</p> <p>●(月)福祉科の製菓の日が3時間作業となる。↓ 十分な学習が不可。</p> <p>○製菓の題材時期(3学期に2~3回)のみ、4時間作業とすれば解消。</p>
ウ 教務業務量	⊖△やや負担増	○現行と同じ	⊖△やや負担増	○現行と同じ	○現行と同じ	⊖△やや負担増	○現行と同じ
エ 「家庭と外国語」の維持	●△崩れるが調整は可(調理学習2時間連続の際の調整が複雑化)	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)	●△崩れるが調整は可(調理学習2時間連続の際の調整が複雑化)	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)	●△不可だが調整は可(調理学習2時間連続の際の調整が複雑化)	○崩さずに実施可。(調理学習2時間連続の際の複雑化回避)
オ 1日の授業時数	○最大3時間	○最大3時間			○最大3時間	○最大3時間	○最大3時間
カ 終日作業	○6時間維持できる	○6時間維持できる	△5時間だけが維持できる	△5時間だけが維持できる	○6時間維持できる	○6時間維持できる	○6時間維持できる
カ' 作業学習日別時数	●毎回時数が変わる ・月曜=6時間 ・水曜=3時間 ・木曜=4時間	●毎回時数が変わる ・月曜=6時間 ・水曜=3時間 ・木曜=4時間	○固定できる ・月曜=4時間 ・水曜=5時間※ ・木曜=4時間 ※但し水は3時間の場合あり	○固定できる ・月曜=4時間 ・水曜=5時間※ ・木曜=4時間 ※但し水は3時間の場合もあり	●毎回時数が変わる ・月曜=4時間 ・水曜=6時間 ・木曜=3時間	●毎回時数が変わる ・月曜=3時間 ・水曜=6時間 ・木曜=4時間	●毎回時数が変わる ・月曜=3時間 ・水曜=6時間 ・木曜=4時間
キ 担当者の担当時数	○週7時間(平均的)	○週4時間 △ただし ST2名必要	○週7時間(平均的)	○週4時間 △ただし ST2名必要	○週4時間 △ただし ST2名必要	○週7時間(平均的)	○週4時間 △ただし ST2名必要
ク 国数の学習の系統性	○維持できる	○維持できる	○維持できる	○維持できる	○維持できる	○維持できる	○維持できる

※Dが可能なら除外

※Dが可能なら除外

あ と が き

来る5月に感染症法上の分類が見直されることになり、もうすぐ3年にも及んだコロナ禍の転換期が訪れようとしています。この3年間、私たちは今まで経験したことのない先行き不透明な状況の中、様々な対応や対策を講じ、生徒の健康安全と学びの保障の両立を図ってきました。また、コロナ禍と並行し、令和の日本型学校教育の構築、新学習指導要領の実施生徒指導提要の改訂など教育の動向も激変しました。新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備が進められ、生徒がいかに主体的・対話的に学ぶことができるか私たちには技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止めることが求められています。このようなことから、今がまさに学校教育にとっても大きな転換期であると思います。

今年度の校内研究は、第6次研究計画（3か年）の1年次にあたり、『時代と社会の変化に敏感に対応できる力を高める実践的研究』を主題として、計6グループに分かれて研究課題について検証し、このたび研究集録としてまとめることができました。研究集録の発行に先立ち、過日、校内研究交流会を行いました。キャリア教育における「キャリアカウンセリングシート」、「自己診断シート」の改訂案の作成など具体物としての成果や、授業づくりにおける「実現したい子どもの姿をイメージしたピクトグラムを活用した指導計画」に肯定的な見方が示されました。一方で、観点別評価基準の精査、道徳教材の整備、実用的な指導略案の作成など具体的課題を共有するとともに、学習指導及び生徒指導をする前提として、改めて私たち一人一人が障がい特性に対する理解を深め、生徒を多角的に捉えることの重要性を再認識することができました。

今後、校内研究を深化させ、効果的な指導及び教育の質の向上につなげるためには、このことを足がかりとして、自身の価値観や指導方法などを見つめ直し、指導力（授業力）及び専門性の向上を図ることが重要です。また授業及び様々な取組の評価を確実・適切に行い、個人及び組織としてのPDCAサイクル（短期・長期）を十分に機能させ課題改善を図ることが不可欠であると考えます。

本校は、令和5年度に開校15周年を迎えます。更なる学校の活性化、魅力化に向けて、開校時から続く地域の教育力を生かした特色ある教育課程を充実させ、様々な人とのつながりを強固にしながら新たな学校文化を創り出し、地域とともにある学校づくりを推進していきます。

皆様方には、この研修集録第14号「躍動」を御高覧いただき、忌憚のない御意見をいただきましたら幸いです。

令和5年3月 北海道小樽高等支援学校教頭 林 英 孝

執筆者一覧

はじめに 校長 児玉倫政

1 校内研究の概要

第6次研究の概要 教諭 山末 隆

第6次研究計画（1年目）

2 研究の成果と課題

グループ研究の成果と課題

①ICTグループ 教諭	山田真実
②指導法グループ 教諭	奥山麻衣
③観点別評価グループ 教諭	富加見洋子
④キャリア教育グループ 教諭	小谷明日香
⑤道徳グループ 教諭	長田正勝
⑥授業づくりグループ 教諭	高橋朋子

第6次研究（1年目）のまとめ（成果と課題） 教諭 山末 隆

3 寄宿舍の研究

第5次研究（1年目）の成果と課題 寄宿舍指導員 藤原真紀

4 校内研究に関連した取組

第44回北海道特別支援教育研究協議会全道研究大会

夏季校内研修会

ICT校内研修会①②③

冬季校内研修会

校内研究交流会

教育課程検討委員会の取組

教科情報の履修方法について

学校経営計画の各学年経営計画・学科経営計画の見直しについて

あとがき 教頭 林 英孝

執筆者一覧

共同研究者

研究集録バックナンバー 主な内容一覧 〈原点回帰〉

号	主題	体制	主な内容	研究成果等
1 H21 2009	第1次 社会動向を 踏まえた職 業教育の実 践的研究	全体 学科 教科 研究係	●学校経営の基本理念●本校のキャリア教育の押さえ●各学科の教育課程BasicPlan、年間指導計画●各教科の教育課程BasicPlan、年計●公開研究会①〈公開授業、分科会〉	●キャリア教育全体推進計画試案●キャリア発達を支援する内容表、指導内容、チェックリスト試案
2 H22 2010		学科 教科	●個別の教育支援計画作成の検証、本人・保護者のニーズの把握、支援するチェックリストの活用、目標設定の考え方●教育課程BasicPlan、シラバス（学習計画表）の作成●体験活動（地域の教育力）●公開研究会②〈公開授業、分科会〉	●教育課程BasicPlan ●各教科のシラバス ●地域の教育力の活用事例
3 H23 2011		学科 教科	●キャリア教育全体推進計画改善●仮称OKSライフキャリアプラン作成、活用（事例）●教育課程BasicPlanの整理●シラバスの充実●総合的な学習の時間の整理●体験活動の充実●ICFの視点での授業づくり●公開研究会③〈公開授業、分科会〉	●キャリア教育全体計画2011●OKSライフキャリアプラン ●教育課程BasicPlan ●各教科シラバス●寄宿舎の研究開始
4 H24 2012	第2次 自己有用感 をもって、 生き生きと 活動する生 徒を目指し て	学科 教科	●シラバスと年間指導計画の検討 ●自己有用感を高める指導の工夫 ●教科等の特徴的な取組 ●自己有用感について卒業生へ調査① ●公開研究会④～暴風雪のため中止	●自己有用感を高める指導のポイント ●校内向けに研究発表会の実施（ポスター発表など）
5 H25 2013		学科 教科	●シラバスと年間指導計画の充実 ●自己有用感を高める指導の工夫についての授業研究●進路学習におけるキャリアカウンセリング●自己有用感について卒業生へ調査② ●公開研究会⑤（公開授業、ポスター発表、全体会、講演会）	●改訂教育課程Basic Plan ●改訂各教科シラバス ●作業学習と道德、自立活動の関連
6 H26 2014	第3次 社会で生き 抜く力を高 める実践的 研究	各学年 テーマ別 に4グル ープ	●①生徒像・教職員像、②授業づくり、③生徒理解と指導法、④進路学習の4つのテーマ別に研究 ●自己有用感について卒業生へ調査③ ●公開研究会⑥（公開授業、ポスター発表Ⅰ・Ⅱ）	●進路学習と各教科との関連一覧 ●生徒像、教職員像の整理●社会生活に結び付く指導内容
7 H27 2015		学年 学科	●事例研究～障がいの理解と実態把握、効果的な指導法、授業力を高める●授業研究～生徒向けシラバスの作成など●自己有用感について卒業生へ調査④●校内研究交流会	●生徒向けシラバス ●事例研究5本
8 H28 2016		学科 教科	●シラバスの見直し、基底となる学習計画の作成 ●年間指導計画の見直し ●アクティブラーニングと合理的配慮を踏まえた授業づくり ●校内研究交流会（冬休み中）	●資料 合理的配慮 ●資料 アクティブラーニング ●上記のチェックリスト

9 H29 2017	第4次 生徒の二 スや教育動 向を踏まえ、 授業の改善 ・充実をめ ざす実践的 研究	学科	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒像の再検討、新しい作業種の開発、自己有用感を高める指導、主体的・対話的で深い学びの追求 ●基底となる指導計画の作成 ●校内研究交流会（冬休み中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●新カリキュラムの基底となる指導計画 ●学科生徒の目指す生徒像
10 H30 2018		教科	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の課題の検討 ●地域の教育力を生かした取組 ●ICTを活用した教育活動 ●新学習指導要領の理解 ●授業研究 ●10周年記念公開研究会⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料 観点別学習状況の評価と歴史 ●分かる授業の工夫
11 H31R1 2019	第5次 学習指導要 領等の教育 動向を踏ま え、教育課 程の見直し と授業の充 実をめざす 実践的研究	課題別6 グループ （縦割り）	<ul style="list-style-type: none"> ●①教材開発、②事例研究、③授業研究、④文献研究、⑤調査研究、⑥教育課程検討の6つのテーマごとに ●校内研究交流会（冬休み中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領の目標・内容一覧 ●卒業生アンケート改訂版 ●人材バンク
12 R2 2020		調査研究 教科7 作業学習 5	<ul style="list-style-type: none"> ●自己有用感について卒業生へ調査⑤ ●本校における資質・能力の検討 ●学習評価の在り方の検討 ●校内研究交流会（冬休み中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の教育課程の考え方（新指導要領） ●各教科の評価規準 ●道徳全体計画 ●特別活動全体計画
13 R3 2021		教科10 作業学習 5	<ul style="list-style-type: none"> ●「対話スタイル」の授業づくり ●コミュニケーションスキルとチェックシート ●教育課程ベーシックプランの改訂 ●基底となる指導計画の様式改善 	<ul style="list-style-type: none"> ●各教科等の評価規準の具体化例 ●個別の指導計画の改訂 ●手立て一覧ほか
14 R4 2022	第6次 時代と社会 の変化に敏 感に対応で きる力を高 める実践的 研究	課題別6 グループ （縦割り）	<ul style="list-style-type: none"> ●①ICT ②指導法 ③観点別評価 ●④キャリア教育 ⑤道徳 ⑥授業づくり ●校内研究交流会（夏休み・冬休み中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●文献研究による活用できる各種情報 ●改訂ベーシックプラン ●基底となる指導計画新様式 ●教科 情報の履修の見直し ●学校経営計画等の見直し

共同研究者

校長 児玉 倫政 副校長 岩佐 延寿
 教頭 林 主幹教諭 大谷 幸枝

奥内岡岩香小齋鈴俵佐々内永牟長濱松平	村山田川城松藤木藤嶋禮田谷本賀賀	亮乃一巳望直名和香和剛喜子勝もん子一紀	石梅小大浅小鈴関志田高新前奈山横山木	川本谷西井野木川賀村橋山川良森堀末村	賢邦明日要氣薰紀視弘奈子か瓦高菜子隆介	大野川本滝保田加見山早松木澤上谷崎田本	浩達大尚彰裕洋桃正智美直尚有真あゆみ	子也樹孝子美子果輝也彩也子理惠実み	植上奥菊小今藤福岡佐々兼富茶中中山港	田村山田蕎野卷澤本木平山谷村野田	幸麻ひろ也将さ千未み優怜泰洋美宏詩	衛教衣み知之つき晴有き華奈久穗二織
--------------------	------------------	---------------------	--------------------	--------------------	---------------------	---------------------	--------------------	-------------------	--------------------	------------------	-------------------	-------------------

岡伊松中松	崎藤本井井	有成典仁由	治美幸志紀	田田外長櫻	口中館岡田	真由美利ゆみ子夫	岡北原中	達也環敦	徹也	高遠成藤	木藤田原	陽耕奈真	介一美紀
-------	-------	-------	-------	-------	-------	----------	------	------	----	------	------	------	------

躍動 研究集録 第14号

令和5年4月27日発行

発行者

北海道小樽高等支援学校長 児玉 倫政

〒047-0261 小樽市銭函1丁目10番1号

TEL (0134) 61-3400 FAX (0134) 61-3430

URL <http://www.otarukoushi.hokkaido-c.ed.jp>

E-mail otarukoushi-z0@hokkaido-c.ed.jp

